

CA SYSVIEW® Performance Management

インストール ガイド

リリース 13.9



このドキュメント（組み込みヘルプシステムおよび電子的に配布される資料を含む、以下「本ドキュメント」）は、お客様への情報提供のみを目的としたもので、日本CA株式会社（以下「CA」）により隨時、変更または撤回されることがあります。

CAの事前の書面による承諾を受けずに本ドキュメントの全部または一部を複写、譲渡、開示、変更、複本することはできません。本ドキュメントは、CAが知的財産権を有する機密情報です。ユーザは本ドキュメントを開示したり、(i) 本ドキュメントが関係するCAソフトウェアの使用についてCAとユーザとの間で別途締結される契約または(ii) CAとユーザとの間で別途締結される機密保持契約により許可された目的以外に、本ドキュメントを使用することはできません。

上記にかかわらず、本ドキュメントで言及されているCAソフトウェア製品のライセンスを受けたユーザは、社内でユーザおよび従業員が使用する場合に限り、当該ソフトウェアに関連する本ドキュメントのコピーを妥当な部数だけ作成できます。ただしCAのすべての著作権表示およびその説明を当該複製に添付することを条件とします。

本ドキュメントを印刷するまたはコピーを作成する上記の権利は、当該ソフトウェアのライセンスが完全に有効となっている期間内に限定されます。いかなる理由であれ、上記のライセンスが終了した場合には、お客様は本ドキュメントの全部または一部と、それらを複製したコピーのすべてを破棄したことを、CAに文書で証明する責任を負います。

準拠法により認められる限り、CAは本ドキュメントを現状有姿のまま提供し、商品性、特定の使用目的に対する適合性、他者の権利に対して侵害のないことについて、黙示の保証も含めいかなる保証もしません。また、本ドキュメントの使用に起因して、逸失利益、投資損失、業務の中断、営業権の喪失、情報の喪失等、いかなる損害（直接損害か間接損害かを問いません）が発生しても、CAはお客様または第三者に対し責任を負いません。CAがかかる損害の発生の可能性について事前に明示に通告されていた場合も同様とします。

本ドキュメントで参照されているすべてのソフトウェア製品の使用には、該当するライセンス契約が適用され、当該ライセンス契約はこの通知の条件によっていかなる変更も行われません。

本ドキュメントの制作者はCAです。

「制限された権利」のもとでの提供：アメリカ合衆国政府が使用、複製、開示する場合は、FAR Sections 12.212、52.227-14 及び 52.227-19(c)(1)及び(2)、ならびに DFARS Section 252.227-7014(b)(3) または、これらの後継の条項に規定される該当する制限に従うものとします。

Copyright © 2013 CA. All rights reserved. 本書に記載された全ての製品名、サービス名、商号およびロゴは各社のそれぞれの商標またはサービスマークです。

CA Technologies 製品リファレンス

このマニュアルでは、以下の CA 製品を参照します。

- CA Datacom®/DB (CA Datacom/DB)
- CA Datacom® CICS Services (CA Datacom CICS Services)
- CA Insight™ Database Performance Monitor for DB2 for z/OS (CA Insight for DB2)
- CA Chorus™ Software Manager (CA MSM)
- CA Roscoe® Interactive Environment (CA Roscoe)
- CA Common Services™ (CCS)
- CA ACF2™ for z/OS
- CA Top Secret® for z/OS (CA Top Secret for z/OS)
- CA Easytrieve® Report Generator (CA Easytrieve RG)
- CA SYSVIEW® Performance Management (CA SYSVIEW PM)
- CA SYSVIEW® Performance Management CA Datacom® Option (CA SYSVIEW PM CA Datacom Option)
- CA SYSVIEW® Performance Management Option for CICS (CA SYSVIEW PM Option for CICS)
- CA SYSVIEW® Performance Management Option for IMS (CA SYSVIEW PM Option for IMS)
- CA SYSVIEW® Performance Management Option for TCP/IP (CA SYSVIEW PM Option for TCP/IP)
- CA SYSVIEW® Performance Management for CA APM (CA SYSVIEW for CA APM)
- CA MIM™ Resource Sharing (CA MIM RS)
- CA NSM
- CA Service Desk (CA SD)
- CA SymDump® System (CA SymDump)

CAへの連絡先

テクニカルサポートの詳細については、弊社テクニカルサポートの Web サイト (<http://www.ca.com/jp/support/>) をご覧ください。

マニュアルの変更点

以下のマニュアルの更新は、本書の前回のリリース以降に行われたものです。

- Pax インストールのための SMP/E 環境の準備 -- ガイドから削除されました。
- Pax インストール用のインストールジョブの実行 -- ガイドから削除されました。
- テープからの製品のインストール - ガイドから削除されました。
- 「[ソフトウェア要件 \(P. 19\)](#)」セクションを更新しました。
- 「[GMI ソフトウェア要件 \(P. 21\)](#)」セクションを更新しました。
- 「[使用可能なコンポーネント \(P. 26\)](#)」セクションを更新しました。
- [CA MSM を使用した製品のインストール \(P. 37\)](#) -- 注記を追加しました。
- Pax-Enhanced ESD からの製品のインストール - 「[Pax ESD または DVD を使用した製品のインストール \(P. 47\)](#)」の章と置き換えられました。
- DVD からの製品のインストール - 「[Pax ESD または DVD を使用した製品のインストール \(P. 47\)](#)」の章と置き換えられました。
- 「[インストールライブラリのアンロード \(P. 61\)](#)」セクションを更新しました。
- 「[ESD または DVD インストールによる出力 \(P. 78\)](#)」セクションを更新しました。
- 「[z/FS リリース依存データセットの割り当ておよびマウント \(INST0002\) \(P. 79\)](#)」セクションを更新しました。
- 「[予防保守の適用 \(P. 83\)](#)」セクションを更新しました。
- 「[GSVIIINST マクロ - INSTALL パラメータの設定 \(P. 98\)](#)」セクションを更新しました。
- 「[システム parmlib へのシステム環境設定オプションのコピー \(INST0011\) \(P. 116\)](#)」セクションを更新しました。
- 「[システム環境設定オプション \(P. 117\)](#)」セクションを更新しました。
- 「[システム リンケージインデックスおよび ASID 再利用 \(P. 184\)](#)」セクションを更新しました。
- 「[データ移行の情報 \(P. 191\)](#)」の章を更新しました。

目次

第 1 章: 概要	11
CA SYSVIEW の概要	11
CA SYSVIEW サーバの概要	12
対象読者	12
インストール処理の実行	13
他の CA 製品との統合	15
第 2 章: インストールの準備	17
インストールの準備	17
ソフトウェア要件	19
CA Common Services の要件	20
CA Insight for DB2	20
GMI ソフトウェア要件	21
IBM REXX ライブラリの要件	21
セキュリティの要件	22
ストレージ要件	22
複数リリースの同時インストール	23
メモリ要件	24
使用可能なオプション	24
使用可能なコンポーネント	26
IBM RMF	27
IMS API のアクセスおよび呼び出し	28
MVS/QuickRef インターフェースへのアクセス	29
CA Common Services for z/OS コンポーネント	29
製品のライセンス	32
KEYS メンバ - 実行キーの追加	32
コンポーネントおよびオプションを有効にする方法	36
第 3 章: CA CSM を使用した製品のインストール	37
CA CSM を使用して製品をインストールする方法	37
Web ベース インターフェースを使用した CA CSM へのアクセス	39
製品の取得方法	40
製品のインストール方法	41

製品メンテナンスを適用する方法.....	44
製品の展開方法.....	44
製品の設定方法.....	45
第 4 章: Pax ESD または DVD を使用した製品のインストール	47
Pax ファイルを使用して製品をインストールする方法.....	47
USS 環境のセットアップ	48
ファイルシステムの割り当ておよびマウント	49
製品 Pax ファイルの取得	52
Pax ESD 使用による PC へのファイルのダウンロード	53
バッチ JCL を使用したダウンロード	54
PC を経由するメインフレームへのファイルのダウンロード	57
Pax ファイルからの製品ディレクトリの作成.....	58
例：カスタマイズ用の JCL ファイル (Unpackage.txt)	59
z/OS データセットへのインストールファイルのコピー	60
インストールライブラリのアンロード	61
INSTALL ジョブの変更および実行	63
GSVIIINST マクロ - INSTALL パラメータの設定	65
ESD または DVD インストールからの出力	78
ライブラリの削除、割り当て、初期化 (INST0001)	78
z/FS リリース依存データセットの割り当ておよびマウント (INST0002)	79
SMP/E の RECEIVE、APPLY および ACCEPT 機能 (INST0003)	81
ランタイム ライブラリの作成 (INST0004)	81
ランタイム SITE ライブラリの作成 (INST0005)	82
USS ディレクトリのクリーンアップ	82
予防保守の適用	83
HOLDDATA	86
第 5 章: 製品の開始	91
展開を準備する方法.....	91
IBM APAR の APPLY	91
他のジョブの実行	91
CA CSM による展開の完了方法	92
CA CSM によりカスタマイズされる起動 JCL プロシージャ	92
CA CSM を使用せずに展開する方法	92
CA CSM を使用して設定を完了する方法	94
CA CSM なしで設定する方法	94
製品設定用のサンプル JCL	95

INSTALL ジョブの変更および実行	96
ランタイム ライブラリの作成 (INST0004)	113
ランタイム SITE ライブラリの作成 (INST0005)	114
システム情報ユーティリティ GSVCUTIL の実行 (INST0010)	115
システム PARMLIB へのシステム環境設定オプションのコピー (INST0011)	116
MVS 制御ブロック マップのアセンブル (INST0013)	132
JES 構成名テーブルの更新	133
JES 構成モジュールのアセンブルおよびリンク (INST0020)	137
JES 制御ブロック マップのアセンブル (INST0021)	139
Event Capture インデックスデータセットの初期化 (INST0030)	140
IMOD データセットの定義およびロード (INST0031 - INST00321)	141
ログストリームの定義 (INST0040 - INST0046)	141
セキュリティデータセットの変換 (INST0050)	165
プロファイルデータセットの変換 (INST0051)	168
CICS テーブルの更新 (INST0060)	170
CICS オブジェクトメンバのリンクエディット (INST0061)	178
CICS JCL の更新	179
動的なインストールユーティリティを実行します (INST0100)	180
サンプルライブラリへのインストールメンバのコピー (INST0110)	181
デフォルト SSID のアセンブルおよびリンク (USRM0001)	182
製品の開始準備	182
ASID の増加 (オプション)	183
SVC および LPA モジュールのシステムへの追加 (オプション)	185
ロードライブラリに対する APF 許可	186
LOGR EXIT および Linklist のセットアップ	186
システム プロシージャ ライブラリへのスタートアップ手順の追加	187
製品の開始	188
インストール後の考慮事項	188

第 6 章: データ移行の情報	191
製品システム設定オプション	191
製品サブシステム	192
ライブラリ連結	193
ライブラリ連結におけるデータセットの適合性	194
INSTALL ジョブの更新	196
JES 定義	196
テンプレートデータセット	197
ユーザ異常終了および理由コード	197
プロファイル変換	198

セキュリティデータセットの変換	199
付録 A: CCS for z/OS コンポーネントの要件	201
FMID	201
CA LMP (ライセンス管理プログラム)	201
IBM Health Checker へのインターフェース	202
CA zIIP 有効化サービス	202
付録 B: インターフェース オプション	205
TSO および CA Roscoe/ETSO インターフェースのサポート	205
CA Roscoe/ETSO からの CA SYSVIEW へのアクセス	205
ISPF インターフェースのサポート	206
ISPF サポートの永続的なインストール	206
ISPF サポートの動的なインストール	208
VTAM インターフェースのサポート	208
VTAM サポートのインストール	208
CICS インターフェースのサポート	210
CICS ユーザ ID EXIT ルーチン	210
セキュリティシステムを使用するための EXIT の変更	211
CICS トランザクション終了 EXIT ルーチン	211
トランザクション終了 EXIT の変更	211
コンソールインターフェースのサポート	212
CA GSS が CA SYSVIEW と通信を行う仕組み	212
コンソールインターフェースの有効化	213
コンソールインターフェースのカスタマイズ	213
ローカル 3270 デバイスインターフェースのサポート	214
バッチインターフェースのサポート	214

第1章：概要

このガイドでは、CA SYSVIEW をインストールおよび実装する方法について説明します。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

- [CA SYSVIEW の概要 \(P. 11\)](#)
- [CA SYSVIEW サーバの概要 \(P. 12\)](#)
- [対象読者 \(P. 12\)](#)
- [インストール処理の実行 \(P. 13\)](#)
- [他の CA 製品との統合 \(P. 15\)](#)

CA SYSVIEW の概要

CA SYSVIEW は、z/OS システム環境でパフォーマンスの監視および管理を行うツールです。オペレータ、システムプログラマ、パフォーマンスアナリストおよびエンドユーザは、以下のリソースを監視および管理することができます。

- z/OS
- JES2
- JES3
- DB2
- CICS
- IMS
- CA Datacom/DB
- TCP/IP
- WebSphere MQ

注: 製品コンポーネントとオプションの詳細については、CA SYSVIEW オンラインヘルプを参照してください。他の疑問点については、<http://ca.com/support> にアクセスして「SYSVIEW」で検索するか、または Solutions、Product Solutions、Enterprise Systems Management、Server Management、Systems Management for z/OS の順で目的のページに移動してください。

CA SYSVIEW サーバの概要

CA SYSVIEW Server は、他の CA ソフトウェア製品へデータを提供するよう に設計されています。すべてのユーザが CA SYSVIEW Server を実行できます。

SYSVIEW 3270 インターフェースは、CA SYSVIEW Server のユーザのみが使用 できます。機能は限定されています。

ライセンス取得済みオプションのいずれかで CA SYSVIEW を実行中の場合、 CA SYSVIEW のサーバ機能は自動的に利用可能になります。 CA SYSVIEW の 複数のコピーは必要ありません。

ライセンス オプション：

- CA SYSVIEW CA Datacom Option
- CA SYSVIEW Option for CICS
- CA SYSVIEW Option for IMS
- CA SYSVIEW Option for TCP/IP
- CA SYSVIEW for CA APM
- Event Capture
- WebSphere MQ
- z/OS

対象読者

このガイドは、以下の分野について知識のある読者を対象としています。

- JCL
- TSO/ISPF
- z/OS 環境、この環境へのソフトウェアのインストール
- 自社の IT 環境、エンタープライズ構造、領域構造

必要に応じて、以下の担当者にご相談ください。

- システムプログラマ (z/OS および VTAM 定義に関して)
- ストレージ管理者 (DASD 割り当てのため)

インストール処理の実行

CA Technologies にはすべてのメインフレーム製品にわたって標準化された製品インストールがあります。インストール手順は以下のとおりです。

- 取得 - ソフトウェアをユーザの z/OS システムに転送します。
- SMP/E を使用したインストール - SMP/E 環境を構築し、RECEIVE、APPLY、および ACCEPT の手順を実行します。ソフトウェアはカスタマイズされていません。
- 展開 - 別のシステムまたは LPAR にターゲットライブラリをコピーします。
- 設定 - ソフトウェアを実行可能状態にし、カスタマイズされたロードモジュールを作成します。

CA Chorus™ Software Manager (CA CSM) は、以前に CA Mainframe Software Manager™ (CA MSM) と呼ばれていたものです。これは、z/OS システムにおいて各種の CA Technologies 製品インストールアクティビティの自動化および簡略化ができる直観的な Web ベースのツールです。また、このアプリケーションにより、修正および推奨メンテナンスの取得と適用が容易になります。Web ベースインターフェースにより、より速く、より少ない失敗で製品のインストールとメンテナンスが可能になります。ベストプラクティスとして、CA CSM を使用してメインフレーム製品およびメンテナンスをインストールすることが推奨されます。CA CSM を使用すると、JCL および SMP/E に関する経験が少ないユーザでも製品をインストールできます。

注: CA CSM をお持ちでない場合は、Download Center (<http://ca.com/jp/support>) からダウンロードできます。CA Chorus Software Manager 製品ページの CA Chorus Software Manager ドキュメントのマニュアル選択メニューにあるインストール手順に従ってください。

また、pax ファイルを使用して、標準化されたインストールプロセスを手動で実行することもできます。このファイルは、<http://ca.com/jp/support> または製品 DVD からダウンロードできます。

製品をインストールするには、以下の手順に従います。

1. インストールの準備を行い、お使いのサイトがインストール要件をすべて満たしていることを確認します (P. 17)。
2. 以下のいずれかの方法で製品を取得したことを確認します。
 - ソフトウェアを <http://ca.com/jp/support> からダウンロードする (CA CSM を使用)。
 - ソフトウェアを <http://ca.com/jp/support> からダウンロードする (Pax-Enhanced Electronic Software Delivery (Pax ESD) を使用)。
 - 製品 DVD を注文する。その場合は、担当のアカウントマネージャまたは CA Technologies サポート担当者にご連絡ください。
3. 以下のいずれかの方法で、SMP/E インストールを実行します。
 - CA CSM を使用して製品を取得した場合は、CA CSM の [SMP/E Environments] タブからインストールプロセスを開始します。
 - Pax ESD を使用して製品を取得した場合は、以下の方法で製品をインストールできます。
 - 製品を手動でインストールします。
 - CA CSM の Add Product オプションを使用して SMP/E をインストールします。
 - DVD を使用した場合は、製品を手動でインストールします。
- 注: ご使用の製品に CA Recommended Service (CA RS) パッケージが発行されている場合は、展開を続行する前にそのパッケージをインストールしてください。
4. 以下のいずれかの方法で、ターゲットライブラリを展開します。
 - CA CSM を使用して製品を設定する場合は、CA CSM の展開が必要です。
 - 手動の設定プロセスを使用する場合は、手動の展開手順を選択できます。
- 注: 展開は製品の開始の一部と見なされます。
5. CA CSM を使用するか、または手動で製品を設定します。
- 注: 設定は製品の開始の一部と見なされます。

他の CA 製品との統合

以下の CA 製品が CA SYSVIEW と統合されます。

- CA NSM

CA NSM とのインターフェースを通じて、CA SYSVIEW のデータ収集機能を使用可能です。このインターフェースは TCP/IP 通信テクノロジを使用しています。

- CA Service Desk

CA Service Desk がインストールされている場合、製品の予期しない異常終了時に CA SYSVIEW が CA Service Desk リクエストを開始するよう許可することができます。この機能により、確認された問題が組織内で迅速に記録および通知されます。その結果、システムパフォーマンスの監視に影響する可能性のある CA SYSVIEW のより深刻な問題が発生する前に、そうした状況に対処できます。

注: 詳細については、CA Service Desk のマニュアルを参照してください。

- CA OPS/MVS

CA OPS/MVS がインストールされている場合、CA SYSVIEW は CA OPS/MVS にイベント通知を送ることができます。

- CA SymDump System

CA SymDump System は、ダンプ キャプチャ中の診断レポートの生成に CA SYSVIEW テクノロジを使用します。任意の CA SYSVIEW コマンドからの出力をキャプチャして、ダンプ データ セットに書き込み、後で参照することができます。CA SymDump System ライブラリのレポート制御文を使用すると、各タイプのダンプについてどのレポートを作成するかを詳細にコントロールできます。CA SymDump System は、CA Common Services for z/OS の GSS コンポーネントを使用して CA SYSVIEW と通信します。ダンプのキャプチャおよび表示を行う前に GSS をインストールします。

- CA APM

CA SYSVIEW と CA APM の統合により、以下の機能が提供されます。

- CICS トランザクション追跡

CA SYSVIEW は CA APM のトランザクション追跡を CICS まで拡張します。これにより、エンドツーエンドでの可視性が高まり、トランザクションパフォーマンスの問題を迅速に特定することができます。

- Introscope ダッシュボード

CA SYSVIEW と CA APM 間のダッシュボード統合により、メインフレーム統計とメトリックが CA APM バスにもたらされます。ダッシュボードにより、メインフレームおよびほかの管理されたプラットフォームからのデータを左右に並べて表示できるようになります。

第2章：インストールの準備

このセクションでは、製品をインストールする前に必要な知識および作業について説明します。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[インストールの準備 \(P. 17\)](#)

[ソフトウェア要件 \(P. 19\)](#)

[CA Common Services の要件 \(P. 20\)](#)

[CA Insight for DB2 \(P. 20\)](#)

[GMI ソフトウェア要件 \(P. 21\)](#)

[IBM REXX ライブラリの要件 \(P. 21\)](#)

[セキュリティの要件 \(P. 22\)](#)

[ストレージ要件 \(P. 22\)](#)

[複数リリースの同時インストール \(P. 23\)](#)

[メモリ要件 \(P. 24\)](#)

[使用可能なオプション \(P. 24\)](#)

[使用可能なコンポーネント \(P. 26\)](#)

[IBM RMF \(P. 27\)](#)

[IMS API のアクセスおよび呼び出し \(P. 28\)](#)

[MVS/QuickRef インターフェースへのアクセス \(P. 29\)](#)

[CA Common Services for z/OS コンポーネント \(P. 29\)](#)

[コンポーネントおよびオプションを有効にする方法 \(P. 36\)](#)

インストールの準備

インストールを開始する前に、以下の項目を確認してください。

- 前のリリース後に作成された新機能および拡張機能を把握するには、「リリースノート」に目を通してください。
- 念のために、テスト環境を使用して製品およびそのコンポーネントをインストールし、事前評価を行います。このテストによって、他のベンダー製品との競合が検出される可能性があります。
- どのオプションおよびコンポーネントをインストールし、有効にするかを決定します。
- 前提条件およびシステム要件がすべて満たされていることを確認します。

- CA SYSVIEW RMF コンポーネントが正常に動作するには、IBM の RMF（リソース管理機能）がインストールされている必要があります。RMF コンポーネントは RMF からのデータを表示します。
- IBM REXX ライブラリ

SYSLOG、OUTPUT、IPCONFIG、IPSTATS、IPDEVICE コマンド、および DASHBOARD オブジェクトはコンパイルされた REXX プログラムを使用します。このプログラムには、以下のライブラリのいずれかが必要です。

 - Library for REXX on zSeries
 - Alternate Library for REXX

Alternate Library for REXX は無料であり、Library for REXX on zSeries を購入することなく、REXX のコンパイル済みコードを実行できます。Alternate Library for REXX は z/OS V1R9 に含まれています。また、次のリンクから利用可能です。

<http://www-01.ibm.com/software/awdtools/rexx/rexxzseries/altlibrary.htm>
- CA Common Services for z/OS のコンポーネントおよび機能を使用するには、以下の各コンポーネントに適用される要件が満たされていることを確認します。
 - CAIRIM
 - CAIRIM の CA LMP
 - CAICCI
 - CA GSS
 - CA Health Checker
 - CAIRIM の CA zIIP 有効化サービス
- 各 IPL の後に CA SYSVIEW が動的にインストールされる場合は、SYSVIEW メインアドレススター ティッド タスク プロシージャが CA GSS より先に開始されるようにします。SYSVIEW スター ティッド タスク プロシージャには、製品を動的にインストールする最初の手順が含まれています。
- SMP/E は CA SYSVIEW のインストール、保守、サービスを実行するためのツールです。SMP/E は、インストールされている要素の適切なレベルを選択し、システムユーティリティ プログラムをコールして変更をインストールし、これらの変更を記録します。

- CA SYSVIEW を開始できるようにするには、製品ライセンスを許可するために CA LMP ステートメントをコーディングします。
- CA SYSVIEW を開始できるようにするには、CAIRIM の CA LMP 機能を使用して CA SYSVIEW 機能を許可する必要があります。

ソフトウェア要件

CA SYSVIEW には、以下のソフトウェアが必要です。

オプション/コンポーネント	製品	サポート対象リリース	サポート終了
Base	z/OS	1.12, 1.13, 2.1	1.11
	JES2	1.12, 1.13, 2.1	1.11
	JES3	1.12, 1.13, 2.1	1.11
CICS (CA SYSVIEW Option for CICS)	CICS Transaction Server	3.1, 3.2, 4.1, 4.2, 5.1	なし
DATACOM (CA SYSVIEW CA Datacom Option)	CA Datacom	12.0, 14.0	11.0
	CA Datacom CICS Services	11.0, 14.0	なし
DB2 (CA SYSVIEW component for CA Insight for DB2)	データベース 2	9.1, 10.1	8.1
以下の製品が必要です。		14.0, 14.5, 15.0, 16.0, 17.0	なし
<ul style="list-style-type: none"> ■ CA Insight for DB2 ■ CA DB2 Tools Xmanager ■ CA DB2 Tools Xnet 			
IDMS (CA SYSVIEW for IDMS component)	IDMS	17.0.0, 17.0.1, 18.0.0, 18.5.0	なし
以下が必要です。			
<ul style="list-style-type: none"> ■ CA IDMS Performance Monitor 		18.5.0	
IMS (CA SYSVIEW Option for IMS)	IMS	11.1, 12.1, 13.1	10.1

オプション/コンポーネント	製品	サポート対象リリース	サポート終了
MQ (Option for WebSphere MQ)	Websphere MQ for z/OS	7.0.1, 7.1	6.0

CA Common Services の要件

以下の CA Common Services は CA SYSVIEW と共に使用されます。

- CAICCI
- CAIRIM
- CAIRIM の CA LMP
- CAIRIM の CAISSF
- CA GSS
- CA Health Checker Common Service
- CAIRIM の CA zIIP 有効化サービス

注: 他の CA 製品が環境にインストールされている場合、これらのサービスの一部がすでにインストールされている可能性があります。

CA Insight for DB2

コンポーネント CA SYSVIEW for CA Insight for DB2 を使用するには、以下のチェックを行います。

- 以下の製品がユーザのシステムにインストールされている。
 - CA Insight for DB2 バージョン 14.0.0 以降
 - CA DB2 Tools Xmanager バージョン 14.0.0 以降
 - CA DB2 Tools Xnet バージョン 14.0.0 以降
- XNET エージェントが開始するように設定されている。

GMI ソフトウェア要件

CA SYSVIEW CA Vantage GMI コンポーネントを使用するには、以下の製品がユーザのシステムにインストールされていることを確認してください。

- CA Vantage クライアント リリース 12.5.0 以降
 - CA Vantage リリース 12.6.0 以降
 - CA SYSVIEW ユーザ アドレス空間：
 - XSystem eXternal Session Server
このセッションサーバにより、ユーザセッションを確立するため外部サーバを使用して、CA SYSVIEW への CA Vantage GMI アクセスが提供されます。
 - CAICCI
このサービスにより、通信プロトコルが提供されます。
- 注: 詳細については、「Administration Guide」を参照してください。
- SYSLOG および OUTPUT オブジェクトには、IBM REXX ライブラリが必要です。

IBM REXX ライブラリの要件

REXX ライブラリは、以下で必要になります。

- IPCONFIG、IPSTATS および IPDEVICE コマンド
- コマンド DASHBOARD
- GMI の下の SYSLOG および OUTPUT オブジェクト

注: Alternate Library for REXX は無料であり、Library for REXX on zSeries を購入することなく、REXX のコンパイル済みコードを実行できます。Alternate Library for REXX は z/OS V1R9 に含まれています。また、次のリンクから利用可能です。

<http://www-01.ibm.com/support/Alternate REXX Library>

セキュリティの要件

CA SYSVIEW 内部セキュリティは、CA SYSVIEW と CA SYSVIEW コマンドおよびコマンド グループへのユーザアクセスを提供および制御します。

注: セキュリティ要件の詳細については、「*Security Guide*」を参照してください。

ストレージ要件

以下のストレージが利用可能であることを確認します。

- ESD インストールの場合、CA SYSVIEW 製品パッケージのダウンロード用に 30 シリンダ。
- インストールおよびセットアップする場合
 - インストール = 372 シリンダ
 - SMP/E 一時ライブラリ = 372 シリンダ

複数リリースの同時インストール

運用環境において、CA SYSVIEW の現在のリリースをインストールし、古いリリースも引き続き使用することができます。以前のリリースを引き続き実行する場合は、下記の点を考慮してください。

- 既存の SMP/E 環境へインストールする場合は、以前のリリースが削除されます。
- SVC モジュール GSVXSVC は後方互換性があります。CA SYSVIEW の旧リリースと SVC の共有を計画している場合は、以下の条件付きメンテナンスを適用します。
 - CA SYSVIEW 12.5 向け PTF RO25530
 - CA SYSVIEW 12.7 向け PTF RO25023
- ESD を有する製品を取得する場合は以下を行います。
 - 現在インストールされているリリースから別のターゲットゾーンを選択します。
 - 現在インストールされているリリースから別の配布ゾーンを選択します。

新しいゾーンは、旧リリースとは異なるライブラリを使用します。

注: CA CSM はデフォルトで新しい CSI に製品をインストールします。

- SMP/E が適切なインストールライブラリを参照するように、新しいゾーンの DDDEF エントリを定義します。 DDDFF エントリが新しいリリースライブラリを指していることを確認します。

メモリ要件

以下のメモリが利用可能であることを確認します。

- すべてのオプションがアクティブに設定されている 1208 KB のプライベート領域ストレージ。

このストレージのほとんどは 16 MB ラインを超える領域に割り当てられます。必要メモリの最大量は、どの製品コマンドが入力されるかに依存します。ページング可能なリンク パック領域に再入可能な CA SYSVIEW モジュールを配置することにより、プライベート領域ストレージの要件を減らすことができます。

- 1 KB の共通ストレージ域 (CSA)
- すべてのユーザに対して恒久的にすべてのオプションを有効にした 500 KB の拡張 CSA

他のアドレス空間から CA SYSVIEW アドレス空間にデータを転送する短い期間 (1 秒未満) 、追加の拡張 CSA が必要になります。

使用可能なオプション

インストール可能な CA SYSVIEW オプションが以下の表に表示されます。オプションのインストール後、それを有効にするかどうか選択できます。この表には、オプションを有効にするためにインストール中に指定する LMP コードおよび OPTIONS 値が含まれています。またこの表には、各オプションのインストールおよびカスタマイズ要件が含まれています。

オプション	オプションの値	LMP コード	インストールおよびカスタマイズの要件
Base (z/OS)	MVS	FU	インストール処理を完了してください。 追加のインストールまたはカスタマイズは必要ありません。
CA SYSVIEW Option for CICS	CICS	FV	インストール処理を完了してください。 CA SYSVIEW Option for CICS のインストール手順を完了します。

オプション	オプションの値	LMP コード	インストールおよびカスタマイズの要件
CA SYSVIEW CA Datacom Option	DATACOM	FW	インストール処理を完了してください。 追加のインストールまたはカスタマイズは必要ありません。 注: CA SYSVIEW CA Datacom Option アドレス空間の定義については、 「Administration Guide」を参照してください。
TCP/IP	TCPIP	JD	インストール処理を完了してください。 追加のインストールまたはカスタマイズは必要ありません。
CA SYSVIEW Option for IMS	IMS	PH	インストール処理を完了してください。 追加のインストールまたはカスタマイズは必要ありません。
CA SYSVIEW Option for WebSphere MQ	MQSERIES	JE	インストール処理を完了してください。 追加のインストールまたはカスタマイズは必要ありません。
CA SYSVIEW Event Capture Option	CAPTURE	2G	インストール処理を完了してください。 追加のインストールまたはカスタマイズは必要ありません。
CA Cross Enterprise APM	CEAPM	11	インストール処理を完了してください。 追加の手順は必要ありません。

詳細情報:

[コンポーネントおよびオプションを有効にする方法 \(P. 36\)](#)

使用可能なコンポーネント

インストール可能な CA SYSVIEW オプションが以下の表に表示されます。コンポーネントのインストール後、**COMPONENT** 値としてそれを有効にします。この表には、コンポーネントを有効にするためにインストール中に指定する LMP コードおよび **COMPONENT** 値が含まれています。またこの表には、各コンポーネントのインストールおよびカスタマイズ要件が含まれています。

注: コンポーネントのカスタマイズについては、「*Administration Guide*」に記述されている手順に従います。

コンポーネント	COMPONENT 値	LMP コード	インストールおよびカスタマイズの要件
CA MIM	MIM	FU	インストール処理を完了してください。追加のインストールまたはカスタマイズは必要ありません。
CA Roscoe	ROSCOE	FU	インストール処理を完了してください。 注: CA Roscoe モニタのインストールの詳細については、「 <i>Administration Guide</i> 」を参照してください。
CA SYSVIEW for DB2 CA Insight for DB2	DB2	IE	インストール処理を完了してください。追加のインストールまたはカスタマイズは必要ありません。 注: コンポーネント CA SYSVIEW for CA Insight for DB2 の設定に関する情報については、「 <i>Administration Guide</i> 」を参照してください。
Cross-System	XSYSTEM	FU	XSYSTEM および SYSNAMES parmlib メンバを確認し、インストール処理を完了してください。追加のインストールまたはカスタマイズは必要ありません。 注: 有効な parmlib メンバおよびコンポーネントのリストについては、「 <i>Administration Guide</i> 」を参照してください。
USS	USS	FU	インストール処理を完了してください。追加のインストールまたはカスタマイズは必要ありません。

コンポーネント	COMPONENT 値	LMP コード	インストールおよびカスタマイズの要件
IBM Health Checker	HCHECK	FU	追加のインストールまたはカスタマイズは必要ありません。

詳細情報:

[コンポーネントおよびオプションを有効にする方法 \(P. 36\)](#)

IBM RMF

CA SYSVIEW は、IBM Resource Management Facility (RMF) が CA SYSVIEW RMF 画面に提供するデータを使用します。 CA SYSVIEW ディスプレイのデータを収集するためには、RMF および RMF Monitor III がアクティブである必要があります。

IMS API のアクセスおよび呼び出し

一部の IMS コマンドは、IBM IMS ライブラリで配布される IMS API を呼び出すことにより、統計を収集します。

以下手順では、IMS API のアクセスおよび呼び出しついて説明します。

次の手順に従ってください:

1. IMS RESLIB を SYSVIEW STEPLIB に追加します。
API モジュールは IMS RESLIB にあります。
2. TSO から CA SYSVIEW を呼び出す場合は、RESLIB を USER アドレス空間 およびユーザ TSO ログオンプロセッサ STEPLIB に追加します。
3. 以下のコマンドを使用して IMS API を呼び出します。

IMSSPOC

Common Service Layer API を呼び出します。

IMSSLOGS

IMS DBRC API を呼び出します。

IMSQSTAT

Common Queue Server API を呼び出します。

IMSQSUM

Common Queue Server API を呼び出します。

IMSQTRAN

Common Queue Server API を呼び出します。

IMS API が呼び出され、IMS コマンドを使用して統計を収集できるようになりました。

注: 詳細については、「*IMS System Programming API Reference*」を参照してください。

MVS/QuickRef インターフェースへのアクセス

Chicago-Soft MVS/QuickRef 製品インターフェースは、CA SYSVIEW 製品メッセージへのアクセスを提供します。

次の手順に従ってください:

1. QUICKREF コマンドを発行します。
MVS/QuickRef データベースに問い合わせを行う、直接プログラム呼び出しが生成されます。 QUICKREF コマンドでは、ロードモジュールの標準の検索順序を使用して、MVS/QuickRef ロードモジュールが利用可能である必要があります。 MVS/QuickRef ロードライブラリが LNKLST 連結の一部でない場合は、手順 2 に移ります。
2. STEPLIB または TASKLIB に MVS/QuickRef ロードライブラリを追加します。
CA SYSVIEW ユーザ インターフェースのアドレス空間 (SYSVUSER) および TSO ユーザのアドレス空間の両方で、MVS/QuickRef アクセスを利用可能にする必要があります。

CA Common Services for z/OS コンポーネント

この製品をライセンスするのに必要な CA Common Services for z/OS コンポーネントを、以下のリストに示します。

注: CA Common Services for z/OS コンポーネントの詳細については、[テクニカル サポートの Web サイト](#) (P. 4) で CA Common Services for z/OS のドキュメントを参照してください。

CAIRIM

オペレーティングシステム環境ですべての CA アプリケーションのための準備が行われ、CA アプリケーションが起動されます。CAIRIM は、一連の動的初期化ルーチン用の共通ドライバです。ユーザ SVC、SMF EXIT、サブシステムなど、システムアプリケーションのインストール時に要求される一般的なインストール要件を不要にします。

CAIRIM の重要な 2 つの要素は、CAISSF と CA LMP です。

CAISSF

すべてのシステムリソースプロセスとアプリケーションリソースプロセスへの制御と監視アクセスのための外部セキュリティ機構が実現されます。CAISSF は、多くの CA エンタープライズアプリケーションに組み込まれており、ほかの CCS for z/OS サービスによっても使用されます。CAISSF により、ユーザログオン用のセキュリティサービス、リソースアクセス制御、プロセス使用制御、違反アクティビティの記録と監視が行われます。

CA LMP

CAIRIM の重要な要素として提供されています。CA LMP により、ライセンスされているソフトウェアの、標準化された自動トラッキング機能が実現されます。CAIRIM のインストール後に、すべての CA LMP サポート対象製品についてテクニカルサポートにアクセスできます。

CAICCI

CA エンタープライズアプリケーションに共通通信ソフトウェア層が提供されます。これにより、アプリケーションがプロトコルの詳細、エラー回復、システム接続の確立を処理しなくてもすみます。

CA GSS

CA GSS は、CA Common Services for z/OS の一部で、CA Common Services for z/OS と一緒にインストールされます。

本製品の機能の一部を最大限に活用するには、ご自分のサイトに CA GSS がインストールされている必要があります。CA GSS が必要な機能を以下に示します。

- システム状態モニタ (SCM)
- コンソールインターフェース
- しきい値超過時のシステム監視の自動化を行うための IMOD の使用

注: CA GSS のカスタマイズの詳細については、「*Administration Guide*」を参照してください。

CA Health Checker

IBM Health Checker for z/OS で動作するヘルスチェックを作成するために、CA 製品において容易で一貫性のある方法を提供します。IBM Health Checker for z/OS は、ユーザが推奨される設定を使用してシステムまたは製品のパラメータ、およびシステムステータスを調べることによって、z/OS 環境内で考えられる問題を特定する上で有用です。CA では、CA z/OS 製品に対するチェックの作成において、他のベンダーを追加しました。以下のコンポーネントがインストールおよび設定されているシステム上で製品が開始されると、CA SYSVIEW ヘルス チェックがターゲットシステム上で自動的にアクティブになります。

- CA Health Checker Common Service
- IBM Health Checker for z/OS

CA Health Checker Common Service のインストールの詳細については、「*CA Common Service インストールガイド*」を参照してください。

IBM Health Checker for z/OS の詳細については、「*IBM Health Checker for z/OS User Guide*」を参照してください。

製品のライセンス

本製品を使用する各システムに本製品のライセンスを交付するには、CA Common Services CA License Management Program (LMP) ステートメントを記述します。

次の手順に従ってください:

1. システムに CA Common Services CA Resource Initialization Manager (CAIRIM) がインストールされていることを確認します。
2. CAIRIM KEYS メンバの CA LMP ステートメントとして、製品のキー証明書から製品ライセンス LMP コードを追加します。

注: 詳細については、「*CA Common Services for z/OS Administration Guide*」を参照してください。
3. 次の IPL で CAS9 プロシージャを開始します。あるいは、次の IPL を待機しない場合は、以下を行います。
 - a. 別の名前を使用し、以下の設定で、特殊な CAS9 プロシージャを作成します。
 - PARMLIB および AUTOCMDS DD ステートメントを DUMMY に設定
 - 新規に追加された LMP キーステートメントで、KEYS DD ステートメントを KEYS メンバに設定
 - b. 特殊なプロシージャを開始します。

製品がシステムにライセンスされます。

KEYS メンバ - 実行キーの追加

製品キー証明書で提供されている CA LMP 実行キーを CAIRIM パラメータに追加します。この実行キーにより適切な初期化が保証されます。

CA LMP 実行キーを CAIRIM パラメータに定義するには、KEYS メンバを変更します。

KEYS メンバ用のこのサンプルパラメータ構造は以下のようになります。

```
PROD(pp) DATE(ddmmmyy) CPU(tttt-mmmm/sssss)
LMPCODE(kkkkkkkkkkkkkkk)
```

パラメータ定義は以下のとおりです。

PROD(*pp*)

2 文字の製品コードを指定します。このコードは、製品の以前のバージョン（存在する場合）の CAIRIM 初期化パラメータによってすでに使用されている製品コードと一緒にします。

pp の値を以下に示します。

FU

CA SYSVIEW を示します

FV

CA SYSVIEW Option for CICS を示します

FW

CA SYSVIEW CA Datacom Option を示します

2G

CA SYSVIEW Event Capture Option を示します

IE

CA Insight for DB2 を示します

JE

CA SYSVIEW Option for WebSphere MQ を示します

PH

CA SYSVIEW Option for IMS を示します

JD

CA SYSVIEW Option for TCP/IP を示します

11

CA SYSVIEW for CA APM を示します

DATE(*ddmmmyy*)

CA LMP ライセンス契約の有効期限（例： 13MAR12）を指定します。

CPU(*tttt-mmmm/ssssss*)

tttt

CA LMP を実行する CPU のタイプ（例：3090）が指定されます。

-mmmm

CA LMP を実行する CPU のモデル（例：600）が指定されます。

注: CPU のタイプまたはモデルが 4 文字未満である場合は、未使用部分に空白が挿入されます。

/ssssss

CA LMP が実行される CPU のシリアル番号を指定します。

LMPCODE(*kkkkkkkkkkkkkkkk*)

CA LMP を実行するのに必要な実行キー（*kkkkkkkkkkkkkkkk*）が指定されます。この CA LMP 実行キーは、各 CA LMP ソフトウェアソリューションに同梱されたキー証明書に記載されています。

例: CA LMP 実行キーの追加

以下に、CA LMP 実行ソフトウェア パラメータに対する制御ステートメントの例を示します。

```
PROD(FU) DATE(27JUN12) CPU(2097-E26 /370623)  
LMPCODE(52H2K06130Z7RZD6)
```

この例では、指定された CPU 上で実行している製品について、CA LMP ライセンス契約が 2012 年 6 月 27 日で期限切れになります。ユーザのサイトで製品をインストールする場合、製品コードと実行キーの値は異なります。

注: 以下については、「*CA Common Services for z/OS Administration Guide*」を参照してください。

- CAIRIM パラメータに CA LMP 実行キーを定義する手順
- CAIRIM の機能および関連ユーティリティに関する詳細

CA LMP キー証明書

CA License Managed Program (CA LMP) キー証明書を検査します。この証明書には、以下の情報が含まれています。

製品名

指定されたサイトおよび CPU に対してライセンスが発行された製品の商標名または登録商標名を定義します。

製品コード

製品に対応する 2 文字のコードを定義します。

補足

特定の機能のライセンスの参照番号を定義します。形式は以下のとおりです。

nnnnnnnn-nnn

この形式は北米地域とそれ以外で若干異なります。また、参照番号が一切提供されていないこともあります。

CPU ID

この製品のインストールが有効な特定の CPU を識別するコードを定義します。

実行キー

CA LMP で製品のインストールに必要な暗号化コードを定義します。インストール時には、LMP コードとして参照されます。

満了日

ライセンスの有効期限日を定義します。形式は以下のとおりです。

ddmmmyy

例： 21Mar12

テクニカル コンタクト

製品のインストールとメンテナンスを担当する、サイトに指定された技術担当者の名前を定義します。弊社では、CA LMP に関するすべての連絡をこの担当者と行います。

MIS ディレクタ

MIS ディレクタ（サイトでこの機能を実行する担当者）の名前を定義します。証明書に役職のみが指定されていて、個人名が指定されていない場合、証明書を修正または確認する際に実際の名前を追加してください。

CPU 所在地

CPU がインストールされている建物の所在地を定義します。

[コンポーネントおよびオプションを有効にする方法](#)

コンポーネントおよびオプションを有効にすることで、それぞれのコマンドを使用できるようになります。デフォルトでは、CA SYSVIEW メインメニューからそれらのコマンドにアクセス可能です。

インストール中に、各コンポーネントおよびオプションについて、**COMPONENTS** と **OPTIONS** の値を指定します (**COMPONENTS** と **OPTIONS** は変更可能な GSVIINST パラメータです)。インストール完了後、**COMPONENTS** と **OPTIONS** の値の設定により、使用する予定のコンポーネントおよびオプションが有効になります。

詳細:

[使用可能なコンポーネント \(P. 26\)](#)

[使用可能なオプション \(P. 24\)](#)

第3章: CA CSM を使用した製品のインストール

CA SYSVIEW のインストールには、このプロセスおよび CA CSM のドキュメントを使用します。 CA CSM の使用を開始した後、ウィザードに従って手順を実行します。

CA CSM を使用して製品をインストールする方法

システムプログラマの役割には、システム上の CA Technologies メインフレーム製品の取得、インストール、保守、展開、設定が含まれます。

CA CSM は、z/OS システム上の CA Technologies メインフレーム製品の管理を簡略化および統一するアプリケーションです。またこれらのサービスにより、修正および推奨されるメンテナンスの取得と適用が、より簡単になります。 Web ベースインターフェースにより、より速く、より少ない失敗で製品のインストールとメンテナンスが可能になります。これらの製品は CA CSM サービスを使用しているため、業界のベストプラクティスに沿った共通の方法で、製品をインストールできます。

このシナリオでは、システムプログラマが製品およびメンテナンスの取得、インストール、展開、設定を行う手順を説明します。企業によっては、すべてのタスクが該当するとは限りません。たとえば、製品の展開および設定は行わないことがあります。その場合には、製品展開タスクおよび製品設定タスクを実行しないでください。

このシナリオを使用する前に、サイトに CA CSM がインストールされている必要があります。 CA CSM がインストールされていない場合、<http://ca.com/jp/support>。この Web ページには、CA CSM のすべてのドキュメントのリンクも含まれています。

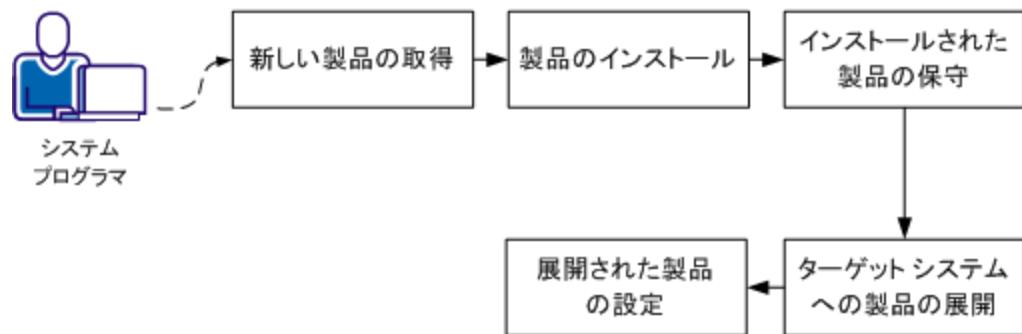
[CA CSM のアクセス](#) (P. 39)には、Web ブラウザを使用します。

注: このシナリオは CA CSM の最新のバージョンに対応しています。以前のバージョンを使用している場合は、「CA Chorus Software Manager」製品ページで該当するマニュアル選択メニューを参照してください。

このシナリオは、CA CSM を使用して実行する手順の大まかな概要です。詳細については、CA CSM に含まれているオンラインヘルプを参照してください。

製品をインストールし、システム上でそれらを管理するには、以下のタスクを実行します。

CA CSM を使用して製品をインストールする方法



1. [新しい製品を取得します](#) (P. 40)。
2. [製品をインストールします](#) (P. 41)。
3. [環境にインストールされた製品の保守を行います](#) (P. 44)。
4. [製品をターゲットシステムに展開します](#) (P. 44)。
5. [ターゲットシステムに展開された製品の設定を行います](#) (P. 45)。

Web ベース インターフェースを使用した CA CSM へのアクセス

Web ベース インターフェースを使用して CA CSM へアクセスします。

CA CSM 管理者から CA CSM の URL を取得する必要があります。

次の手順に従ってください:

1. Web ブラウザを開き、アクセス先の URL を入力します。

ログインページが表示されます。

注: Notice and Consent バナーが表示される場合は、表示される情報を読み、その内容に同意してください。

2. z/OS のログインユーザ名およびパスワードを入力します。

初期ページが表示されます。初めてログインする場合、[CA サポート Online Web サイト](#)。

注: インターフェースの詳細については、ページの右上隅にあるオンラインヘルプのリンクをクリックしてください。

3. [New] をクリックします。

[CA サポート Online Web サイト](#)で使用する認証情報の入力を促すメッセージが表示されます。

4. 認証情報を指定し、[OK] をクリックして [Next] をクリックします。

ユーザ設定の確認を促すメッセージが表示されます。

注: これらの設定は [User Settings] ページで設定可能です。

5. 設定を変更するかデフォルトをそのまま使用し、[Finish] をクリックします。

設定タスクの進捗状況を示すダイアログ ボックスが表示されます。

[Show Results] をクリックすると、完了したタスクのアクションの詳細を表示できます。

重要: サイトでプロキシを使用する場合は、[User Settings, Software Acquisition] ページで、プロキシ認証情報を確認します。

製品の取得方法

製品取得サービス（PAS）を使用すると、メインフレーム製品とそのサービス（プログラム一時修正（PTF）など）を簡単に取得できます。PASは、ユーザのサイトにライセンスされている製品に関する情報を取得します。そして、これらのエンタイトルメントを、稼動中のシステムで保守されているソフトウェア カタログに記録します。

CA CSM を使用して製品を取得するには、以下の高レベルタスクを実行します。

1. CA Support Online のアカウントを <http://ca.com/jp/support> で設定します。.

CA CSM を使用して製品を取得またはダウンロードするには、CA Support Online のアカウントが必要です。アカウントをお持ちでない場合は、<http://ca.com/jp/support> で作成してください。.

2. サイトの CA CSM の URL を決定します。

CA CSM にアクセスするには、その URL が必要です。URL をサイトの CA CSM 管理者から を取得、z/OS 認証情報を使用してログインできます。初回ログイン時、<http://ca.com/jp/support> にアクセスするために使用する認証情報で CA CSM アカウントを作成するように求められます。. このアカウントによって、製品パッケージをダウンロードできます。

3. CA CSM にログインし、[Products] ページに移動して、取得する製品を特定します。

CA CSM にログインした後、現在の組織に対してライセンスが付与されている製品を [Products] タブで確認できます。

取得する製品が見つからない場合は、製品リストを更新してください。CA CSM は、現在の認証情報に関連付けられたサイト ID を使用して、<http://ca.com/jp/support> 経由で製品リストを更新します。

4. 製品インストールパッケージのダウンロード

製品リストで目的の製品を特定した後、製品インストールパッケージをダウンロードできます。

CA CSM は、CA Technologies FTP サイトからパッケージ（任意のメンテナンス パッケージを含む）をダウンロード（取得）します。

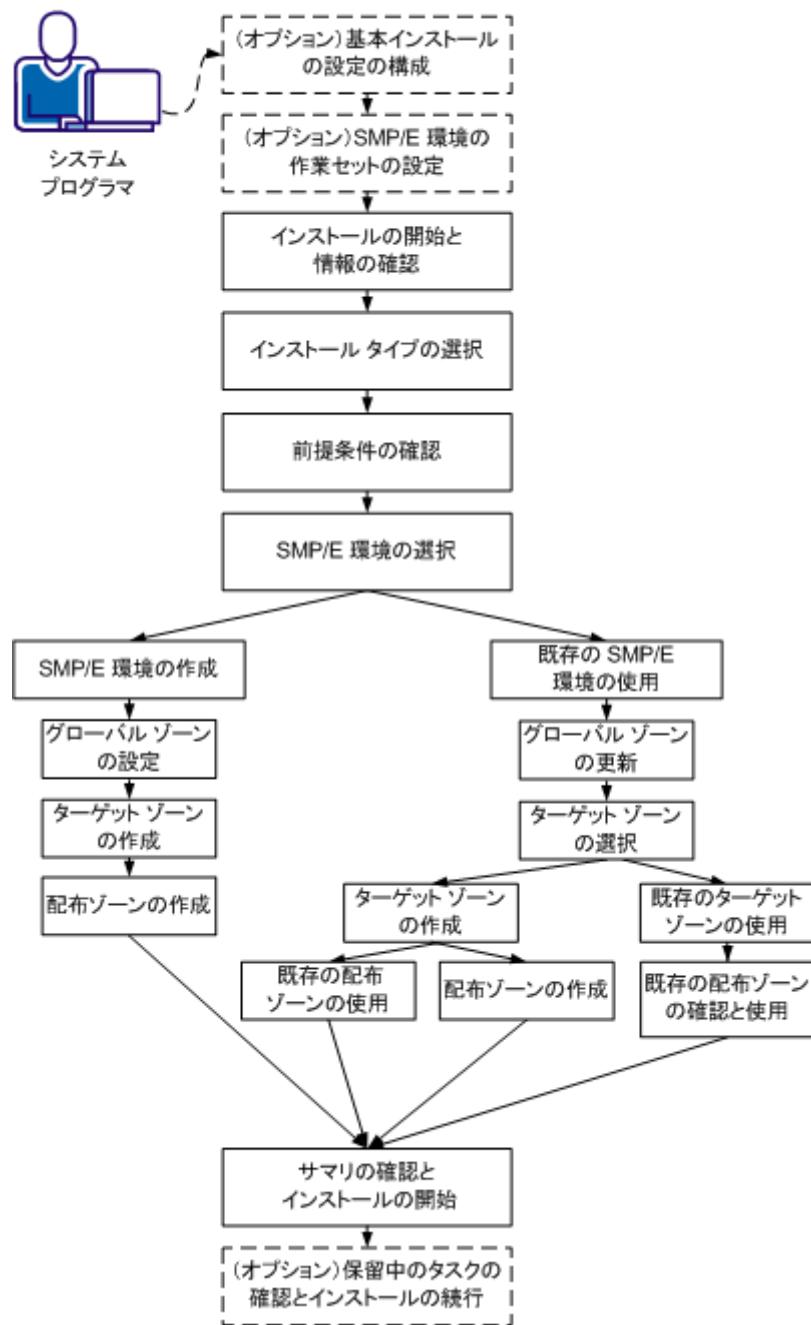
取得プロセスが完了した製品は、いつでもインストールやメンテナンスの適用ができます。

製品のインストール方法

ソフトウェアインストールサービス (SIS) を使用すると、製品リストで使用可能なメインフレーム製品および稼動中のシステムで管理された SMP/E 環境に現在インストールされているソフトウェアのメンテナンスのインストールが容易になります。たとえば、ダウンロード済みソフトウェアパッケージの参照、稼動中のシステムでの SMP/E 環境の管理、インストールタスクの自動化などが可能になります。

CA CSM を使用して製品をインストールするには、以下の高レベルタスクを実行します。

製品のインストール方法



1. (オプション) 基本インストールの設定を構成します。
2. (オプション) SMP/E 環境の作業セットを設定します。
3. 製品のインストールを開始し、製品情報を確認します。
4. インストールタイプを選択します。
5. インストールの前提条件を確認します (何らかの条件が示されている場合)。
6. 以下の手順のいずれかを実行して、SMP/E 環境を選択します。
 - SMP/E 環境を作成します。
 - a. グローバルゾーンを設定します。
 - b. ターゲットゾーンを作成します。
 - c. 配布ゾーンを作成します。
 - 作業セットの既存の SMP/E 環境を使用します。
 - a. グローバルゾーンを更新します。
 - b. ターゲットゾーンのセットアップ : ターゲットゾーンを作成するか既存のターゲットゾーンを使用します。
 - c. 配布ゾーンのセットアップ : 配布ゾーンを作成するか既存の配布ゾーンを使用します。
- 注: 製品または製品のコンポーネントを既存のターゲットまたは配布ゾーンにインストールすると、古いバージョンは、ゾーンおよび関連データセットから削除されます。必要に応じて、現在のバージョンにメンテナンスを適用できるように、今回のインストールには新しいターゲットゾーンと配布ゾーンを使用することをお勧めします。
7. インストールサマリを確認して、インストールを開始します。
8. (オプション) 製品をインストールしている SMP/E 環境に関する保留中のタスクを確認します。該当する場合、インストールを続行します。
CA CSM によって製品がインストールされます。

インストール処理が完了した後、使用可能な製品メンテナンスを確認してインストールします。これで、製品を展開できる状態になりました。続行する前に、CA CSM 外の別の手順を手動で実行する場合があります。

製品メンテナンスを適用する方法

既存の SMP/E 環境を CA CSM に移行することにより、インストール済みのすべての製品を単一の Web ベース インターフェースから統一された方法で保守することができます。

CA CSM を使用して、CA Technologies 製品の保守ができます。

CA CSM を使用して製品を保守するには、以下の高レベルタスクを実行します。

1. 製品がインストールされている SMP/E 環境を CA CSM が認識していることを確認します。認識していない場合は、SMP/E 環境を CA CSM に移行します。

移行中に、CA CSM は SMP/E 環境に関する情報をデータベースに格納します。

2. インストール済み製品リリースに対応した最新メンテナンスを [Products] タブからダウンロードします。

目的のリリースが見つからない場合は、以下の手順を実行してメンテナンスをダウンロードします。

- a. 目的のリリースを手動で追加する。
- b. リリースを更新する。

3. メンテナンスを適用します。

CA CSM によって、製品にメンテナンスが適用されます。

メンテナンス プロセスが完了すると、システム レジストリに定義されたシステムに製品を展開する準備がきました。続行する前に、CA CSM 外の別の手順を手動で実行する場合があります。

製品の展開方法

Software Deployment Service (SDS) を使用すると、稼動中のシステムのソフトウェア インベントリからターゲット システムへのメインフレーム製品の展開が容易になります。簡略化される操作には、既知のトポロジ全体での適切な転送メカニズムによる、ポリシー準拠のインストール済み製品の展開などがあります。

重要: 製品を展開する前に、システム レジストリでターゲット システムおよびリモート認証情報をセットアップします。

CA CSM を使用して製品を展開するには、以下の高レベルタスクを実行します。

1. 方法をセットアップします。

注: 展開の作成時に方法をセットアップすることや、以前にセットアップしている場合には、既存の方法を使用することもできます。その場合には、この手順を省略できます。

2. 展開を作成します。必要に応じて展開を保存し、後で編集することもできます。

3. 以下のように展開します。

- a. 展開のスナップショットを作成します。
- b. 展開をターゲット システムに転送します。
- c. メインフレーム環境に展開（解凍）します。

CA CSM によって製品がターゲット システムに展開されます。

展開プロセスが完了した製品は、いつでも設定できます。続行する前に、CA CSM 外の別の手順を手動で実行する場合があります。

製品の設定方法

Software Configuration Service (SCS) を使用すると、メインフレーム製品の設定が容易になります。設定によって、展開済みライブラリがランタイム ライブラリにコピーされ、製品がサイト用にカスタマイズされて実行可能状態に移行します。CA CSM を使用して、取得、インストール、展開がすでに完了した CA Technologies 製品の設定ができます。製品の展開に CA CSM を使用していない場合は、その製品の設定に CA CSM を使用することはできません。

CA CSM を使用して製品を設定するには、以下の高レベルタスクを実行します。

1. [Deployments] タブで設定可能な展開を選択すると、その展開に関する詳細および製品が表示されます。
2. 展開内の製品を選択し、[Configuration] ウィザードを開始して設定を作成します。ウィザードの各手順を完了します。ウィザードでは、詳細な説明に複数のレベルが用意されており、サイトの設定項目の選択をガイドします。任意に時点で作業を保存し、後で戻ることができます。ウィザードの手順を部分的に完了した設定は、[Configurations] タブで一覧表示されます。ウィザードには、以下の手順が含まれています。
 - a. 設定名を定義し、ターゲットシステムを選択します。
 - b. 設定機能およびオプションを選択します。
 - c. システム基本設定を定義します。
 - d. ターゲット設定を作成します。
 - e. リソースを選択し編集します。
3. 設定を作成します。 [Configuration] ウィザードの最後の手順で、設定をビルドすることができます。必要に応じて、設定を編集したり、再度設定をビルドすることもできます。設定をビルドするとウィザードが閉じられ、すべての設定項目を含めた設定が作成されます。
4. (オプション) 設定を検証します。検証では、設定を実装したときに使用されるリソースへのアクセスが確認されます。
5. 設定を行います。設定を実装することにより、展開済みのソフトウェアが完全に機能するようになります。実装はターゲットシステムで実行され、設定で定義されている変数、リソース、および操作が適用されます。

CA CSM によって製品が設定されます。

展開プロセスが完了した製品は、いつでも使用できます。続行する前に、CA CSM 外の別の手順を手動で実行する場合があります。

第 4 章: Pax ESD または DVD を使用した製品のインストール

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

- [Pax ファイルを使用して製品をインストールする方法 \(P. 47\)](#)
- [ファイルシステムの割り当ておよびマウント \(P. 49\)](#)
- [製品 Pax ファイルの取得 \(P. 52\)](#)
- [Pax ファイルからの製品ディレクトリの作成 \(P. 58\)](#)
- [z/OS データ セットへのインストールファイルのコピー \(P. 60\)](#)
- [インストールライブラリのアンロード \(P. 61\)](#)
- [INSTALL ジョブの変更および実行 \(P. 63\)](#)
- [ライブラリの削除、割り当て、初期化 \(INST0001\) \(P. 78\)](#)
- [z/FS リリース依存データ セットの割り当ておよびマウント \(INST0002\) \(P. 79\)](#)
- [SMP/E の RECEIVE、APPLY および ACCEPT 機能 \(INST0003\) \(P. 81\)](#)
- [ランタイム ライブラリの作成 \(INST0004\) \(P. 81\)](#)
- [ランタイム SITE ライブラリの作成 \(INST0005\) \(P. 82\)](#)
- [USS ディレクトリのクリーンアップ \(P. 82\)](#)
- [予防保守の適用 \(P. 83\)](#)

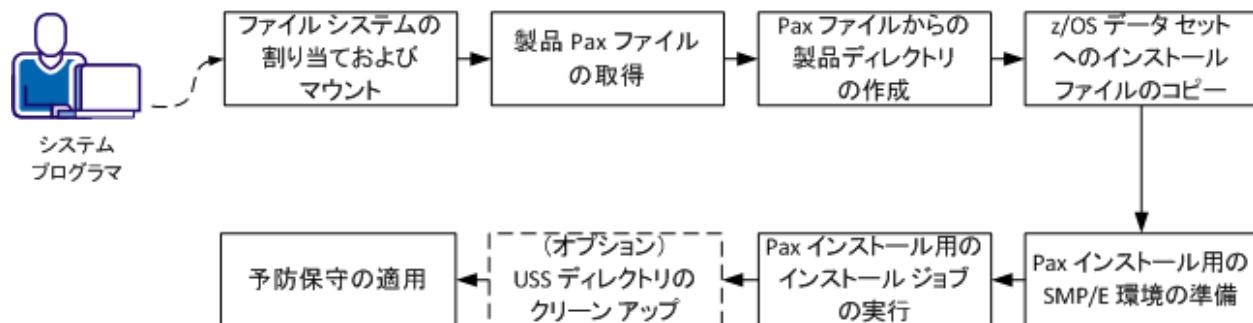
Pax ファイルを使用して製品をインストールする方法

システムプログラマの役割には、メインフレーム システムへの製品のインストールが含まれます。このオプションでは、製品 Pax ファイルを <http://ca.com/jp/support> または製品 DVD から取得します。

DVD には、製品の pax ファイルが含まれているフォルダがあります。製品 DVD を取得した後に、製品の更新が発生している場合があります。オンラインサイト上のファイルには、常に製品の最新アップデートが含まれています。最新の更新を取得しているかどうかを調べるには、<http://ca.com/jp/support> に移動し、「Download Center」をクリックしてください。

Pax ファイルを使用して製品をインストールするには、以下のタスクを実行します。

Pax ファイルを使用して製品をインストールする方法



1. [ファイルシステムの割り当ておよびマウントを行います](#) (P. 49)。
2. [製品 Pax ファイルを取得します](#) (P. 52)。
3. [Pax ファイルから製品ディレクトリを作成します](#) (P. 58)。
4. [インストールファイルを z/OS データセットにコピーします](#) (P. 60)。
5. Pax インストール用の SMP/E 環境を準備します。
6. Pax インストール用のインストールジョブを実行します。
7. (オプション) [USS ディレクトリをクリーンアップします](#) (P. 82)。
8. (オプション) 予防保守を適用します。

USS 環境のセットアップ[†]

以下のタスクを実行するには、UNIX システム サービス (USS) ディレクトリおよび十分な容量のあるファイルシステムが必要です。

- 製品 pax ファイルを <http://ca.com/jp/support> から受信します。.
- ユーティリティ機能を実行して、pax ファイルを解凍し、製品のインストールの完了に使用可能な MVS データセットにします。

Pax ESD 専用のファイルシステムの割り当ておよびマウントをお勧めします。ファイルシステムに必要な容量は、以下によって異なります。

- ダウンロードする pax ファイルのサイズ。
- 解凍後に pax ファイルを保持するかどうか。この方法はお勧めしません。

`pax` ファイルのダウンロードおよび解凍には、1つのディレクトリを使用することをお勧めします。同じディレクトリを再利用すると、USS のセットアップが最小限に抑えられます。USS のセットアップを1回で完了する必要があります。その後のダウンロードでは、同じディレクトリを再利用します。または、`pax` ファイルのダウンロードごとに、ディレクトリを作成することもできます。

重要: Pax ESD プロセスの一環として SMP/E インストール用 `pax` ファイルをダウンロードするには、Pax ESD プロセスに使用される UNIX System Services (USS) ディレクトリへの書き込み権限が必要です。Pax ESD ディレクトリを含むファイルシステムでは、`pax` ファイルのダウンロードおよびそのコンテンツの解凍を実行するために、`pax` ファイルの約 3.5 倍の空き容量も必要になります。たとえば、14 MB の `pax` ファイルのダウンロードと解凍を行うには、Pax ESD ディレクトリをホストしているファイルシステムに約 49 MB の空き容量が必要です。

ファイルシステムの割り当ておよびマウント

製品インストールプロセスでは、`pax` ファイルを受信し解凍手順を実行するための USS ディレクトリが必要になります。製品の取得専用のファイルシステムを割り当ててマウントし、このファイルシステム内にディレクトリを作成することをお勧めします。

製品のダウンロードには、zSeries File System (zFS) や階層ファイルシステム (HFS) を使用できます。

この手順では、以下のタスクを実行する方法について説明します。

- zFS または HFS を割り当てます。
- 選択した既存のメンテナンス USS ディレクトリでマウント ポイントを作成します。
- 新規作成されたマウント ポイント上へのファイルシステムのマウント

注: SUPERUSER 権限、またはファイルシステムに対する USS マウント コマンドの発行が許可されるために必要な SAF プロファイル設定のいずれかが必要です。

- (オプション) ディレクトリ作成者と同じグループのユーザに書き込み権限を許可します。

重要: USS コマンドでは大文字と小文字が区別されます。

次の手順に従ってください:

1. サイト要件に応じて以下のサンプルのいずれかをカスタマイズすることにより、ファイルシステムを割り当てます。

- zFS で、以下のサンプルを使用します。

```
//DEFINE EXEC PGM=IDCAMS
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSUDUMP DD SYSOUT=*
//AMSDUMP DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
  DEFINE CLUSTER (
    NAME(your_zFS_data_set_name) +
    STORAGECLASS(class) +
    LINEAR +
    CYL(primary secondary) +
    SHAREOPTIONS(3,3) +
  )
/*
//FORMAT EXEC PGM=IOEAGFMT,REGION=0M,
// PARM=(-aggregate your_zFS_data_set_name -compat')
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSUDUMP DD SYSOUT=*
//STDOUT DD SYSOUT=*
//STDERR DD SYSOUT=*
//CEEDUMP DD SYSOUT=*
/*
```

- HFS で、以下のサンプルを使用します。

```
//ALCHFS EXEC PGM=IEFBR14
//CAPAX DD DSN=yourHFS_data_set_name,
//          DISP=(NEW,CATLG,DELETE),UNIT=3390,
//          DSNTYPE=HFS,SPACE=(CYL,(primary,secondary,1))
```

ファイルシステムが割り当てられます。

注: 使用する zFS または HFS データセットの名前が USS ファイルシステムのデータセット命名規則に適合することを確認してください。ファイルシステムデータセットの割り当てが失敗する場合、環境設定で割り当てが許可されていないことが原因です。 HFS で、ISPF 3.2 Data Set Utility を使用して、ユーザの HFS データセットの割り当てを試行してください。

2. ファイルシステムのマウント ポイントを作成します。この例では、既存のディレクトリ /u/maint に /CA/CAPAX ディレクトリを作成する方法について説明します。TSO OMVS シェルから、以下のコマンドを入力します。

```
cd /u/maint/  
mkdir CA  
cd CA  
mkdir CAPAX
```

注: このドキュメントでは、この構造を「*yourUSSpaxdirectory*」と呼びます。

マウント ポイントが作成されます。

3. サイト要件に応じて以下のサンプルのいずれかをカスタマイズすることにより、ファイルシステムをマウントします。

- zFS では、以下のサンプルを使用します。

```
MOUNT FILESYSTEM('your_zFS_data_set_name')  
  MOUNTPOINT('yourUSSpaxdirectory')  
  TYPE(ZFS) MODE(RDWR)  
  PARM(AGGRGROW)
```

- HFS では、以下のサンプルを使用します。

```
MOUNT FILESYSTEM('your_HFS_data_set_name')  
  MOUNTPOINT('yourUSSpaxdirectory')  
  TYPE(HFS) MODE(RDWR)
```

ファイルシステムがマウントされます。

4. (オプション) このディレクトリのセキュリティ権限を設定します。chmod コマンドを使用すると、他のユーザに Pax ESD ディレクトリとそのファイルへのアクセスを許可することができます。たとえば、USS グループの他のユーザの Pax ESD ディレクトリへの書き込み権限を許可するには、TSO OMVS シェルから以下のコマンドを入力します。

```
chmod -R 775 /yourUSSpaxdirectory/
```

書き込み権限が許可されます。

注: chmod コマンドの詳細については、IBM の「*z/OS UNIX System Services User Guide* (SA22-7802)」を参照してください。

製品 Pax ファイルの取得

CA Technologies 製品のインストール手順を開始するには、セットアップした USS ディレクトリに製品 pax ファイルをコピーします。

重要: Pax ESD プロセスの一環として SMP/E インストール用 pax ファイルをダウンロードするには、Pax ESD プロセスに使用される UNIX System Services (USS) ディレクトリへの書き込み権限が必要です。また、このガイドの手順を開始する前に、USS ファイルスペースが使用可能であることが必要です。

以下のいずれかの方法を使用します。

- [製品 pax ファイルを http://ca.com/support から PC にダウンロード](http://ca.com/support) (P. 53) し、これを USS ファイルシステムにアップロードします。
ZIP ファイルをダウンロードする場合は、USS ファイルシステムにアップロードする前にファイルを解凍する必要があります。
- [pax ファイルを http://ca.com/support から USS ファイルシステムに直接ダウンロード](http://ca.com/support) (P. 54) します。
- [pax ファイルを製品 DVD から PC にダウンロードし、pax ファイルを USS ファイルシステムにアップロードします。](#) (P. 57)

このセクションには、以下の情報が含まれます。

- 製品 pax ファイルを CA Support Online FTP サーバから z/OS システムの USS ディレクトリに直接ダウンロードするためのサンプルバッチジョブ
- pax ファイルを PC から z/OS システムの USS ディレクトリにアップロードするためのサンプルコマンド

重要: FTP 手順は、ローカルのファイアウォールおよびその他のセキュリティ設定によって異なります。サイトで使用する適切な FTP 手順を決定するには、ローカルのネットワーク管理者に連絡してください。

製品 pax ファイルを保持するため使用する USS ファイルシステムに十分な空き容量があることを確認してください。十分な空き容量がない場合は、以下のようなエラーメッセージが表示されます。

EZA1490I Error writing to data set
EZA2606W File I/O error 133

ダウンロードが終了すると、USS ディレクトリ内の pax ファイルのサイズが、[CA Technologies Products Download] ウィンドウの対応する pax ファイルの [Size] 列の値と一致します。

Pax ESD 使用による PC へのファイルのダウンロード

製品インストール ファイルを <http://ca.com/jp/support> から PC にダウンロードできます。

次の手順に従ってください:

1. <http://ca.com/jp/support> にログインし、[Download Center] をクリックします。
[Download Center] の Web ページが表示されます。
2. [Download Center] で、最初のドロップダウンリストから [Products] を選択し、製品、リリース、および Genlevel (該当する場合) を指定した後、[Go] をクリックします。
CA Product Download ウィンドウが表示されます。
3. CA Technologies 製品ソフトウェア パッケージ全体または個別の pax ファイルを PC にダウンロードします。ZIP ファイルをダウンロードする場合、続行する前にそのファイルを解凍する必要があります。

注: 従来のインストールのダウンロードについては、「*Traditional ESD User Guide*」を参照してください。ダウンロード方法の詳細については、「Download Methods and Locations」の項目を参照してください。<http://ca.com/jp/support> に移動し、ログインして、[Download Center] をクリックします。[Download Help] の見出しの下にガイドへのリンクおよび項目が表示されます。

バッチ JCL を使用したダウンロード

メインフレームでバッチ JCL を実行することによって、pax ファイルを <http://ca.com/jp/support> からダウンロードします。ダウンロードを実行するには、[CAtoMainframe.txt](#) (P. 56) という名前で PDF ファイルに添付されているサンプル JCL を使用します。

重要: このガイドの PDF 版には、メインフレームに直接コピー可能なサンプル JCL ジョブが含まれています。これらのジョブにアクセスするには、PDF リーダの左側にあるクリップアイコンをクリックします。添付ファイルを表示するウィンドウが表示されます。ファイルをダブルクリックすると、サンプル JCL が表示されます。PDF ファイルの表示には、Adobe Reader の最新のバージョンを使用することをお勧めします。

注: <http://ca.com/jp/support> で説明されている推奨のダウンロード方法を使用することをお勧めします。この JCL 手順は、CA CSM を使用しないユーザ向けの推奨ダウンロード方法です。また、次のセクションでは PC を経由してメインフレームにダウンロードする手順について説明します。

次の手順に従ってください:

1. *ACCOUNTNO* を有効な JOB ステートメントに置き換えます。
2. *yourTCP/IP.PROFILE.dataset* をユーザのシステムの TCPIP プロファイルデータの名前に置き換えます。必要な場合には、ローカルネットワーク管理者に連絡してください。
このジョブはユーザのプロファイルを参照します。
3. *YourEmailAddress* をユーザの電子メールアドレスで置き換えます。
このジョブはユーザの電子メールアドレスを参照します。
4. *yourUSSpaxdirectory* を Pax ESD のダウンロードに使用する USS ディレクトリの名前に置き換えます。
このジョブはユーザの USS ディレクトリを参照します。
5. [CA Support Product Download] ウィンドウ上でダウンロードする製品コンポーネントを探します。
ここで、ダウンロードする製品コンポーネントが特定されました。

6. 適用可能なファイルの [Download] をクリックします。

注: 複数のダウンロードの場合は、ファイルをカートに追加してください。

[Download Method] ウィンドウが開きます。

7. [FTP Request] をクリックします。

[Review Download Requests] ウィンドウに、ダウンロードのリクエスト対象のすべてのファイルが表示されます。

注: ファイルをダウンロードする準備できた場合に電子メールを送信します。または、ファイルが利用可能な場合には、このウィンドウにリンクが表示されます。

8. 以下の方法のいずれかを選択します。

Preferred FTP

CA Technologies のワールドワイドなコンテンツ配信ネットワーク (CDN) を使用します。この方法を使用してダウンロードできない場合は、企業ネットワークの外側からのダウンロードを許可されている従業員が使用するダウンロード元サーバに対するセキュリティ制限を確認してください。

ホスト名 : <ftp://ftpdownloads.ca.com>

代替 FTP

ニューヨーク州ロングアイランドに存在する元のダウンロードサーバを使用します。

ホスト名: 製品ファイルおよびダウンロードカートファイルには <ftp://scftpd.ca.com>、個別のソリューションファイルには <ftp://ftp.ca.com> を使用します。

これら 2 つの方法では、ホスト、ユーザ名、パスワード、FTP ロケーションが表示されます。この FTP ロケーションがにサンプル JCL をコピーできます。

注: FTP に関する詳細については、[Review Download Requests] ウィンドウにある [FTP Help] ドキュメントリンクや、[Download Methods] ウィンドウで利用可能な [Learn More] リンクを参照してください。

9. ジョブをサブミットします。

重要: FTP コマンドが正しくない場合、このジョブが失敗しても、条件コード 0 を返す可能性があります。ジョブ DDNAME SYSPRINT のメッセージを読んで、FTP が成功したことを確認してください。

JCL ジョブを実行した後、pax ファイルは、メインフレームの指定した USS ディレクトリに配置されます。

例: CAtoMainframe.txt, JCL

添付されている CAtoMainframe.txt JCL ファイルに、以下のテキストが表示されます。

```
//GETPAX   JOB (ACCOUNTNO),'FTP GET PAX ESD PACKAGE',
//           MSGCLASS=X,CLASS=A,NOTIFY=&SYSUID
//*****
//** This sample job can be used to download a pax file directly from *
//** CA Support Online to a USS directory on your z/OS system.          *
//**                                                               *
//** When editing the JCL ensure that you do not have sequence numbers *
//** turned on.                                         *
//**                                                               *
//** This job must be customized as follows:                         *
//** 1. Supply a valid JOB statement.                                *
//** 2. The SYSTCPD and SYSFTPD JCL DD statements in this JCL may be *
//**    optional at your site. Remove the statements that are not      *
//**    required. For the required statements, update the data set      *
//**    names with the correct site-specific data set names.           *
//** 3. Replace "Host" based on the type of download method.          *
//** 4. Replace "YourEmailAddress" with your email address.            *
//** 5. Replace "yourUSSpaxdirectory" with the name of the USS        *
//**    directory used on your system for Pax ESD downloads.          *
//** 6. Replace "FTP Location" with the complete path                 *
//**    and name of the pax file obtained from the FTP location       *
//**    of the product download page.                                    *
//*****
//GETPAX   EXEC PGM=FTP,PARM='(EXIT',REGION=0M
//SYSTCPD  DD   DSN=yourTCPIP.PROFILE.dataset,DISP=SHR
//SYSFTPD  DD   DSN=yourFTP.DATA.dataset,DISP=SHR
//SYSPRINT DD   SYSOUT=*
//OUTPUT   DD   SYSOUT=*
//INPUT    DD   *
Host
anonymous YourEmailAddress
lcd yourUSSpaxdirectory
バイナリ
get FTP_location
quit
```

PC を経由するメインフレームへのファイルのダウンロード

製品のインストールファイルを PC にダウンロードし、それらを USS システムに転送します。

次の手順に従ってください:

1. 以下のいずれかの方法で、製品ファイルを PC にダウンロードします。

- [Pax ESD](#) (P. 53)。 ZIP ファイルをダウンロードした場合は、最初にファイルを解凍してから製品の pax ファイルを使用します。
- DVD。 製品ソフトウェアパッケージ全体（または個別の pax ファイル）を PC にコピーします。

pax ファイルが PC 配置されます。

注: pax.Z のフォーマットは変更しないでください。

2. Windows コマンドプロンプトを開きます。

コマンドプロンプトが表示されます。

3. 以下の FTP コマンドをカスタマイズして入力します。

```
FTP mainframe
userid
password
bin
lcd C:\$PC\$folder\$for\$thePAXfile
cd /yourUSSpaxdirectory/
put paxfile.pax.Z
quit
出口 (EXIT)
```

mainframe

z/OS システムの IP アドレスまたは DNS 名を指定します。

userid

z/OS のユーザ ID を指定します。

password

z/OS のパスワードを指定します。

C:\\$PC\\$folder\\$for\\$thePAXfile

PC 上の pax ファイルの場所を指定します。

注: パス名に空白または特殊文字が含まれる場所を指定する場合は、その値を二重引用符で囲みます。

yourUSSpaxdirectory

Pax ESD のダウンロードに使用する USS ディレクトリの名前を指定します。

paxfile.pax.Z

アップロードする pax ファイルの名前を指定します。

pax ファイルがメインフレームに送られます。

Pax ファイルからの製品ディレクトリの作成

pax コマンドは以下のアクションを実行します。

- pax ファイル内にパッケージされたファイルおよびディレクトリを抽出します。
- pax ファイルと同じディレクトリ構造で USS ディレクトリを作成します。
- 製品およびレベル固有のディレクトリ名を自動生成します。

現在の作業ディレクトリを pax ファイルが含まれるディレクトリに設定し、以下のコマンドを入力して USS ディレクトリにディレクトリを作成します。

`pax -rvf pax-filename`

[Unpackage.txt \(P. 59\)](#) として PDF ファイルに添付されているサンプル JCL を使用して、製品の pax ファイルを製品インストールディレクトリに抽出します。

重要: このガイドの PDF 版には、メインフレームに直接コピー可能なサンプル JCL ジョブが含まれています。これらのジョブにアクセスするには、PDF リーダーの左側にあるクリップアイコンをクリックします。添付ファイルを表示するウィンドウが表示されます。ファイルをダブルクリックすると、サンプル JCL が表示されます。PDF ファイルの表示には、Adobe Reader の最新のバージョンを使用することをお勧めします。

次の手順に従ってください:

1. *ACCOUNTNO* を有効な JOB ステートメントに置き換えます。
2. *yourUSSpaxdirectory* を製品のダウンロードに使用する USS ディレクトリの名前に置き換えます。
ジョブは、ユーザが指定したディレクトリを参照します。
3. *paxfile.pax.Z* を pax ファイルの名前に置き換えます。
ジョブは、ユーザが指定した pax ファイルを参照します。
4. ジョブをサブミットします。
ジョブにより製品ディレクトリが作成されます。

注: PARM= ステートメントが 71 文字を超える場合は、代わりに UNPAXDIR の 2 番目の形式をコメント解除して使用します。このサンプルジョブでは、カラム 72 で X を使用し、2 行目に PARM= パラメータを続けます。

例: カスタマイズ用の JCL ファイル(Unpackage.txt)

添付されている Unpackage.txt JCL ファイルに以下のテキストが表示されます。

```
//ESDUNPAX JOB (ACCOUNTNO), 'UNPAX PAX ESD PACKAGE',
// MSGCLASS=X, CLASS=A, NOTIFY=&SYSUID
//*****
//** This sample job can be used to invoke the pax command to create      *
//** the product-specific installation directory.                          *
//**
//** This job must be customized as follows:                                *
//** 1. Supply a valid JOB statement.                                     *
//** 2. Replace "yourUSSpaxdirectory" with the name of the USS             *
//**    directory used on your system for Pax ESD downloads.               *
//** 3. Replace "paxfile.pax.Z" with the name of the pax file.              *
//** NOTE: If you continue the PARM= statement on a second line, make     *
//**        sure the 'X' continuation character is in column 72.            *
//*****
//UNPAXDIR EXEC PGM=BPXBATCH,
// PARM='sh cd /yourUSSpaxdirectory/; pax -rvf paxfile.pax.Z'
//*UNPAXDIR EXEC PGM=BPXBATCH,
//** PARM='sh cd /yourUSSpaxdirectory/; pax                               X
//**           -rvf paxfile.pax.Z'
//STDOUT DD SYSOUT=*
//STDERR DD SYSOUT=*
```

[z/OS データ セットへのインストール ファイルのコピー](#)

SMP/E GIMUNZIP ユーティリティを呼び出して、製品固有のディレクトリから MVS データ セットを作成するには、この手順を使用します。

製品ディレクトリの UNZIPJCL ファイルには、インストールパッケージを GIMUNZIP するサンプル ジョブが含まれています。 z/OS データ セットを作成するには、UNZIPJCL ジョブを編集およびサブミットしてください。

次の手順に従ってください：

1. 必要に応じて、製品の `readme` ファイルまたはインストールの注意事項を探して参照します。これらのファイルは、`pax` コマンドで作成した製品固有のディレクトリにあります。このファイルには、インストール手順を完了するために必要となる製品固有の詳細情報が含まれています。

以上により、製品固有のインストールの詳細を特定できました。

2. UNZIPJCL サンプル ジョブを編集するには、ISPF EDIT または TSO ISHELL を使用します。以下のいずれかの方法で、この手順を実行できます。
 - ISPF EDIT を使用します。 UNZIPJCL ファイルの完全パス名を指定します。
 - TSO ISHELL を使用します。 UNZIPJCL ファイルに移動し、`E` 行コマンドを使用してファイルを編集します。

ジョブが編集されます。

3. SMPDIR DD PATH を `pax` コマンドによって作成された製品固有ディレクトリに変更します。

製品固有ディレクトリが表示されます。

4. ICSF がアクティブでない場合は、以下の手順を実行します。
 - a. SMPJHOME DD PATH をユーザの Java ランタイム ディレクトリに変更します。このディレクトリはシステムによって異なります。
 - b. 次のいずれかの操作を実行します。
 - SMPCPATH DD PATH を SMP/E Java アプリケーション クラス ディレクトリ（通常は `/usr/lpp/smp/classes/`）に変更します。
 - GIMUNZIP パラメータの HASH=YES を HASH=NO に変更します。

次のいずれかが発生します： ICSF はアクティブです。 Java を使用しています。

5. すべての *yourHLQ* の出現箇所を、インストール処理で使用される z/OS データセットの高レベル修飾子 (HLQ) に変更します。パッケージを個別に識別するために、展開された Pax ファイルごとに固有の HLQ を使用することをお勧めします。SMP/E RELFILE に使用する値と同じ値を *yourHLQ* に使用しないでください。

すべての *yourHLQ* の出現箇所が z/OS データセットのユーザの高レベル修飾子に設定されます。

6. UNZIPJCL ジョブをサブミットします。

UNZIPJCL ジョブが完了すると、リターン コードが 0 になります。出力メッセージの GIM69158I および GIM48101I、JES ログにある IKJ56228I は無視して構いません。

UNZIPJCL ジョブで指定した高レベル修飾子を使用して、GIMUNZIP により z/OS データセットが作成されます。製品のインストールを実行するには、これらのデータセットを使用します。Pax ファイルおよび製品固有ディレクトリは不要になります。

注: 詳細については、IBM の 「*SMP/E for z/OS Reference (SA22-7772)*」 を参照してください。

インストールライブラリのアンロード

ESD 作成 DASD ベースの製品配布ファイルからインストールライブラリをコピーするには、以下の手順を使用します。

次の手順に従ってください:

1. 使用しているサイトの仕様に合わせてサンプル JCL を変更します。
サンプル JCL のコピーは、UNZIPJCL によって作成された *yourHLQ.CAI.CNM4D90.F1(ESDJCL)* から取得できます。
2. サンプル JCL 内の小文字のイタリック体で表記されている以下の項目をここに記載されている情報に置き換えることで、使用しているサイトにジョブストリームを変更します。

ボリューム

インストールライブラリの格納先ボリュームのシリアル番号を指定します。

yourHLQ

ESD プロセスの UNZIP 手順中に使用される HLQ を指定します。

変更するジョブストリームは以下の通りです。

```
//ESDINST JOB (0000)
//*
//**=====
//**                                     *
//** Sample job to create the sysview.SAMPJCL data set
//**                                     *
//*
//**=====
//*
// SET      HLQ='yourHLQ'
// SET VOLUME=volume
//*
//COPY      EXEC PGM=IEBCOPY
//SYSUT3   DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(5,1))
//SYSUT4   DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(5,1))
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//*
//IN       DD DISP=SHR,DSN=&HLQ..CAI.CNM4D50.F1
//*
//SAMPJCL  DD DSN=&HLQ..SAMPJCL,
//          DISP=(NEW,CATLG,DELETE),
//          UNIT=SYSDA,
//          VOL=SER=&VOLUME,
//          DCB=(RECFM=FB,LRECL=80,BLKSIZE=6160),
//          SPACE=(CYL,(05,02,45))
//*
//SYSIN    DD DISP=SHR,DSN=&HLQ..CAI.CNM4D50.F1(SAMPJCL)
```

3. 変更したサンプル JCL をサブミットします。

インストールライブラリ (SAMPJCL) は、ESD プロセスの UNZIP 手順で作成された、DASD ベースの SMP/E RELFILE からコピーされます。

INSTALL ジョブの変更および実行

SAMPJCL インストールライブラリ内の INSTALL ジョブが CA SYSVIEW のインストールに必要な JCL ストリームを生成します。

この手順には、使用しているサイトの要件に合わせて INSTALL ジョブを変更する方法が説明されています。

この手順を開始する前に、以下の情報をご確認ください。

- 高レベル修飾子 (HLQ)。20 文字以下の文字列である必要があります。
- CA SYSVIEW 用の SVC 番号。タイプ-3 のユーザスーパーバイザーコード (SVC) が必要です。
- APF (許可プログラム機能) で許可されたライブラリのデータセット名。ここに動的インストールプログラムがコピーされます。

次の手順に従ってください:

1. 使用しているサイトの要件に従って、INSTALL 内の以下の JOB ステートメントを変更します。

```
//INSTALL JOB (00000000), 'SYSVIEW', CLASS=A
```

2. INSTALL 内の以下の SYSLIB ステートメントを変更して、高レベル修飾子 *sysview* をインストールライブラリのダウンロード時に選択した修飾子に置換します。

```
//SYSLIB DD DISP=SHR, DSN=sysview.SAMPJCL
```

3. INSTALL 内の GSVIINST マシンパラメータを変更します。

INSTALL ジョブストリームには、マクロの GSVIINST 用のパラメータが含まれます。これらのパラメータに割り当てられた値により、CA SYSVIEW のインストール方法が決定されます。生成されたジョブストリーム内の値は、それらが使用される手順より前に変更できます。

4. INSTALL ジョブをサブミットします。

ジョブが内部リーダにサブミットされ、ジョブストリームが生成されます。

JOBNAME パラメータで指定したジョブ名はアセンブリからの出力です。
ジョブ名を指定しなかった場合、ジョブ出力は INST0000 です。

重要: ユーザの TSO は、メンバの編集中に *sysview.SAMPJCL* でエンキューを行います。したがって、編集セッションを終了してこのデータセットを開放し、ジョブが実行されるようにします。

詳細情報:

[GSVIINST マクロ - INSTALL パラメータの設定 \(P. 98\)](#)

GSVIINST マクロ - INSTALL パラメータの設定

INSTALL ジョブをサブミットする前に、GSVIINST マクロ パラメータを設定します。次の例に、INSTALL ジョブ内のデフォルト パラメータ値を表示します。

これらのパラメータの構文は以下の通りです。

```
//INSTALL JOB (000000000), 'SYSVIEW', CLASS=A
//*
//*-----
-*  

//*   CA SYSVIEW          *
//*   Installation generator      *
//*                               *
//*   This job will dynamically build the other jobs that are      *
//*   required to complete the installation.                      *
//*                               *
//*   *-----* Important Notice *-----*      *
//*   *-----*
//*   CA Mainframe Software Manager          *
//*   *-----*
//*   If you have used CA Mainframe Software Manager      *
//*   to perform the installation of the product,          *
//*   this step is required.                     *
//*   *-----*
//*   Step: Required          *
//*   *-----*
//*-----*
-*  

//ASM EXEC PGM=ASMA90,REGION=1024K,PARM='NOTERM,LIST,DECK,N0OBJECT'  

//*
//SYSUT1 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(1700,(600,100))
//SYSUT2 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(1700,(600,100))
//SYSUT3 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(1700,(600,100))
//SYSPUNCH DD SYSOUT=(*,INTRDR),DCB=(RECFM=FB,LRECL=80,BLKSIZE=2000)
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//*
//*-----*
//*   The data set defined to the DDNAME SYSLIB should also      *
//*   be coded as the data set name on the GSVIINST option          *
//*   INSTLIB=.           *
//*-----*
//*   The options that require modification or inspection          *
//*   for specific site installation needs are marked with      *
//*   a "<---".           *
//*-----*
-----*
```

```
/*
//SYSLIB    DD DISP=SHR,DSN=sysview.SAMPJCL           <---INSTLIB
/*
/*
//** Note: When modifying the macro below, remember to include
//**         the continuation character "X" in column 72 for all
//**         lines except the last line containing the DUMMY=
//**         parameter.
/*
//*.+....1....+....2....+....3....+....4....+....5....+....6....+....7.X
//SYSIN    DD *
*
        PRINT NOGEN
        GSVIINST
        ,
        , *-----* X
        , * Installation data set name          * X
        , * This is the data set name that you are   * X
        , * editing now.                         * X
        , *-----* X
        INSTLIB=sysview.SAMPJCL,             <--- X
        , *-----* X
        , * System parmlib data set            * X
        , *-----* X
        ,
        SYSPLIB=SYS1.PARMLIB,             <--- X
        , *-----* X
        , * Source installation Media          * X
        , * ESD - ESD file on DASD           * X
        , * DVD - Contains PAX file         * X
        , *-----* X
        SOURCE=ESD,                      ESD | DVD   <--- X
        , *-----* X
        , * High-level qualifier used when the ESD file * X
        , * was UNZIPPED.                   * X
        , *-----* X
        ESDHLQ=yourHLQ,                 ESD HLQ    <--- X
        , *-----* X
        , * Data set allocation            * X
        , *-----* X
        ,
        PREFIX=sysview,                  <--- X
        SITEDSN=YES,                    <--- X
        DELETE=YES,                     X
        DASDVOL=volume,                <--- X
        SMS=NO,                        X
        SMSVOL=,                       X
        STORCLAS=,                     X
        DSKUNIT=SYSDA,                 X
        WRKUNIT=SYSDA,                 X
        PROFTYPE=PDS,                  X
        , *-----* X
```

```

        , * Data set blocksizes           * X
        , *-----* X
        BLKSZU=6144,                      X
        BLKSZFB=3200,                     X
        BLKSZVB=25600,                    X
        , *-----* X
        , * z/FS data set allocation    * X
        , *-----* X
        ZFSHLQ=OMVS.SYSVIEW,             <--- X
        PATHPREFIX=,                      X
        , *-----* X
X          , * SMP/E                   *
X          , *-----* X
X          , *-----* X
        SMPEHLQ=,                      X
        SMPETZ=CAIT,                     X
        SMPEDZ=CAID,                     X
        SMPEVOL=volume,                 <--- X
        DLIBVOL=volume,                 <--- X
        SMPEUNIT=SYSDA,                  X
        DLIBUNIT=SYSDA,                  X
        , *-----* X
X          , * Data set and high level qualifiers * X
        , *-----* X
X          AUTHLIB=apf.auth.dataset.name,      <--- X
        CEEHLQ=CEE,                      <--- X
        IMSHLQ=ims,                      <--- X
        MQSHLQ=mqseries,                <--- X
        SYSTCPD=TCPIP.TCPIP.DATA,        <--- X
        TCPMBR=,                         X
        ,
        *-----* X
        , * CA SYSVIEW Options          * X
        ,
        *-----* X
        OPTIONS=(,           Begin option list   X
        NOCAPTURE,          ...option          X
        NOCICS,             ...option          X
        NODATACOM,          ...option          X
        NOIMS,              ...option          X
        NOMVS,              ...option          X
        NOMQSERIES,         ...option          X
        NOTCPIP,            ...option          X
        NOCEAPM,            ...option          X
        ),                 End option list     X

```

```
, *-----*
X
, *   CA SYSVIEW Components           * X
, *-----*
X
COMPONENTS=(,          Begin component list    X
DB2                  ...component            X
HCHECK,              ...component            X
MIM,                 ...component            X
ROSCOE,              ...component            X
USS,                 ...component            X
XSYSTEM,              ...component            X
),                   End component list      X
, *-----* X
, *   CA SYSVIEW GEN parameters       * X
, *-----*
X
SVC=238,             <--- X
SUBSYS=GSVX,          X
, *-----* X
, * The CA customer siteid.          * X
, * The siteid will be used to assist technical * X
, * support with diagnostics. This is used when * X
, * FTPing information to CA. (optional)        * X
, *-----* X
X
SITEID=siteid,         <--- X
, *-----*
X
, *   Jobcard/JCL creation           * X
, *-----*
X
JOBNAME=,             X
NAME='PROGRAMMER NAME', <--- X
ACCT=(000000000),      X
NOTIFY=NO,             X
CLASS=A,               X
MSGCLASS=A,             X
MSGLEVEL=(1,1),          X
ROUTE=NO,               X
SYSAFF=NO,              X
OUTC=*,                X
, *-----* X
X
, *   Assemble and Link edit        * X
, *-----*
X
ASMPGM=ASMA90,          X
LINKPGM=IEWL,            X
```

```

        , *-----* X
        , * End of Macro *
X
        , *-----* X
DUMMY=DUMMY
*
*      Do not remove the following line.
*
      END
/*

```

以下の GSVIINST パラメータが変更可能です。

INSTLIB

現在のインストールライブラリデータセット名を指定します。必ず SYSLIB ステートメントで使用したのと同じ高レベル修飾子を使用してください。 INSTALL ジョブの変更および実行の手順を参照してください。

デフォルト：*sysview.SAMPJCL*

SYSPLIB

システム環境設定オプションメンバが含まれるシステムパラメータライブラリを指定します。

デフォルト：SYS1.PARMLIB

SOURCE=*source*

ソースインストールメディアのタイプを指定します。

有効な値は以下の通りです。

- ESD - Electronic Software Delivery DASD ファイルを提供します。
- DVD - 製品用の pax ファイルを含むフォルダが含まれています。

ESDHLOQ=*yourHLQ*

このパラメータは、SOURCE=ESD が指定されている場合にのみ使用され、また指定する必要があります。

ESD ファイルが z/OS データセットに解凍される時に使用される高レベル修飾子を指定します。 UNZIPJCL はこのジョブを実行します。

UNZIPJCL ジョブはこの高レベル修飾子を *yourHLQ* として参照します。 ESDHLOQ= 値に同じ値を使用します。

PREFIX

データ セットを割り当てる際のプレフィックスを指定します。

制限：PREFIX および SUFFIX の全体の長さは、20 文字以内である必要があります。

デフォルト：PREFIX=sysview

SITEDSN

カスタマイズされたライブラリ メンバーを保守するために 1 セットのサイトライブラリを使用するかどうかを指定します。

サイトデータ セットが再利用され持ち越されるのは、CA SYSVIEW の新リリースにマイグレートするか更新する場合です。

有効な値は以下の通りです。

YES

サンプルジョブ INST0006 を生成します。このジョブは 1 セットのサイトライブラリを作成し、サンプル GSVX* System 設定メンバをそれに応じて更新します。

NO

サンプルジョブ INST0006 は生成されません。

デフォルト：SITEDSN=YES

DELETE

割り当ての前に、個々の新規ライブラリに対して DELETE リクエストを生成するかどうかを示すためのパラメータを指定します。 YES または NO を指定します。ライブラリの既存のセットに再インストールする場合は、DELETE=NO を指定します。

デフォルト：DELETE=YES

DASDVOL

データ セットを割り当てるボリュームのボリュームシリアル番号 (volser) を指定します。

SMS

SMS がデータ セット割り当てに使用されるかどうか定義するパラメータを指定します。 YES または NO を指定します。 YES を指定した場合は、STORCLAS パラメータで SMS ストレージクラスを指定します。

デフォルト：SMS=NO

SMSVOL

SMS データ セットを割り当てるために使用するボリュームのボリュームシリアル番号 (volser) を指定します。

注: 一部のサイトでは、SMS に volser を指定することを許可していません。

STORCLAS

SMS パラメータで YES を指定している場合、使用する SMS ストレージクラスを指定します。

DSKUNIT

ディスク ユニット タイプを指定します。

デフォルト : DSKUNIT=SYSDA

WRKUNIT

ディスク ワークユニット タイプを指定します。

デフォルト : WRKUNIT=SYSDA

PROFTYPE

割り当てるプロファイルデータセットタイプを指定します。

有効な値は以下の通りです。

PDS

PDS プロファイルデータセットを割り当てます。これは複数のシスプレックスで共有されます。

LIBRARY

プロファイル PDSE データセットを割り当てます。これは、単一のシスプレックス内でのみ共有できます。使用している構成に複数のシスプレックスが含まれている場合は、各シスプレックスに一意のデータセットを割り当てます。

デフォルト : PDS

BLKSZU

レコード長が未定義のデータセットを割り当てる際に使用されるブロックサイズを指定します。このパラメータを使用してロードライブラリデータセットを割り当てます。

デフォルト : BLKSZU=6144

BLKSZFB

固定ブロックデータセットの割り当て時に使用されるブロックサイズを指定します。

デフォルト : BLKSZFB=3200

BLKSZVB

可変ブロックデータセットの割り当て時に使用されるブロックサイズを指定します。

デフォルト : BLKSZVB=25600

ZFSHLQ

インストール処理中に作成される z/FS データセットの高レベル修飾子を指定します。

- zfshlq.ZFS

fmid

CA SYSVIEW SMP/E fmid を含みます。

デフォルト : ZFSHLQ=OMVS.SYSVIEW

PATHPREFIX

z/FS データ セットのマウント ポイント用のパス名プレフィックスを指定します。

デフォルト : PATHPREFIX=,

例

PATHPREFIX=/instpath

以下のマウント ポイントになります。

instpath/usr/lpp/sysview
instpath/usr/lpp/sysview/fmid
fmid

CA SYSVIEW SMP/E fmid を含みます。

SMPEHLQ

SMP/E ライブラリの HLQ を指定します。SMP/E HLQ に対して値を指定すると、追加サンプルジョブ (INST0004) が生成されます。このジョブは PREFIX 指定 HLQ を使用して、ランタイムライブラリ セットを作成します。

SMPETZ

SMP/E ターゲット ゾーンを指定します。

デフォルト : SMPETZ=CAIT

SMPEDZ

SMP/E 配布ゾーンを指定します。

デフォルト : SMPEDZ=CAID

SMPEVOL

内部 SMP/E およびターゲット データ セットを割り当てたボリュームを指定します。

DLIBVOL

SMP/E 配布データ セットを割り当てたボリュームを指定します。

SMPEUNIT

SMPEVOL 指定ボリュームに対してユニット タイプを指定します。

DLIBUNIT

DLIBVOL 指定ボリュームに対してユニット タイプを指定します。

AUTHLIB

動的インストールプログラムをコピーするために使用する APP 許可された既存のライブラリのデータセット名を指定します。この動的なインストールプログラム：

- ロードライブラリを動的に APP 許可します。
- スーパーバイザ コール (SVC) をインストールします。
- サブシステムを追加します。

CEEHLQ

ユーザ サイトの C 言語環境の高レベル修飾子を指定します。

IMSHLQ

ユーザ サイトの IMS 高レベル修飾子を指定します。IMS の複数のリリースが使用されている場合、最高レベルを指定してください。この高レベル修飾子は、以下のデータセット用の DD ステートメントを生成するために使用されます。

DD DSN=imshlq.SDFSRSL

MQSHLQ

ユーザ サイトの WebSphere MQ 高レベル修飾子を指定します。WebSphere MQ の複数のリリースが使用されている場合、最高レベルを指定してください。この高レベル修飾子は、以下のデータセット用の DD ステートメントを生成するために使用されます。

DD DSN=mqshlq.SCSQAUTH
DD DSN=mqshlq.SCSQLOAD
DD DSN=mqshlq.SCSQANLE

SYSTCPD

システムの TCP/IP 構成ファイルの名前を指定します。このパラメータは HFS (階層ファイルシステム) パスで指定することもできます。

デフォルト： TCPIP.TCPIP.DATA

TCPMBR

TCP/IP データセットがある場合、そのメンバ名を指定します。

注： このパラメータが必要なのは、SYSTCPD パラメータで指定されたデータセットが PDS である場合のみです。

デフォルト： なし

OPTIONS

お客様にライセンスされているオプションを有効にするように指定します。このオプションにはベース製品が含まれています。オプション値を指定すると、オプションコマンドを使用できます。デフォルトでは、CA SYSVIEW メインメニューからオプションコマンドにアクセスできます。

注: 1つ以上のオプションを指定します。

OPTIONS パラメータの値には以下のようなものがあります。

- CAPTURE|NOCAPTURE - Event Capture Option
- CICS|NOCICS - CA SYSVIEW Option for CICS
- DATACOM|NODATACOM - CA SYSVIEW CA Datacom Option
- IMS|NOIMS - CA SYSVIEW Option for IMS
- MVS|NOMVS - CA SYSVIEW Option for z/OS
- MQSERIES|NOMQSERIES - CA SYSVIEW Option for WebSphere MQ
- TCPIP|NOTCPIP - CA SYSVIEW Option for TCP/IP
- CAAPM|NOCEAPM - CA Cross Enterprise APM

COMPONENTS

有効にする CA SYSVIEW コンポーネントを指定します。コンポーネント値を指定すると、コンポーネントコマンドを使用できます。デフォルトでは、CA SYSVIEW メインメニューからコンポーネントコマンドにアクセスできます。

注: DB2 は新しいコンポーネントで、CA Insight for DB2 のライセンス LMP キーが必要です。

コンポーネントパラメータの値には以下のようなものがあります。

- DB2|NODB2 - CA Insight for DB2
- HCHECK|NOHCHECK - IBM Health Checker
- MIM|NOMIM - CA MIM Resource Sharing for z/OS
- ROSCOE|NOROSCOE - CA Roscoe
- USS|NOUSS - UNIX System Services
- XSYSTEM|NOXSYSTEM - Cross-system コンポーネント

注: これらのコンポーネントおよびオプションの一部をインストールまたはカスタマイズする前に CA SYSVIEW インストールを完了してください。

SVC

CA SYSVIEW 用のスーパーバイザーコール (SVC) 番号を指定します。タイプ 3 のユーザ SVC が必要です。

SVC モジュール GSVXSVC は後方互換性があります。ただし、CA SYSVIEW の旧リリースと SVC の共有を計画している場合は、すべての条件付きメンテナンスを適用します。

デフォルト : 238

SUBSYS

システムパラメータライブラリで System Configuration Options メンバ名に対してサフィックスを指定します。別の製品にすでに使用されていない場合は、GSVX を使用してください。同じサブシステムは、CA SYSVIEW の複数のリリースを共有できます。

デフォルト : SUBSYS=GSVX

SITEID=*siteid*

テクニカルサポートに問い合わせる際に使用する CA カスタマサイト ID を指定します。このサイト ID を使用して、CA へ情報を FTP で送信します。

JOBNAME

インストールジョブ用の JOB ステートメントを作成する際に使用するジョブ名を指定します。パラメータが指定されていない場合、インストールメンバの名前が使用されます。

NAME

JOB ステートメントで指定されているプログラマ名を指定します。

ACCT

JOB ステートメントを作成する必要がある場合、アカウント番号を指定します。

デフォルト : ACCT=(00000000)

NOTIFY

ジョブ完了時に通知されるユーザ ID を指定します。NO が指定された場合、JOB ステートメントでこのパラメータは生成されません。

デフォルト : NOTIFY=NO

CLASS

JOB ステートメントで使用するジョブクラスを指定します。

デフォルト : CLASS=A

MSGCLASS

JOB ステートメントで使用するメッセージクラスを指定します。

デフォルト : MSGCLASS=A

MSGLEVEL

JOB ステートメントで使用するメッセージレベルを指定します。

デフォルト : MSGLEVEL=(1,1)

ROUTE

以下のルートステートメントを生成します。

`/*ROUTE PRINT userid`

NO が指定された場合、このステートメントは生成されません。

デフォルト : ROUTE=NO

SYSAFF

以下のシステムとの関連付けを行うステートメントを生成します。

`/*JOBPARM SYSAFF=sysname`

NO が指定された場合、このステートメントは生成されません。

デフォルト : SYSAFF=NO

OUTC

SYSOUT で使用する出力クラスを指定します。

デフォルト : OUTC=*

ASMPGM

モジュールのアセンブルに使用されるプログラムの名前を指定します。
設定可能な値は IEV90 または ASMA90 です。

デフォルト : ASMPGM=ASMA90

LINKPGM

モジュールのリンクエディットに使用されるプログラムの名前を指定します。

デフォルト : LINKPGM=IEWL

詳細情報:

[INSTALL ジョブの変更および実行 \(P. 63\)](#)

ESD または DVD インストールからの出力

以下のテーブルは、インストール中に作成されるメンバを示しています。

ジョブ/プロシージャ	SAMPLIB	目的
INST0001	なし	データセットの削除、割り当て、初期化を行います。
INST0002	なし	z/FS リリース依存データセットを割り当ておよびマウントします。
INST0003	なし	SMP/E の RECEIVE、APPLY および ACCEPT 機能を実行します。
INST0004	なし	ランタイムライブラリセットを作成します。
INST0005	なし	サイトライブラリの空のセットを作成します。

ライブラリの削除、割り当て、初期化(INST0001)

この手順は CA SYSVIEW および SMP/E ライブラリの削除、割り当て、初期化を行います。ライブラリの取り込み前に行う必要があります。

次の手順に従ってください:

1. `sysview.SAMPJCL` データセット内の INST0001 メンバを調べ、ジョブで参照されているファイルがすべて正しいことを確認します。
2. INST0001 メンバをサブミットします。

ジョブが条件コード 0 で終了した場合は、ライブラリは正常に割り当てられ、取り込みの準備ができています。

z/FS リリース依存データ セットの割り当ておよびマウント (INST0002)

ジョブ INST003 は、CA SYSVIEW の新規リリース用の z/FS データ セット、ディレクトリ、およびマウント ポイントを作成します。このジョブは、CA SYSVIEW の新規リリースのインストールごとに実行する必要があります。

重要: ファイルシステムをマウントし、恒久的に使用可能にします。

この手順では、z/FS リリース依存データ セットの割り当ておよびマウントについて説明します。

次の手順に従ってください:

1. *sysview.SAMPJCL* データ セット内の INST0002 メンバを調べ、名前とパラメータがすべて正しいことを確認します。
2. 以下の割り当てタイプを指定します。

z/FS ファイルの場合 ZFS='TRUE' に設定

HFS ファイルの場合 ZFS='FALSE' に設定

3. INST0002 メンバをサブミットします。

このメンバに含まれ、実行される手順は以下の通りです。各手順はリターンコード 0 で完了する必要があります。

UNMOUNT

既存の z/FS をマウント解除します。

この手順により、ユーザはジョブを再実行できます。リターンコードは強制的に 0 になります。

DELDIR

特定のリリースディレクトリを削除します。

この手順により、ユーザはジョブを再実行できます。リターンコードは強制的に 0 になります。

DELZFS

z/FS を削除します。

この手順により、ユーザはジョブを再実行できます。リターンコードは強制的に 0 になります。

ALLOCZFS

z/FS データ セットを割り当てます。

FORMAT

z/FS データ セットをフォーマットします。

MAKEDIR

必要なディレクトリ構造を作成します。

MOUNT

指定されたディレクトリに z/FS データ セットをマウントします。

リターンコード 0 でジョブが終了した場合は、z/FS リリース依存データ セットは正常に割り当てられマウントされています。

SMP/E の RECEIVE、APPLY および ACCEPT 機能(INST0003)

この手順は SMP/E の RECEIVE、APPLY および ACCEPT 機能を実行します。

次の手順に従ってください:

1. *sysview.SAMPJCL* データ セット内の INST0004 メンバを調べ、ジョブが参照するファイルがすべて正しいことを確認します。
2. INST0004 メンバをサブミットします。

ジョブが 4 以下の条件コードで終了した場合は、RECEIVE、APPLY および ACCEPT 機能の実行が完了しています。

ランタイム ライブラリの作成(INST0004)

このオプションの手順によって、ユーザの環境用のランタイム ライブラリ セットが作成されます。

次の手順に従ってください:

1. SMPEHLQ の値をコーディングし、SMP/E ライブラリ用に別の HLQ を指定します。
ランタイム ライブラリ セットを作成するために、このサンプル JCL メンバ INST0004 が生成されます。
2. システム環境設定オプション メンバでコーディングされている SMP/E ターゲット ライブラリをコピーします。
ランタイム ライブラリが作成されます。

注: SMPEHLQ の値を削除すると、INST0004 JCL は生成されません。または SMPEHLQ の値が PREFIX と同じになります。

ランタイム SITE ライブラリの作成(INST0005)

このオプションの手順では、SYSTEM ランタイム ライブラリと同じ HLQ を使用して、実際の環境で必要な一連のランタイム SITE ライブラリを作成します。SITE ライブラリと SYSTEM ライブラリを区別するために、低レベルデータ修飾子の前には「.SITE」という修飾子が追加されます。

次の手順に従ってください:

1. SMPEHLQ の値をコーディングし、SMP/E ライブラリ用に別の HLQ を指定します。
一連の SITE ランタイム ライブラリ セットを作成するためのサンプル JCL メンバ INST0005 が生成されます。
2. システム環境設定オプションメンバでコーディングされている SMP/E ターゲット ライブラリをコピーします。
SITE ランタイム ライブラリが作成されます。

注: SITEDSN=NO を指定すると、INST0005 JCL は生成されません。
SITEDSN=YES を指定すると、INST0005 が実行され、ライブラリが割り当てられます。INST0005 を実行しない場合は、サンプル System Configuration メンバ内の「Dsn-Site」の値を NONE にリセットしてください。

USS ディレクトリのクリーン アップ

重要: この手順はオプションです。インストール処理がすべて完了するまで、この手順は使用しないでください。

CA Technologies 製品の pax ファイルのダウンロードおよび処理の実行後、今後のダウンロードのためにファイルシステムのディスク領域を解放するには、USS ディレクトリからファイルを削除し、不要な MVS データセットを削除することをお勧めします。以下の項目を削除できます。

- Pax ファイル
- pax コマンドによって作成された製品固有のディレクトリおよびその中に含まれるすべてのファイル
- SMP/E RELFILE、SMPMCS、HOLDDATA MVS データセット
これらのデータセットには UNZIPJCL ジョブに割り当てた HLQ があります。

注: 今後の参照用に、*yourHLQ.INSTALL.NOTES* など、SMP/E 以外のインストールデータセットは保持してください。

次の手順に従ってください:

1. Pax ESD USS ディレクトリに移動します。

適用可能な USS ディレクトリが表示されます。

2. 以下のコマンドを入力して、**pax** ファイルを削除します。

```
rm paxfile
```

paxfile

ダウンロードした CA Technologies pax ファイルの名前を指定します。

pax ファイルが削除されます。

3. 以下のコマンドを入力して、製品固有のディレクトリを削除します。

```
rm -r product-specific_directory
```

product-specific_directory

pax コマンドによって作成された製品固有のディレクトリを指定します。

製品固有のディレクトリが削除されます。

注: また、TSO ISHELL を使用して **pax** ファイルおよび製品固有のディレクトリに移動し、D 行コマンドを使用して、それらを削除できます。

予防保守の適用

重要: CA Technologies z/OS ベースの製品の保守には、CA CSM を使用することをお勧めします。CA CSM を使用する際に、このセクションで説明されている手順が完全に自動化されます。

CA Support Online (<http://ca.com/jp/support>) には、インストールデータが作成された後、メンテナンスおよび HOLDDATA が公開されます。メンテナンスプロセスが完了した製品は、いつでも展開できます。

メンテナンスストラテジに従い、製品のインストール中および非インストールユース ケースでの継続的な予防保守にこの手順を使用します。

注: CA Technologies メインフレーム メンテナンスの考え方を確認するには、「ベスト プラクティス ガイド」を参照するか、 [[CA Next-Generation Mainframe Management](#)] ページにアクセスしてください。

この手順では、CAUNZIP ユーティリティの使用方法を案内します。CAUNZIP ユーティリティは、z/OS 上で ZIP パッケージを直接処理し、Microsoft Windows ワークステーションなどの中間的なプラットフォームは不要です。このユーティリティに精通していない場合は、「[CA Common Services for z/OS Administration Guide](#)」を参照してください。このガイドには、概要やサンプル バッチ ジョブなどが含まれます。このユーティリティを使用するには、PTF RO54887 適用済みの CA Common Services for z/OS バージョン 14.0 または PTF RO54635 適用済みの CA Common Services for z/OS リリース 14.1 を実行している必要があります。

次の手順に従ってください:

1. Download Center (<http://ca.com/jp/support>) に移動し、このリリースが作成された後に発行された PTF がないかを確認します。最近作成されたベース リリースには、発行済みの PTF はありません。PTF が存在する場合は、該当製品の発行済みソリューションを [Download Cart] に追加し、[Checkout] をクリックします。
2. 完全パッケージを指定します。
処理が終了すると、[Review Download Requests] ページにリンクが表示されます。さらに、電子メール通知を受信します。
3. 注文内容の [Alternate FTP] リンクをクリックして、FTP ログイン情報および ZIP ファイルの場所を取得します。ZIP ファイルを z/OS システム上の USS ディレクトリにダウンロードします。
4. CAUNZIP ユーティリティを実行します。
CAUNZIP は、発行済みソリューションのパッケージを解凍し、SMP/E RECEIVE FROMNTS コマンドが処理できる SMPNTS ファイル構造を作成します。yourHLQ.CAW0JCL(CAUNZIP) にあるユーティリティをサンプル JCL で実行するには、「[CA Common Services for z/OS CAUNZIP 管理ガイド](#)」を参照してください。実行の終了後、ZIPRPT データセットにはスマリ レポートが含まれます。このレポートは、以下の情報を提供します。
 - 製品注文の ZIP ファイルのコンテンツを要約します。
 - 各データのコンテンツおよび生成された z/OS UNIX ファイルの詳細を示します。
 - 注文の PTF を RECEIVE するためのサンプル ジョブを提供します。

5. CAUNZIP 出力 ZIPRPT ファイルで提供されるサンプルジョブを確認します。
注文の PTF を RECEIVE する方法。
 - a. JCL をデータセットにカット & ペーストします。
 - b. SMPCSI DD ステートメントに SMP/E CSI を指定します。
 - c. ジョブをサブミットします。
6. SAMPJCL メンバ NM41HOLD をサブミットします。
そのジョブにより、外部 HOLDDATA ファイルがダウンロードされます。
7. SAMPJCL メンバ NM47RECH をサブミットします。
そのジョブにより、外部 HOLDDATA ファイルが RECEIVE されます。
8. SAMPJCL メンバ NM48APYP をサブミットします。
PTF が APPLY されます。
9. (オプション) SAMPJCL member NM49ACCP をサブミットします。
これで、PTF が ACCEPT されます。
注: これにより、ジョブをサブミットする必要がなくなりました。 サイトのポリシーに従って、PTF を ACCEPT できます。

HOLDDATA

メンテナンスを適用するとき、通常 SMP/E HOLDDATA を使用します。エラーまたは特殊な条件の SYSMOD の SMP/E システムを通知するために HOLDDATA を使用します。以下の 2 種類の HOLDDATA をサポートされています。

システム HOLDDATA

特別な条件をユーザに知らせる SYSMOD のインストリーム部分にあるデータであることを示します。システムの HOLDDATA の例を以下に示します。

ACTION

この SYSMOD を適用する前または後に、特別な処理を実行する必要があることを示します。

DEP

外部的に確認する必要があるこの SYSMOD の依存関係を示します。

DELETE

SYSMOD のロード モジュールを削除します。SMP/E RESTORE コマンドを使用して、この種類の SYSMOD を元に戻すことはできません。

DOC

この SYSMOD を使用したドキュメントの変更を示します。

EC

この SYSMOD には、ハードウェア エンジニアリングの変更が必要であることを示します。EC がハードウェア デバイスに存在しない場合、通常、EC 保留 SYSMOD は製品に影響しません。

内部に保留のある SYSMOD をインストールするには、APPLY コマンド上でバイパス オペランドを設定します。必要なアクションを実行した後、または APPLY 後にアクションを実行している場合で、それが適切な場合のみ、バイパス オペランドを設定できます。

外部 HOLDDATA

外部 HOLDDATA は PTF に含まれていません。これは、別のファイルに存在します。一般的には、すでに配布済みで、問題を引き起こすことが後で判明した SYSMOD に使用されます。

CA Support Online から DASD ファイルに外部 HOLDDATA をダウンロードし、SMPHOLD DD ステートメントにファイルを割り当てます。外部 HOLDDATA を利用するには、SMP/E 環境で受信します。CA によって提供されたジョブを使用する場合、SMP/E は HOLDDATA を受信します。

SYSMOD に未解決の保留エラーがあると、ユーザがバイパスを APPLY コマンドに追加しない場合、SMP/E はそれをインストールしません。ユーザに該当しない状況でのエラー保留はバイパスできます。ユーザに該当しないエラー保留には、保有していないハードウェア デバイス、または使用していない製品機能のみで発生した問題が含まれている可能性があります。

保留を解決する SYSMOD を発行すると、SYSMOD の解決は保留エラーに優先されます。このアクションでは、修正する SYSMOD と共に元の SYSMOD を適用することができます。

ERREL と呼ばれる特別な HOLDDATA クラスが存在します。SYSMOD によって修正される問題は、それが引き起こす問題よりも重要であると決定しました。これらの SYSMOD を適用することをお勧めします。

確実に外部 HOLDDATA データを管理するには、SMP/E によって自動的に管理することを許可します。唯一の手動タスクは REPORT ERRSYSMODS を実行しています。このレポートでは、ユーザのシステムに適用されている保留 SYSMODS を特定します。受信ステータスにある SYSMOD を解決する場合、状況を修正するために適用する SYSMOD を特定します。

システム HOLDDATA

システム HOLDDATA は、SYSMOD のインストリーム部分のデータを示し、ユーザに特別な状態を通知します。CA SYSVIEW では、システム HOLDDATA で以下の理由が使用されます。

ACTION

この SYSMOD を適用する前または後に、特別な処理を実行する必要があることを示します。

AO

自動操作に影響します。メッセージ識別子またはメッセージの内部のフィールドの変位のいずれかを変更します。

DDDEF

データセットと DDDEF が追加されているか変更されることを示します。

DELETE

SYSMOD のロードモジュールを削除します。SMP/E RESTORE コマンドを使用して、この種類の SYSMOD を元に戻すことはできません。

DEP

外部的に確認する必要があるこの SYSMOD の依存関係を示します。

DOC

この SYSMOD を使用したドキュメントの変更を示します。

DYNACT

IPL を実行せずに、この修正を動的にアクティブ化する手順を説明します。

ENH

小規模のプログラミング拡張機能が提供されます。その HOLD ステートメントには、拡張機能を実装するための手順が含まれます。拡張機能の実装に必要なアクションがない場合は、拡張機能の要約を提供します。

EXIT

この SYSMOD によって提供された変更が、ユーザ EXIT の再アセンブルを必要としていることを示します。

EXRF

アクティブかつ代替状態にある拡張リカバリ機能に SYSMOD をインストールする必要があることを示します。

IPL

この SYSMOD を有効化するには IPL が必要であることを示します。動的なアクティブ化の選択肢がないときに限り、使用されます。

MULTSYS

前提条件、共存、または活用のいずれかの場合に、複数のシステムにこの SYSMOD を適用します。

RESTART

この SYSMOD を適用した後、ルーチン再起動ではなく特別な再起動をサイトで実行する必要があることを示します。

SYSMOD

この SYSMOD によって提供される要素の一部またはすべてが、ワークステーションにダウンロードされることを示します。

内部に保留のある SYSMOD をインストールするには、APPLY コマンド上でバイパス オペランドを設定します。バイパス オペランドを設定するのは、必要なアクションを実行した後、または APPLY の後にアクションを実行している場合で、それが適切な場合のみです。

外部 HOLDDATA

外部 HOLDDATA データは PTF に含まれていません。HOLDDATA は、個別のファイルに置かれ、エラー HOLDDATA と FIXCAT HOLDDATA の両方があります。エラー HOLDDATA は、通常、すでに配布済みで、問題を引き起こすことが後で判明した SYSMOD に使用されます。FIXCAT HOLDDATA は、特定のハードウェアデバイス、ソフトウェア、機能をサポートするために必要なメンテナンスの識別に役立ちます。

外部 HOLDDATA を <http://ca.com/jp/support> から DASD ファイルにダウンロードし、ファイルを SMPHOLD DD ステートメントに割り当ててください。外部 HOLDDATA データを利用するには、SMP/E 環境に受け取ります。SMP/E は CA に提供されたジョブから HOLDDATA を受け取ります。

外部 HOLDDATA をダウンロードするための JCL が SAMPJCL にあります。編集セッションで NM41HOLD を開き、コマンドラインから NM4SEdit マクロを実行してください。その後、JCL をサブミットします。

エラー HOLDDATA

SYSMOD に未解決の保留エラーがあると、ユーザがバイパスを **APPLY** コマンドに追加しない場合、SMP/E はそれをインストールしません。ユーザに該当しない状況でのエラー保留はバイパスできます。ユーザに該当しないエラー保留には、保有していないハードウェアデバイス、または使用していない製品機能のみで発生した問題が含まれている可能性があります。

保留を解決する SYSMOD が CA Technologies から発行されると、この解決用 SYSMOD が保留エラーに置き換えられます。このアクションでは、修正する SYSMOD と共に元の SYSMOD を適用することができます。

ERREL と呼ばれる特別な HOLDDATA データ クラスが存在します。これは、SYSMOD によって修正される問題がそれによって引き起こされる問題よりも重要だと判断された場合に使用されます。これらの SYSMOD を適用することをお勧めします。

唯一の手動タスクは、**REPORT ERRSYSMODS** の実行です。このレポートは、以下の項目を識別します。

- 現在のシステムにすでに適用されている保留中の SYSMOD
- RECEIVE ステータスを持つ解決用 SYSMOD

SMP/E は SYSMOD を識別し、状況を修正するために適用します。

FIXCAT HOLDDATA

CA Technologies から提供される [FIXCAT HOLDDATA](#) は、特定のハードウェアデバイス、ソフトウェア、機能をサポートするために必要なメンテナンスの識別に役立ちます。修正カテゴリは、SMP/E FIXCAT HOLDDATA ステートメントとして提供されます。それぞれの FIXCAT HOLDDATA ステートメントは、APAR およびその関連の修正用 PTF を、1つまたは複数の修正カテゴリに関連付けます。

第5章：製品の開始

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

- [展開を準備する方法 \(P. 91\)](#)
- [CA CSM による展開の完了方法 \(P. 92\)](#)
- [CA CSM を使用せずに展開する方法 \(P. 92\)](#)
- [CA CSM を使用して設定を完了する方法 \(P. 94\)](#)
- [CA CSM なしで設定する方法 \(P. 94\)](#)
- [デフォルト SSID のアセンブルおよびリンク \(USRM0001\) \(P. 182\)](#)
- [製品の開始準備 \(P. 182\)](#)
- [製品の開始 \(P. 188\)](#)
- [インストール後の考慮事項 \(P. 188\)](#)

展開を準備する方法

このセクションでは、展開プロセスを開始する前に実行する必要がある手動タスクについて説明します。

IBM APAR の APPLY

CA サポートでは、製品の動作やパフォーマンスに影響を与える IBM APAR を多数特定しています。 私たちは、IBM APAR の最新のリストを確認し、ご利用の環境にとって適切なものだけを適用することをお勧めしています。

注: IBM APAR の最新のリストについては、CA サポートにお問い合わせください。

他のジョブの実行

展開および設定に先立って、以下のタスクを実行する必要があります。

CA CSM による展開の完了方法

このセクションのトピックでは、[CA CSM を使用して製品を設定するとき](#)(P. 44)、実行する手動タスクについて説明します。

CA CSM によりカスタマイズされる起動 JCL プロシージャ

CA CSM を使用して、すべての CA SYSVIEW SMP/E インストール済みターゲットライブラリのコピーを CA CSM システム レジストリに定義されている任意のシステムに展開します。これらのライブラリには、以下のようないわゆるカスタマイズがあります。

- 非シスプレックス システム
- シスプレックス
- 共有 DASD クラスタ
- ステージング システム

CA CSM を使用せずに展開する方法

このセクションのトピックでは、CA CSM を使用して製品を設定しないとき、実行する手動タスクについて説明します。

注: SMP/E ターゲットライブラリをランタイムに使用することはお勧めできません。

トピック「[INSTALL による出力 \(P. 111\)](#)」でインストールジョブ INST0005 を参照してください。

以下の CA SYSVIEW SMP/インストール済みターゲットライブラリのランタイム コピーを展開します。

- CAI.SYSVIEW.CNM4LOD
- CAI.SYSVIEW.CNM4BCAP
- CAI.SYSVIEW.CNM4BCLS
- CAI.SYSVIEW.CNM4BDAT
- CAI.SYSVIEW.CNM4BHP
- CAI.SYSVIEW.CNM4BISP
- CAI.SYSVIEW.CNM4BMAP
- CAI.SYSVIEW.CNM4BMIB
- CAI.SYSVIEW.CNM4BPLT
- CAI.SYSVIEW.CNM4BPNL
- CAI.SYSVIEW.CNM4BPRF
- CAI.SYSVIEW.CNM4BPRM
- CAI.SYSVIEW.CNM4BREX
- CAI.SYSVIEW.CNM4BSAM
- CAI.SYSVIEW.CNM4BSEC
- CAI.SYSVIEW.CNM4BTMP

以下のメソッドのいずれかのを使用して、これらのライブラリへのアクセスを提供できます。

- すべてのシステムからアクセス可能な共有 DASD 上で、これらのライブラリの単一のコピーを割り当てます。
- 各システム上で、これらのライブラリの一意のコピーを割り当てます。

CA CSM を使用して設定を完了する方法

このセクションのトピックでは、[CA CSM を使用して製品を設定するとき \(P. 45\)](#)、実行する手動タスクについて説明します。

CA CSM ユーザインターフェースの操作の説明に従って、環境設定を行います。

CA CSM なしで設定する方法

このセクションのトピックでは、CA CSM を使用して製品を設定しないとき、実行する手動タスクについて説明します。

設定手順を完了するには、SAMPJCL データセットが必要です。ESD メソッドを使用してインストールした場合、SAMPJCL データセットはすでに作成されています。MSM を使用してインストールを行っている場合、SAMPJCL データセットを割り当てるサンプル JCL は CNM4BSAM SMP/E ターゲットライブラリ内のメンバ MSMJCL にあります。

ESD メソッドを使用してインストールした場合は、「[インストールによる出力 \(P. 111\)](#)」セクションを参照して続行してください。

製品設定用のサンプル JCL

以下の JCL を使用して、設定手順を実行します。

```
//MSMINST JOB (0000)
//*
//**=====
//** Sample job to create the sysview.SAMPJCL data set.
/*
//*
//**      PREFIX = the dataset HLQ used for the SMP/E target
/*
//*
//**          zone when the MSM install was performed.
/*
//*
//**          VOLUME = DASD volume
/*
//*
//**=====
//** SET PREFIX=sysview
// SET VOLUME=volume
//*
//COPY    EXEC PGM=IEBCOPY
//SYSUT3  DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(5,1))
//SYSUT4  DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(5,1))
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//*
//IN      DD DISP=SHR,DSN=&PREFIX..CNM4BSAM
//*
//SAMPJCL DD DSN=&PREFIX..SAMPJCL,
//           DISP=(NEW,CATLG,DELETE),
//           UNIT=SYSDA,
//           VOL=SER=&VOLUME,
//           DCB=(RECFM=FB,LRECL=80,BLKSIZE=6160),
//           SPACE=(CYL,(05,02,45))
//*
//SYSIN   DD DISP=SHR,DSN=&PREFIX..CNM4BSAM(SAMPJCL)
//*
```

注: CA MSM の詳細については、「*CA Mainframe Software Manager Guide*」を参照してください。

INSTALL ジョブの変更および実行

SAMPJCL インストールライブラリ内の INSTALL ジョブが CA SYSVIEW のインストールに必要な JCL ストリームを生成します。

この手順には、使用しているサイトの要件に合わせて INSTALL ジョブを変更する方法が説明されています。

この手順を開始する前に、以下の情報をご確認ください。

- 高レベル修飾子 (HLQ)。20 文字以下の文字列である必要があります。
- CA SYSVIEW 用の SVC 番号。タイプ-3 のユーザスーパーバイザーコール (SVC) が必要です。
- APF (許可プログラム機能) で許可されたライブラリのデータセット名。ここに動的インストールプログラムがコピーされます。

次の手順に従ってください:

1. 使用しているサイトの要件に従って、INSTALL 内の以下の JOB ステートメントを変更します。

```
//INSTALL JOB (00000000), 'SYSVIEW', CLASS=A
```

2. INSTALL 内の以下の SYSLIB ステートメントを変更して、高レベル修飾子 *sysview* をインストールライブラリのダウンロード時に選択した修飾子に置換します。

```
//SYSLIB DD DISP=SHR, DSN=sysview.SAMPJCL
```

3. INSTALL 内の GSVIINST マシンパラメータを変更します。

INSTALL ジョブストリームには、マクロの GSVIINST 用のパラメータが含まれます。これらのパラメータに割り当てられた値により、CA SYSVIEW のインストール方法が決定されます。生成されたジョブストリーム内の値は、それらが使用される手順より前に変更できます。

4. INSTALL ジョブをサブミットします。

ジョブが内部リーダにサブミットされ、ジョブストリームが生成されます。

JOBNAME パラメータで指定したジョブ名はアセンブリからの出力です。ジョブ名を指定しなかった場合、ジョブ出力は INST0000 です。

重要: ユーザの TSO は、メンバの編集中に *sysview.SAMPJCL* でエンキューを行います。したがって、編集セッションを終了してこのデータセットを開放し、ジョブが実行されるようにします。

詳細情報:

[GSVIINST マクロ - INSTALL パラメータの設定 \(P. 98\)](#)

GSVIINST マクロ - INSTALL パラメータの設定

INSTALL ジョブをサブミットする前に、GSVIINST マクロのパラメータを設定します。次の例に、INSTALL ジョブ内のデフォルトパラメータ値を表示します。

これらのパラメータの構文は以下の通りです。

```
//INSTALL JOB (000000000), 'SYSVIEW', CLASS=A
//*
//*-----
/*
//*   CA SYSVIEW                      *
//*   Installation generator           *
//*                                     *
//*   This job will dynamically build the other jobs that are      *
//*   required to complete the installation.                         *
//*                                     *
//*   *-----* Important Notice *-----*                         *
//*   *-----*
//*   CA Mainframe Software Manager    *
//*                                     *
//*   If you have used CA Mainframe Software Manager     *
//*   to perform the installation of the product,          *
//*   this step is required.                     *
//*                                     *
//*   Step: Required                      *
//*                                     *
//*-----
/*
//ASM EXEC PGM=ASMA90,REGION=1024K,PARM='NOTERM,LIST,DECK,N0OBJECT'
//*
//SYSUT1 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(1700,(600,100))
//SYSUT2 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(1700,(600,100))
//SYSUT3 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(1700,(600,100))
//SYSPUNCH DD SYSOUT=(*,INTRDR),DCB=(RECFM=FB,LRECL=80,BLKSIZE=2000)
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//*
//*-----
/*
//*   The data set defined to the DDNAME SYSLIB should also      *
//*   be coded as the data set name on the GSVIINST option        *
//*   INSTLIB=.                           *
//*                                     *
//*   The options that require modification or inspection*       *
//*   for specific site installation needs are marked with      *
//*   a "<---".                           *
//*-----
--*
```

```

//*
//SYSLIB DD DISP=SHR,DSN=sysview.SAMPJCL           <---INSTLIB
//*
//*
//** Note: When modifying the macro below, remember to include
//**        the continuation character "X" in column 72 for all
//**        lines except the last line containing the DUMMY=
//**        parameter.
//*
//*.+....1....+....2....+....3....+....4....+....5....+....6....+....7.X
//SYSIN DD *
*
PRINT NOGEN
GSVIINST
      *,-----* X
      , * Installation data set name      * X
      , * This is the data set name that you are * X
      , * editing now.                      * X
      ,-----* X
INSTLIB=sysview.SAMPJCL,          <- X
      ,-----* X
      , * System parmlib data set       * X
      ,-----* X
SYSPLIB=SYS1.PARMLIB,           <- X
      ,-----* X
      , * Source installation Media    * X
      , * ESD - ESD file on DASD     * X
      ,-----* X
SOURCE=ESD,          ESD|DVD      <- X
      ,-----* X
      , * High-level qualifier used when the ESD file * X
      , * was UNZIPPED.                  * X
      ,-----* X
ESDHQ=yourHLQ,          ESD HLQ   <- X
      ,-----* X
      , * Data set allocation         * X
      ,-----* X
PREFIX=sysview,           <- X
SITEDSN=YES,            <- X
DELETE=YES,             X
DASDVOL=volume,          <- X
SMS=NO,                 X
SMSVOL=,                X
STORCLAS=,              X
DSKUNIT=SYSDA,           X
WRKUNIT=SYSDA,           X
PROFTYPE=PDS,            X
      ,-----* X
      , * Data set blocksizes        * X

```

```
, *-----* X
BLKSZU=6144, X
BLKSZFB=3200, X
BLKSZVB=25600, X
, *-----* X
, * z/FS data set allocation * X
, *-----* X
ZFSHLQ=OMVS.SYSVIEW, <--- X
PATHPREFIX=, X
, *-----* X
, * SMP/E * X
, *-----* X
SMPEHLQ=, X
SMPETZ=CAIT, X
SMPEHLQ= X
SMPEDZ=CAID, X
SMPEVOL=volume, <--- X
DLIBVOL=volume, <--- X
SMPEUNIT=SYSDA, X
DLIBUNIT=SYSDA, X
, *-----* X
, * Data set and high level qualifiers * X
, *-----* X
AUTHLIB=apf.auth.dataset.name, <--- X
CEEHLQ=CEE, <--- X
IMSHLQ=ims, <--- X
MQSHLQ=mqseries, <--- X
SYSTCPD=TCPIP.TCPIP.DATA, <--- X
TCPMBR=, X
, *-----* X
, * CA SYSVIEW Options * X
, *-----* X
OPTIONS=(, Begin option list X
NOCAPTURE, ...option X
NOCICS, ...option X
NODATACOM, ...option X
NOIMS, ...option X
NOMVS, ...option X
NOMQSERIES, ...option X
NOTCPIP, ...option X
NOWILYAPM, ...option X
), End option list X
, *-----* X
, * CA SYSVIEW Components * X
, *-----* X
COMPONENTS=(, Begin component list X
DB2, ...component X
HCHECK, ...component X
MIM, ...component X
```

```

ROSCOE,           ...component      X
USS,             ...component      X
XSYSTEM,          ...component      X
),
End component list X
, *-----* X
, *   CA SYSVIEW GEN parameters * X
, *-----* X
SVC=238,          <--- X
SUBSYS=GSVX,       X
,
, *-----* X
, * The CA customer siteid.    * X
, * The siteid will be used to assist technical * X
, * support with diagnostics. This is used when * X
, * FTPing information to CA. (optional)    * X
, *-----* X
SITEID=siteid,     <--- X
,
, *-----* X
, *   Jobcard/JCL creation    * X
, *-----* X
JOBNAME=,          X
NAME='PROGRAMMER NAME', <--- X
ACCT=(000000000),      X
NOTIFY=NO,          X
CLASS=A,            X
MSGCLASS=A,          X
MSGLEVEL=(1,1),      X
ROUTE=NO,            X
SYSAFF=NO,            X
OUTC=*,              X
, *-----* X
, *   Assemble and Link edit  * X
, *-----* X
ASMPGM=ASMA90,      X
LINKPGM=IEWL,        X
,
, *-----* X
, *   End of Macro          * X
, *-----* X
DUMMY=DUMMY

*
*   Do not remove the following line.
*
END
/*

```

以下の GSVIINST パラメータが変更可能です。

INSTLIB

現在のインストールライブラリデータセット名を指定します。

「INSTALL ジョブの変更および実行」の手順で設定した SYSLIB ステートメントで使用したものと同一の高レベル修飾子を使用するようにしてください。

デフォルト : *sysview.SAMPJCL*

SYSPLIB

システム環境設定オプション メンバが含まれるシステム パラメータライブラリを指定します。

デフォルト : SYS1.PARMLIB

SOURCE=source

ソースインストールメディアのタイプを指定します。

有効な値は以下の通りです。

- ESD - 電子ソフトウェア配布 DASD ファイルを指定します。MSM を使用してインストールしている場合は、SOURCE=ESD を使用します。
- DVD - 製品用の pax ファイルを含むフォルダが含まれています。

ESDHLPQ=*yourHLQ*

このパラメータは、SOURCE=ESD が指定されている場合にのみ使用され、また指定する必要があります。

ESD ファイルを z/OS データセットに解凍する際の高レベル修飾子を指定します。UNZIPJCL はこのジョブを実行します。

ESD ファイルを z/OS データセットに解凍する際の高レベル修飾子を指定します。UNZIPJCL はこのジョブを実行します。

UNZIPJCL ジョブはこの高レベル修飾子を *yourHLQ* として参照します。ESDHLPQ= 値に同じ値を使用します。

PREFIX

データセットの割り当てに使用されるプレフィックスを指定します。

制限 : PREFIX および SUFFIX の全体の長さは、20 文字以内である必要があります。

デフォルト : PREFIX=*sysview*

SITEDSN

カスタマイズされたライブラリ メンバーを保守するために 1 セットのサイト ライブラリを使用するかどうかを指定します。

サイトデータ セットが再利用され持ち越されるのは、CA SYSVIEW の新リリースにマイグレートするか更新する場合です。

有効な値は以下の通りです。

YES

サンプルジョブ **INST0006** を生成します。このジョブは 1 セットのサイト ライブラリを作成し、サンプル **GSVX* System** 設定メンバをそれに応じて更新します。

NO

サンプルジョブ **INST0006** は生成されません。

デフォルト : SITEDSN=YES

DELETE

割り当ての前に、個々の新規ライブラリに対して **DELETE** リクエストを生成するかどうかを示すために使用されるパラメータを指定します。YES または NO を指定します。ライブラリの既存のセットに再インストールする場合は、**DELETE=NO** を指定します。

デフォルト : DELETE=YES

DASDVOL

データ セットを割り当てるボリュームのボリュームシリアル番号 (volser) を指定します。

SMS

データ セットの割り当てに **SMS** が使用されるかどうかを定義するのに使用されるパラメータを指定します。YES または NO を指定します。YES を指定した場合は、**STORCLAS** パラメータで SMS ストレージクラスを指定します。

デフォルト : SMS=NO

SMSVOL

SMS データ セットを割り当てるボリュームのボリュームシリアル番号 (volser) を指定します。

注: 一部のサイトでは、**SMS** に volser を指定することを許可していません。

STORCLAS

SMS パラメータで YES を指定している場合に使用する SMS ストレージ クラスを指定します。

DSKUNIT

ディスク ユニット タイプを指定します。

デフォルト : DSKUNIT=SYSDA

WRKUNIT

ディスク ワークユニット タイプを指定します。

デフォルト : WRKUNIT=SYSDA

PROFTYPE

割り当てるプロファイルデータ セット タイプを指定します。

有効な値は以下の通りです。

PDS

PDS プロファイルデータ セットを割り当てます。1 つの PDS は複数のシスプレックスで共有されます。

LIBRARY

PDSE プロファイルデータ セットを割り当てます。このデータ セットは、単一のシスプレックス内でのみ共有できます。使用している構成に複数のシスプレックスが含まれている場合は、各シスプレックスに一意のデータ セットが割り当てられている必要があります。

デフォルト : PDS

BLKSZU

レコード長が未定義のデータ セットを割り当てる際に、ブロック サイズを指定します。このパラメータを使用してロードライブラリデータ セットを割り当てます。

デフォルト : BLKSZU=6144

BLKSZFB

固定ブロック データ セットを割り当てる際に、ブロック サイズを指定します。

デフォルト : BLKSZFB=3200

BLKSZVB

可変ブロック データ セットを割り当てる際に、ブロック サイズを指定します。

デフォルト : BLKSZVB=25600

ZFSHLQ

インストール処理中に作成される z/FS データ セットの高レベル修飾子を指定します。

- **zfshlq.ZFS**

fmid

CA SYSVIEW SMP/E fmid を含みます。

デフォルト : ZFSHLQ=OMVS.SYSVIEW

PATHPREFIX

z/FS データ セットのマウント ポイント用のパス名プレフィックスを指定します。

デフォルト : PATHPREFIX=,

例

PATHPREFIX=/instpath

このプレフィックスは以下のマウント ポイントになります。

instpath/usr/lpp/sysview
instpath/usr/lpp/sysview/fmid
fmid

CA SYSVIEW SMP/E fmid を含みます。

SMPEHLQ

SMP/E ライブラリの HLQ を指定します。SMP/E HLQ に対して値を指定すると、追加サンプルジョブ (INST0004) が生成されます。このジョブは PREFIX で指定されている HLQ を使用して、ランタイム ライブラリ セットを作成します。

SMPETZ

SMP/E ターゲット ゾーンを指定します。

デフォルト : SMPETZ=CAIT

SMPEDZ

SMP/E 配布ゾーンを指定します。

デフォルト : SMPEDZ=CAID

SMPEVOL

内部 SMP/E およびターゲット データ セットを割り当てたボリュームを指定します。

DLIBVOL

SMP/E 配布データ セットを割り当てたボリュームを指定します。

SMPEUNIT

SMPEVOL 指定ボリュームに対してユニット タイプを指定します。

DLIBUNIT

DLIBVOL 指定ボリュームに対してユニット タイプを指定します。

AUTHLIB

動的インストールプログラムをコピーするための APF 許可された既存のライブラリのデータセット名を指定します。この動的インストールプログラムは、実行時に以下のタスクを実行します。

- ロードライブラリを動的に APF 許可します。
- スーパーバイザ コール (SVC) をインストールします。
- サブシステムを追加します。

CEEHLD

ユーザ サイトの C 言語環境高レベル修飾子を指定します。

IMSHLD

ユーザ サイトの IMS 高レベル修飾子を指定します。IMS の複数のリリースが使用されている場合、最高レベルを指定してください。この高レベル修飾子は、以下のデータセット用の DD ステートメントを生成するために使用されます。

```
DD DSN=imshld.SDFSRSL
```

MQSHLD

ユーザ サイトの WebSphere MQ 高レベル修飾子を指定します。WebSphere MQ の複数のリリースが使用されている場合、最高レベルを指定してください。この高レベル修飾子は、以下のデータセット用の DD ステートメントを生成するために使用されます。

```
DD DSN=mqshld.SCSQAUTH
DD DSN=mqshld.SCSQLLOAD
DD DSN=mqshld.SCSQANLE
```

SYSTCPD

システムの TCP/IP 構成ファイルの名前を指定します。このパラメータは、Hierarchical File System (HFS) パスとして指定することもできます。

デフォルト : TCPIP.TCPIP.DATA

TCPMBR

TCP/IP データセットがある場合、そのメンバ名を指定します。

注: このパラメータが必要なのは、SYSTCPD パラメータで指定されたデータセットが PDS である場合のみです。

デフォルト : なし

OPTIONS

お客様にライセンスされているこれらのオプションを有効にします。このオプションにはベース製品が含まれています。オプション値を指定すると、オプションコマンドを使用できます。デフォルトでは、CA SYSVIEW メインメニューからオプションコマンドにアクセスできます。

注: 1つ以上のオプションを指定します。

このパラメータの値には以下のようなものがあります。

- CAPTURE|NOCAPTURE - Event Capture Option
- CICS|NOCICS - CA SYSVIEW Option for CICS
- DATACOM|NODATACOM - CA SYSVIEW CA Datacom Option
- IMS|NOIMS - CA SYSVIEW Option for IMS
- MVS|NOMVS - CA SYSVIEW Option for z/OS
- MQSERIES|NOMQSERIES - CA SYSVIEW Option for WebSphere MQ
- TCPIP|NOTCPIP - CA SYSVIEW Option for TCP/IP
- WILYAPM|NOWILYAPM - CA SYSVIEW for CA APM

COMPONENTS

有効にする CA SYSVIEW コンポーネントを指定します。コンポーネント値を指定すると、コンポーネントコマンドを使用できます。デフォルトでは、CA SYSVIEW メインメニューからコンポーネントコマンドにアクセスできます。

注: DB2 は新しいコンポーネントで、CA Insight for DB2 のライセンス (LMP キー) が必要です。

このパラメータには以下の値が含まれます。

- DB2|NODB2 - CA Insight for DB2
- HCHECK|NOHCHECK - IBM Health Checker
- MIM|NOMIM - CA MIM Resource Sharing for z/OS
- ROSCOE|NOROSCOE - CA Roscoe
- USS|NOUSS - UNIX System Services
- XSYSTEM|NOXSYSTEM - Cross-system コンポーネント

注: CA SYSVIEW のインストールの完了後に、これらのコンポーネントおよびオプションの一部に関して、追加のインストールまたはカスタマイズを実行します。

SVC

CA SYSVIEW で使用するスーパーバイザーコール (SVC) 番号を指定します。タイプ 3 のユーザ SVC が必要です。

デフォルト : 238

SUBSYS

システムパラメータライブラリで System Configuration Options メンバ名に対してサフィックスを指定します。別の製品にすでに使用されていない場合は、GSVX を使用してください。同じサブシステムは、CA SYSVIEW の複数のリリースを共有できます。

デフォルト : SUBSYS=GSVX

SITEID=*siteid*

テクニカルサポートに問い合わせる際に使用する CA カスタマサイト ID を指定します。このサイト ID を使用して、CA へ情報を FTP で送信します。

JOBNAME

インストールジョブ用の JOB ステートメントを作成するために使用するジョブ名を指定します。パラメータが指定されていない場合、インストールメンバの名前が使用されます。

NAME

JOB ステートメントで指定されるプログラマ名を指定します。

ACCT

JOB ステートメントを作成する必要がある場合、アカウント番号を指定します。

デフォルト : ACCT=(00000000)

NOTIFY

ジョブ完了時に通知されるユーザ ID を指定します。NO が指定された場合、JOB ステートメントでこのパラメータは生成されません。

デフォルト : NOTIFY=NO

CLASS

JOB ステートメントで使用するジョブクラスを指定します。

デフォルト : CLASS=A

MSGCLASS

JOB ステートメントで使用するメッセージクラスを指定します。

デフォルト : MSGCLASS=A

MSGLEVEL

JOB ステートメントで使用するメッセージレベルを指定します。

デフォルト : MSGLEVEL=(1,1)

ROUTE

以下のルートステートメントを生成します。

`/*ROUTE PRINT userid`

NO が指定された場合、このステートメントは生成されません。

デフォルト : ROUTE=NO

SYSAFF

次のような、システムとの関連付けを行うステートメントを生成します : `/*JOBPARM SYSAFF=sysname`。 NO が指定された場合、このステートメントは生成されません。

デフォルト : SYSAFF=NO

OUTC

SYSOUT で使用する出力クラスを指定します。

デフォルト : OUTC=*

ASMPGM

モジュールのアセンブルに使用されるプログラムの名前を指定します。
設定可能な値は IEV90 または ASMA90 です。

デフォルト : ASMPGM=ASMA90

LINKPGM

モジュールのリンクエディットに使用されるプログラムの名前を指定します。

デフォルト : LINKPGM=IEWL

詳細情報 :

[INSTALL ジョブの変更および実行 \(P. 63\)](#)

INSTALL による出力

インストール中に、ジョブ INST0110 は、選択したメンバを INSTLIB から sysview.CNM4BSAM にコピーします。 コピーされたメンバは、SAMPLIB カラムにメンバ名で表示されます。

以下のテーブルは、インストール中に作成されるメンバを示しています。

ジョブ/プロシージャ	SAMPLIB	目的
INST0004	なし	SMPEHLQ がコーディングされる際に、ランタイム ライブラリ セットを作成します。
INST0005	なし	ランタイム サイト ライブラリを作成します。
INST0010	なし	システム情報ユーティリティ、GSVCUTIL を指定します。
INST0011	GSVXGSVX	System Configuration Options メンバをシステム PARMLIB へコピーします。
INST0013	MVSMAPS	MVS DSECT マップをアセンブルします。
INST0020	ASMJES	JES 構成モジュールをアセンブルおよびリンクします。
INST0021	JESMAPS	JES DSECT マップをアセンブルします。
INST0030	CAPINDEX	Event Capture インデックス データ セットを初期化します。
INST0031	なし	CA GSS IMOD ライブラリを定義します。
INST0032	なし	IMOD ソース モジュールを CA GSS IMOD ライブラリにロードし、コンパイルします。
INST0040	LOGRADTT	ログ ストリーム Audit を割り当てます。
INST0041	LOGR PLOT	ログ ストリーム Plot を割り当てます。
INST0042	LOGRXLOG	ログ ストリーム Xlog を割り当てます。
INST0043	LOGRSMFD	ログ ストリーム SMFD を割り当てます。
INST0044	LOGRCICS	ログ ストリーム CICS を割り当てます。
INST0045	LOGRIMTR	ログ ストリーム IMS を割り当てます。
INST0046	LOGRMQHR	ログ ストリーム MQ を割り当てます。

ジョブ/プロシージャ	SAMPLIB	目的
INST0050	CNVTSECU	セキュリティ データ セットを変換します。
INST0051	CNVTPROF	プロファイルデータ セットを変換します。
INST0060	CSDUTIL	CICS CSD オブジェクトを定義します。
INST0061	なし	CICS オブジェクトメンバをリンク エディットして、CICS 内部トレーステーブルエントリをフォーマットするロード モジュールを作成します。
INST0100	DYNMINST	SVC、サブシステム、および APF ロードライブ リを動的にインストールします。
INST0110	なし	後で使用するために、サンプル メンバを特定のライブラリへコピーします
USRM0001	なし	デフォルトのサブシステム ID (SSID) をアセンブルしリンクする USERMOD。
IVPnnnnn	なし	インストールを検証します。 注: このインストール検証プログラムが実行可能なのは、インストールが完了し、CA SYSVIEW が開始したときです。
ASMCMDX	ASMCMDX	コマンド EXIT をアセンブルします。
ASMSDSFX	ASMSDSFX	SDSF コマンド EXIT をアセンブルします。
CICSJCL	CICSJCL	サンプル CICS JCL ステートメントを示します。
CICSMAPS	CICSMAPS	CICS DSECT マップをアセンブルします。
EXPRPT	EXPRPT	EXPLORE Report Writer 用のサンプル ジョブ。
FTPCA	FTPCA	CA サポートへデータ セットを FTP 送信するサンプル JCL。
IMODLOAD	IMODLOAD	IMODS を CA SYSVIEW IMOD ライブ リにコピーしコンパイルするユーティリティ ジョブ。
IMSMAPS	IMSMAPS	IMS DSECT マップをアセンブルします。
MIBCOMP	MIBCOMP	MIB コンパイラを示します。
SYSVIEW	SYSVIEW	CA SYSVIEW メイン サービス スタートアップ手順を示します。
SYSLVCL	SYSLVCL	CA SYSVIEW ローカル 3270 インターフェース起動手順を示します。

ジョブ/プロシージャ	SAMPLIB	目的
SYSVUSER	SYSVUSER	CA SYSVIEW ユーザ アドレス空間の起動手順を示します。
SYSVAUX	SYSVAUX	CA SYSVIEW 補助サービスの起動手順を示します。
EZREPORT	EZREPORT	サンプル CA Easytrieve レポート JCL を示します。
SMPPTF	なし	個別のテスト APAR および発行済み PTF を適用します。
NM41HOLD	なし	FTP download SMP/E ERROR HOLDDATA
NM47RECH	なし	SMP/E Receive HOLDDATA
NM47RECP	なし	SMP/E Receive SYSMODS
NM48APYP	なし	SMP/E Apply PTFS
NM49ACCP	なし	SMP/E Accept PTFS

ランタイム ライブラリの作成(INST0004)

このオプションの手順によって、ユーザの環境用のランタイム ライブラリ セットが作成されます。

次の手順に従ってください:

1. SMPEHLQ の値をコーディングし、SMP/E ライブラリ用に別の HLQ を指定します。
ランタイム ライブラリ セットを作成するために、このサンプル JCL メンバ INST0004 が生成されます。
2. システム環境設定オプション メンバでコーディングされている SMP/E ターゲット ライブラリをコピーします。
ランタイム ライブラリが作成されます。

注: SMPEHLQ の値を削除すると、INST0004 JCL は生成されません。または SMPEHLQ の値が PREFIX と同じになります。

ランタイム SITE ライブラリの作成(INST0005)

このオプションの手順では、SYSTEM ランタイムライブラリと同じ HLQ を使用して、実際の環境で必要な一連のランタイム SITE ライブラリを作成します。SITE ライブラリと SYSTEM ライブラリを区別するために、低レベルデータ修飾子の前には「.SITE」 という修飾子が追加されます。

次の手順に従ってください:

1. SMPEHLQ の値をコーディングし、SMP/E ライブラリ用に別の HLQ を指定します。
一連の SITE ランタイムライブラリセットを作成するためのサンプル JCL メンバ INST0005 が生成されます。
2. システム環境設定オプションメンバでコーディングされている SMP/E ターゲットライブラリをコピーします。
SITE ランタイムライブラリが作成されます。

注: SITEDSN=NO を指定すると、INST0005 JCL は生成されません。
SITEDSN=YES を指定すると、INST0005 が実行され、ライブラリが割り当てられます。INST0005 を実行しない場合は、サンプル System Configuration メンバ内の「Dsn-Site」の値を NONE にリセットしてください。

システム情報ユーティリティ GSVCUTIL の実行(INST0010)

システム情報ユーティリティ GSVCUTIL により、インストール時のユーザのシステム情報を表示したレポートが提供されます。このユーティリティの実行後、その情報を使用してユーザの GSVIINST パラメータ値を確認します。

次の手順に従ってください:

1. データセット *sysview.SAMPJCL* 内の INST0010 メンバを調べ、ジョブで参照されているファイルが正しいことを確認します。
2. INST0010 メンバをサブミットします。

このジョブが条件コード 0 で終了すると、以下の情報が記載されたレポートを受け取ります。

- z/OS システム
- サブシステム
- スーパーバイザ コール (SVC) テーブル
- APF (許可プログラム機能) リスト
- SYSVIEW LMP キー

3. パラメータ値を確認します。
 - a. レポートの情報を調べます。
 - b. レポートに表示されたパラメータ値を、INSTALL ジョブを変更および実行するために入力した値と比較します。
 - c. 情報が正しくない場合は、パラメータ値を変更します。

情報が正しい場合は、インストールを続行できます。

システム PARMLIB へのシステム環境設定オプションのコピー(INST0011)

システム環境設定オプション メンバは、CA SYSVIEW の初期化中に環境設定オプションを設定するために使用されます。

次の手順に従ってください:

1. *sysview.SAMPJCL* データ セット内の INST0011 メンバを確認します。
*SAMPJCL SMP/E ターゲットライブラリ*にはサンプル **GSVXGSVX** メンバが含まれています。
2. INST0011 メンバをサブミットします。
 - INST0011 は、システム環境設定オプション メンバを INSTALL ジョブで定義されているシステム PARMLIB にコピーします。
 - メンバ名は、INSTALL で指定された SUBSYS に基づいていて、以下の形式になります。
GSVX<subsys>
subsys
システム環境設定オプション メンバ名。*subsys* のデフォルト値は **GSVX** です。そのため、デフォルトのシステム環境設定オプション メンバ名は **GSVXGSVX** です。
 - INSTALL ジョブは、INSTALL の SUBSYS サフィックスを使用して、SAMPJCL 内にシステム環境設定オプション メンバを生成します。INST0011 はこのメンバをシステム PARMLIB にコピーします。

システム環境設定オプション

システム環境設定オプションは、CA SYSVIEW の初期化中に設定されます。大文字と小文字は区別されません。ジョブ INST0011 を実行する前に、以下のオプションを確認します。

Administrator-Userid

このオプションを使用して、少なくとも 1 名の管理者を定義してください。このオプションを複数回コーディングして、追加の管理者を指定できます。

注: CA SYSVIEW SECURITY コマンドを使用して、追加の管理者を定義することもできます。

有効な値は以下の通りです。 有効なユーザ ID

デフォルト: なし

CA-Customer-SiteID

テクニカルサポートに問い合わせるために使用する CA カスタマ サイト ID を指定します。このサイト ID を使用して、CA へ情報を FTP で送信します。

有効な値は以下の通りです。 7 衔の数値

デフォルト: 0000000

Company-Name

このインストールに関連付けられる会社名を指定します。この会社名は Event Captures に含まれています。

有効な値は以下の通りです。 1 ~ 32 文字の文字列。名前に埋め込みブランクが含まれる場合は、一重引用符で名前を囲みます。

デフォルト: ''

Component-DB2

コンポーネント CA SYSVIEW for CA Insight DPM for DB2 をアクティブにするかどうかを指定します。この DB2 コンポーネントには、製品 CA Insight DPM for DB2 が必要です。

有効な値は以下の通りです。 Yes, No

デフォルト: No

Component-Health-Check

CA SYSVIEW Health Check をアクティブにするかどうかを指定します。この Health Check コンポーネントは、オプション CA SYSVIEW for MVS のサブコンポーネントとして含まれています。

有効な値は以下の通りです。 Yes, No

デフォルト : No

Component-MIM

コンポーネント CA SYSVIEW for CA MIM Resource Sharing for z/OS をアクティブにするかどうかを指定します。この CA MIM コンポーネントは、オプション CA SYSVIEW for MVS のサブコンポーネントとして含まれています。

有効な値は以下の通りです。 Yes, No

デフォルト : No

Component-ROSCOE

コンポーネント CA SYSVIEW for CA Roscoe をアクティブにするかどうかを指定します。この CA Roscoe コンポーネントは、オプション CA SYSVIEW for MVS のサブコンポーネントとして含まれています。

有効な値は以下の通りです。 Yes, No

デフォルト : No

Component-USS

CA SYSVIEW for UNIX System Services (USS) をアクティブにするかどうかを指定します。この USS コンポーネントは、オプション CA SYSVIEW for MVS のサブコンポーネントとして含まれています。

有効な値は以下の通りです。 Yes, No

デフォルト : No

Component-XSYSTEM

CA SYSVIEW Cross-System コンポーネントをアクティブにするかどうかを指定します。このクロスシステム コンポーネントは、オプション CA SYSVIEW for MVS のサブコンポーネントとして含まれています。

有効な値は以下の通りです。 Yes, No

デフォルト : No

Dsn-Site-CAPLIB

サイトの Event Capture ライブラリのデータ セット名を指定します。
Event Capture ライブラリのメンバは、Event Capture 発生時に処理する手順のリストを定義します。

有効な値は以下の通りです。任意の有効なデータ セット名。

デフォルト : NONE

共有 : このデータ セットは CA SYSVIEW の複数のインスタンスおよびシステム間で共有できます。

セキュリティ : すべてのユーザはこのデータ セットへの読み取りアクセス権限を持つ事ができますが、必須ということではありません。

SYSVIEW ユーザ インターフェース アドレス空間に割り当てられているユーザ ID には、データ セットへの読み取りアクセス権限が必要です。

Dsn-Site-CLISTLIB

サイトのコマンド リスト ライブラリのデータ セット名を指定します。

有効な値は以下の通りです。任意の有効なデータ セット名。

デフォルト : NONE

共有 : このデータ セットは CA SYSVIEW の複数のインスタンスおよびシステム間で共有できます。

セキュリティ : すべてのユーザにデータ セットに対する読み取りアクセス権限が必要です。

Dsn-Site-HELPLIB

サイト オンライン ヘルプ ライブラリのデータ セット名を指定します。

有効な値は以下の通りです。任意の有効なデータ セット名。

デフォルト : NONE

共有 : このデータ セットは CA SYSVIEW の複数のインスタンスおよびシステム間で共有できます。

セキュリティ : すべてのユーザにデータ セットに対する読み取りアクセス権限が必要です。

Dsn-Site-MAPLIB

サイト MAP ライブラリのデータ セット名を指定します。

有効な値は以下の通りです。任意の有効なデータ セット名。

デフォルト : NONE

共有 : このデータ セットは CA SYSVIEW の複数のインスタンスおよびシステム間で共有できます。

セキュリティ：すべてのユーザにデータ セットに対する読み取りアクセス権限が必要です。

Dsn-Site-MIBLIB

サイトの MIB ライブラリのデータ セット名を指定します。

有効な値は以下の通りです。任意の有効なデータ セット名。

デフォルト：NONE

共有：このデータ セットは CA SYSVIEW の複数のインスタンスおよびシステム間で共有できます。

セキュリティ：すべてのユーザにデータ セットに対する読み取りアクセス権限が必要です。

Dsn-Site-PANELLIB

サイトのパネルライブラリのデータ セット名を指定します。パネルライブラリには、オンライン CA SYSVIEW 表示用の MENU 定義が含まれています。

有効な値は以下の通りです。任意の有効なデータ セット名。

デフォルト：NONE

共有：このデータ セットは CA SYSVIEW の複数のインスタンスおよびシステム間で共有できます。

セキュリティ：すべてのユーザにデータ セットに対する読み取りアクセス権限が必要です。

Dsn-Site-PARMLIB

サイトのパラメータ ライブラリのデータ セット名を指定します。

有効な値は以下の通りです。任意の有効なデータ セット名。

デフォルト：NONE

共有：このデータ セットは CA SYSVIEW の複数のインスタンスおよびシステム間で共有できます。

セキュリティ：すべてのユーザにデータ セットに対する読み取りアクセス権限が必要です。

Dsn-Site-PLOTLIB

サイトプロット定義ライブラリのデータ セット名を指定します。

有効な値は以下の通りです。任意の有効なデータ セット名。

デフォルト：NONE

共有： このデータ セットは CA SYSVIEW の複数のインスタンスおよびシステム間で共有できます。

セキュリティ： すべてのユーザにデータ セットに対する読み取りアクセス権限が必要です。

Dsn-Site-REXXLIB

サイトの REXX EXEC ライブラリのデータ セット名を指定します。このデータ セットには、CA SYSVIEW が使用するテキストおよびコンパイル済みの REXX EXEC が含まれています。

このライブラリは、ユーザが TSO/ISPF インターフェースへログインする際に、SYSEXEC DD に動的に連結されます。

有効な値は以下の通りです。 任意の有効なデータ セット名。

デフォルト： NONE

共有： このデータ セットは CA SYSVIEW の複数のインスタンスおよびシステム間で共有できます。

セキュリティ： すべてのユーザにデータ セットに対する読み取りアクセス権限が必要です。

Dsn-Site-TEMPLATE

サイトのテンプレート ライブラリのデータ セット名を指定します。

有効な値は以下の通りです。 任意の有効なデータ セット名。

デフォルト： NONE

共有： このデータ セットは SYSVIEW の複数のインスタンスおよびシステム間で共有できます。

セキュリティ： すべてのユーザにデータ セットに対する読み取りアクセス権限が必要です。

Dsn-System-CAPDATA-HLQ

Event Capture ライブラリ データ セットの高レベル修飾子 (HLQ) を指定します。キャプチャの取得時に、CA SYSVIEW は HLQ を使用して新しいデータ セットを割り当てます。完全なデータ セット名を作成するために、時刻と日付のサフィックスが HLQ に追加されます。

時刻と日付のサフィックス =Thhmmss.Dyymmd

有効な値は以下の通りです。 任意の有効なデータ セット名。HLQ を 28 文字に制限して、時間と日付をサフィックスとして追加できるようにします。

例： SYSVIEW.CAPDATA

デフォルト : NOT.DEFINED.SYSVIEW.CAPDATA

Dsn-System-CAPINDEX

Event Capture 索引データセットの名前を指定します。一意のデータセットは各システムに対して作成できます。または、インデックスを複数のシステムで共有することができます。

シンボリック置換変数を使用すると、定義がより簡単になります。

有効な値は以下の通りです。任意の有効なデータセット名。

例 :

SYSVIEW.CAPINDEX.PROD
SYSVIEW.CAPINDEX.TEST
SYSVIEW.CAPINDEX.&SYSNAME

デフォルト : NOT.DEFINED.SYSVIEW.CAPINDEX.SYSNAME

共有 : このデータセットは CA SYSVIEW の複数のインスタンスおよびシステム間で共有できます。

Dsn-System-CAPINDEX-HLQ

Event Capture インデックスデータセットの高レベル修飾子 (HLQ) を指定します。CA SYSVIEW オンラインコマンドは、この HLQ を使用して複数の Event Capture 索引データセットを参照します。

有効な値は以下の通りです。任意の有効なデータセット名。

例 : SYSVIEW.CAPINDEX

デフォルト : NOT.DEFINED.SYSVIEW.CAPINDEX

Dsn-System-CAPLIB

Event Capture ライブラリのデータセット名を指定します。Event Capture ライブラリのメンバは、Event Capture 発生時に処理する手順のリストを定義します。

有効な値は以下の通りです。任意の有効なデータセット名。

デフォルト : NOT.DEFINED.SYSVIEW.CNM4BCAP

共有 : このデータセットは CA SYSVIEW の複数のインスタンスおよびシステム間で共有できます。

セキュリティ : すべてのユーザはこのデータセットへの読み取りアクセス権限を持つことができますが、必須ということではありません。SYSVIEW ユーザインターフェースアドレス空間に割り当てられているユーザ ID には、このデータセットへの読み取りアクセス権限が必要です。

Dsn-System-CLISTLIB

コマンドリストライブラリのデータセット名を指定します。

有効な値は以下の通りです。任意の有効なデータセット名。

デフォルト： NOT.DEFINED.SYSVIEW.CNM4BCLS

共有： このデータセットは CA SYSVIEW の複数のインスタンスおよびシステム間で共有できます。

セキュリティ：すべてのユーザにデータセットに対する読み取りアクセス権限が必要です。

Dsn-System-DATALIB

永続データストアまたはデータライブラリのデータセット名を指定します。CA SYSVIEW リリースをマイグレートまたは更新する際に、このデータセットを再利用できます。

有効な値は以下の通りです。任意の有効なデータセット名。

デフォルト： NOT.DEFINED.SYSVIEW.CNM4BDAT

共有： このデータセットは CA SYSVIEW の複数のインスタンスおよびシステム間で共有できます。このデータセットは PDSE として割り当てられ、そのため、単一のシスプレックス内でのみ共有できます。

セキュリティ：すべてのユーザにこのデータセットに対する読み取りアクセス権限が必要です。SYSVIEW メインサービス アドレス空間に割り当てられているユーザ ID には、データセットへの更新アクセス権限が必要です。

Dsn-System-HELPLIB

オンラインヘルプライブラリのデータセット名を指定します。

有効な値は以下の通りです。任意の有効なデータセット名。

デフォルト： NOT.DEFINED.SYSVIEW.CNM4BHELP

共有： このデータセットは CA SYSVIEW の複数のインスタンスおよびシステム間で共有できます。

セキュリティ：すべてのユーザにデータセットに対する読み取りアクセス権限が必要です。

Dsn-System-MAPLIB

システム MAP ライブラリのデータセット名を指定します。

有効な値は以下の通りです。任意の有効なデータセット名。

デフォルト： NOT.DEFINED.SYSVIEW.CNM4BMAP

共有： このデータ セットは CA SYSVIEW の複数のインスタンスおよびシステム間で共有できます。

セキュリティ： すべてのユーザにデータ セットに対する読み取りアクセス権限が必要です。

Dsn-System-MIBLIB

システム MIB ライブラリのデータ セット名を指定します。

有効な値は以下の通りです。任意の有効なデータ セット名。

デフォルト： NOT.DEFINED.SYSVIEW.CNM4BMIB

共有： このデータ セットは CA SYSVIEW の複数のインスタンスおよびシステム間で共有できます。

セキュリティ： すべてのユーザにデータ セットに対する読み取りアクセス権限が必要です。

Dsn-System-PANELLIB

パネルライブラリのデータ セット名を指定します。パネルライブラリには、オンライン CA SYSVIEW 表示用の MENU 定義が含まれています。

有効な値は以下の通りです。任意の有効なデータ セット名。

デフォルト： NOT.DEFINED.SYSVIEW.CNM4BPNL

共有： このデータ セットは CA SYSVIEW の複数のインスタンスおよびシステム間で共有できます。

セキュリティ： すべてのユーザにデータ セットに対する読み取りアクセス権限が必要です。

Dsn-System-PARMLIB

パラメータライブラリのデータ セット名を指定します。

有効な値は以下の通りです。任意の有効なデータ セット名。

デフォルト： NOT.DEFINED.SYSVIEW.CNM4BPRM

共有： このデータ セットは CA SYSVIEW の複数のインスタンスおよびシステム間で共有できます。

セキュリティ： すべてのユーザにデータ セットに対する読み取りアクセス権限が必要です。

Dsn-System-PLOTLIB

プロット定義ライブラリのデータ セット名を指定します。

有効な値は以下の通りです。任意の有効なデータ セット名。

デフォルト： NOT.DEFINED.SYSVIEW.CNM4BPLT

共有： このデータ セットは CA SYSVIEW の複数のインスタンスおよびシステム間で共有できます。

セキュリティ： すべてのユーザにデータ セットに対する読み取りアクセス権限が必要です。

Dsn-System-PROFILE

プロファイルライブラリのデータ セット名を指定します。

有効な値は以下の通りです。 任意の有効なデータ セット名。

デフォルト： NOT.DEFINED.SYSVIEW.CNM4BPRF

共有： このデータ セットは CA SYSVIEW の複数のインスタンスおよびシステム間で共有できます。プロファイルデータ セットが PDS として割り当てられる場合、そのデータ セットは複数のシスプレックス間で共有できます。プロファイルデータ セットが PDSE として割り当たる場合、そのデータ セットは単一のシスプレックス内でのみ共有できます。

セキュリティ： すべてのユーザにデータ セットに対する読み取りアクセス権限が必要です。ユーザはオンライン セッション中に、プロファイル設定を変更できます。ユーザは、ユーザ設定をハードニングするためにデータ セットへの更新アクセス権限が必要です。

Dsn-System-REXXLIB

REXX EXEC ライブラリのデータ セット名を指定します。このデータ セットには、CA SYSVIEW が使用するテキストおよびコンパイル済みの REXX EXEC が含まれています。

このライブラリは、ユーザが TSO/ISPF インターフェースへログインする際に、SYSEXEC DD に動的に連結されます。

ライブラリは RECFM=F データ セットとしてインストールされます。インストールに SYSEXEC DD 用の RECFM=V を使用する場合は、RECFM=V データ セットに SYSVIEW REXX ライブラリをコピーし変換します。

コンパイルされた REXX EXEC は、RECFM=F データ セットから RECFM=V データ セットに単純にコピーできません。これらの EXEC も変換が必要です。

CA SYSVIEW によって提供される GSVUCFV1 および GSVUCFV2 REXX ユーティリティ EXEC を使用して、SYSVIEW REXX EXEC をコピーおよび変換します。

- GSVUCFV1 は、ISPF ライブラリ管理サービスを使用して、1つ以上のREXX EXEC を RECFM=F データ セットから RECFM=V データ セットにコピーします。この EXEC は、GSVUCFV2 EXEC を呼び出して、コピーされたコンパイル済みの REXX EXEC を変換することができます。
- GSVUCFV2 は、ISPF ライブラリ管理サービスを使用して、単一のコンパイル済み REXX EXEC を RECFM=F データ セットから RECFM=V データ セットに変換します。

CA SYSVIEW によって SAMPLIB データ セット内で REXXFTOV ジョブが提供され、REXX EXEC がコピーおよび変換されます。

REXXFTOV SAMPLIB JCL メンバ：

1. GSVUCFV1 を呼び出して、RECFM=F データ セットから RECFM=V データ セットに REXX EXEC をすべてコピーします。
2. GSVUCFV2 を呼び出して、コピーされたコンパイル済みの REXX EXEC を変換します。

Dsn-System-REXXLIB= RECFM モジュール パラメータでは、変換された RECFM=V データ セットのデータ セット名を指定する必要があります。

有効な値は以下の通りです。任意の有効なデータ セット名。

デフォルト： NOT.DEFINED.SYSVIEW.CNM4BREX

共有： このデータ セットは CA SYSVIEW の複数のインスタンスおよびシステム間で共有できます。

セキュリティ：すべてのユーザにデータ セットに対する読み取りアクセス権限が必要です。

Dsn-System-SAMPLIB

サンプルライブラリのデータ セット名を指定します。

有効な値は以下の通りです。任意の有効なデータ セット名。

デフォルト： NOT.DEFINED.SYSVIEW.CNM4BSAM

共有： このデータ セットは CA SYSVIEW の複数のインスタンスおよびシステム間で共有できます。

セキュリティ：すべてのユーザはこのデータ セットへの読み取りアクセス権限を持つ事ができますが、必須ということではありません。

Dsn-System-SECURITY

セキュリティライブラリのデータ セット名を指定します。

有効な値は以下の通りです。任意の有効なデータ セット名。

デフォルト： NOT.DEFINED.SYSVIEW.CNM4BSEC

共有： このデータ セットは CA SYSVIEW の複数のインスタンスおよびシステム間で共有できます。

セキュリティ： すべてのユーザにデータ セットに対する読み取りアクセス権限が必要です。管理者には更新アクセス権限が必要です。

Dsn-System-TEMPLATE

テンプレートライブラリのデータ セット名を指定します。

有効な値は以下の通りです。 任意の有効なデータ セット名。

デフォルト： NOT.DEFINED.SYSVIEW.CNM4BTMP

共有： このデータ セットは SYSVIEW の複数のインスタンスおよびシステム間で共有できます。

セキュリティ： すべてのユーザにデータ セットに対する読み取りアクセス権限が必要です。

Dump-Destination

CA SYSVIEW がダンプ データ セットを割り当てる際に使用する出力先を指定します。ダンプ データ セットを割り当てる際に値を指定します。そうしないと、出力先は使用されません。ダンプを特定のユーザへ送るために、パラメータ Dump-Remote-Userid と共にこのパラメータオプションを使用します。

有効な値は以下の通りです。 任意の有効な出力先。

デフォルト： なし

Dump-Remote-Userid

CA SYSVIEW がダンプ データ セットを割り当てる際に使用するリモート ユーザ ID を指定します。ダンプ データ セットを割り当てる際に値を指定します。そうしないと、リモート ユーザ ID は使用されません。パラメータ Dump-Destination に対して値が指定されなかった場合も、このパラメータに対して指定された値はすべて無視されます。

有効な値は以下の通りです。 任意の有効なユーザ ID。

デフォルト： なし

Dump-SYSOUT-Class

CA SYSVIEW がダンプ データ セットを割り当てる際に使用する SYSOUT クラスを指定します。ダンプ データ セットを割り当てる際に、ユーザ ID が使用されます。

有効な値は以下の通りです。 任意の有効なクラス。

デフォルト : A

Exit-Module-Command

コマンド EXIT モジュール名を指定します。

有効な値は以下の通りです。任意の有効なメンバ名。

デフォルト : GSVXCMIDX

Exit-Module-SDSF

SDSF コマンド EXIT モジュール名を指定します。

有効な値は以下の通りです。任意の有効なメンバ名。

デフォルト : GSVXSDSX

JES-Name

(オプション) デフォルトの JES サブシステム名を指定します。このオプションのパラメータが指定されない場合、プライマリ JES サブシステムが使用されます。セカンダリ JES2 サブシステムで CA SYSVIEW を使用するには、このパラメータにセカンダリ JES2 サブシステムのサブシステム名を指定する必要があります。

有効な値は以下の通りです。任意の有効な JES サブシステム名。

デフォルト : なし

Map-Member-System

アセンブルされた z/OS 制御ブロック マップ メンバの名前を定義します。

有効な値は以下の通りです。マップ ライブラリにある任意の有効なメンバ名。

デフォルト : GSVXMAPS

Option-CICS

CA SYSVIEW for CICS をアクティブにするかどうかを指定します。

有効な値は以下の通りです。 Yes, No

デフォルト : No

Option-DATACOM

CA SYSVIEW for DATACOM をアクティブにするかどうかを指定します。

有効な値は以下の通りです。 Yes, No

デフォルト : No

Option-Event-Capture

CA SYSVIEW Event Capture をアクティブにするかどうかを指定します。

有効な値は以下の通りです。 Yes, No

デフォルト : No

Option-MVS

CA SYSVIEW for MVS をアクティブにするかどうかを指定します。

有効な値は以下の通りです。 Yes, No

デフォルト : No

Option-IMS

CA SYSVIEW for IMS をアクティブにするかどうかを指定します。

有効な値は以下の通りです。 Yes, No

デフォルト : No

Option-TCPIP

CA SYSVIEW for TCP/IP をアクティブにするかどうかを指定します。

有効な値は以下の通りです。 Yes, No

デフォルト : No

Option-WebSphereMQ

CA SYSVIEW for WebSphere MQ をアクティブにするかどうかを指定します。

有効な値は以下の通りです。 Yes, No

デフォルト : No

オプション - CEAPM

CA Cross Enterprise APM をアクティブにするかどうかを指定します。

有効な値は以下の通りです。 Yes, No

デフォルト : No

Route-Code

CA SYSVIEW が発行するすべての WTO および WTOR マクロで使用するコンソールルートコードを指定します。このルートコードは 10 進数として指定されます。複数のルートコードが必要な場合、パラメータ Route-Code は複数回指定できます。各指定に 1 つのルートコードが含まれます。

例：

Route-Code 2

Route-Code 11

有効な値は以下の通りです。 1,2,3,4,5,6,7,8,9,10,11,12,13,14,15,16

デフォルト： 2、11

Security-Validation

セキュリティ確認および検証の実行方法を指定します。

有効な値は以下の通りです。

- **USER** は、インターフェース CICS、VTAM およびローカル 3270 へのセッションログオン時のユーザ ID およびパスワードを検証するために使用する System Authorization Facility (SAF) を指定します。 TSO、ISPF および CA Roscoe など他のインターフェースについては、ユーザ ID のみが検証されます。
- **GROUP** は、外部セキュリティ製品からユーザ ID へ割り当てられたグループ名を指定します。このグループ名は、どの CA SYSVIEW セキュリティ グループを使用するかを決定するために使用されます。この GROUP オプションには USER オプション機能がすべて含まれます。
- **NO** は、CICS、VTAM またはローカル 3270 インターフェースへのログオン時に、ユーザ ID 検証が実行されないことを指定します。

デフォルト： USER

SVC-Number

CA SYSVIEW が使用するスーパーバイザ コール (SVC) 番号を指定します。

有効な値は以下の通りです。 200 ~ 255

デフォルト： なし

SYSOUT-Class

動的に割り当てられたファイル用のデフォルト SYSOUT クラスを指定します。

有効な値は以下の通りです。 任意の有効なクラス

デフォルト： '*'

TCP-SYSTCPD-Dsn

システムの TCP/IP 構成ファイルの名前を指定します。この名前は、HFS (階層ファイルシステム) パスとして指定できます。

有効な値は以下の通りです。任意の有効なデータ セットまたはパス名
デフォルト : VTAM.TCPIP.TCPIP.DATA

TCP-SYSTCPD-Member

TCP/IP データ セットに使用する（ある場合）メンバ名を指定します。このパラメータは、TCP-SYSTCPD-Dsn パラメータの中で指定されたデータ セットが PDS である場合のみ必要です。

このメンバパラメータは、システムシンボルの使用をサポートします。TCP-SYSTCPD-Member パラメータで指定できる文字列の最大長は 24 バイトです。文字列の 24 バイトを超える部分は切り捨てられます。文字列内のシンボルが解決される場合、最終的なメンバ名は TCP-SYSTCPD-Member 値の最初の 8 バイトで構成されます。文字列の 8 バイトを超える部分は切り捨てられ、無視されます。

有効な値は以下の通りです。任意の有効なメンバ名。

デフォルト : なし

User-Abend-Code

発行されたすべてのユーザ ABEND に使用する ABEND コードを指定します。ABEND の理由を識別するために、一意の理由コードが使用されます。

有効な値は以下の通りです。0 ~ 4095 の数

デフォルト : 2999

VTAM-Applid

CA SYSVIEW VTAM インターフェースが使用する VTAM APPL 名を指定します。

CA SYSVIEW VTAM インターフェースを開始する START コマンドの APPLID パラメータでこのパラメータをオーバーライドします。

有効な値は以下の通りです。任意の有効なアプリケーション ID 名。

デフォルト : なし

VTAM-SPO-Applid

CA SYSVIEW VTAM コマンドが使用するデフォルト VTAM APPL 名をオーバーライドする値を指定します。指定する値は 3 ~ 8 文字の長さで、2 行の数値で終わっている必要があります。

このパラメータの値を指定する場合は、*sysview.CNM4BSAM* データセット内の **SYSVAPPL** メンバで、対応する APPL 名を変更します。

SYSVAPPL メンバ内でコード化された最初の名前は、**VTAM-SPO-Applid** パラメータ値と一致します。末尾の数値を 1 つ増分することにより、追加の APPL 名を指定できます。末尾の数値は 00 からスタートする必要はありませんが、使用されるのは開始値と連続している数値のみです。

有効な値は以下の通りです。3 から 8 文字、2 行の数値で終了
デフォルト：なし

MVS 制御ブロック マップのアセンブル (INST0013)

CA SYSVIEW の MAP コマンドを使用すると、仮想ストレージ内のあらゆるシステムまたはユーザ定義の制御ブロックを表示することができます。DSECT または制御ブロック構造が、使用しているソフトウェアリリースのもので作成されるように、制御ブロック マップをアセンブルしてください。

次の手順に従ってください：

1. *sysview.SAMPJCL* データセット内の INST0013 メンバを調べ、ジョブが参照するファイルがすべて正しいことを確認します。
2. INST0013 メンバをサブミットします。

ジョブが条件コード 0 で終了した場合は、制御ブロック マップは正常にアセンブルされています。

制御ブロック マップをアセンブルする際の保守に関する考慮事項

システムにメンテナンスを APPLY する場合、以下を考慮してください。

- z/OS にメンテナンスを APPLY 後、GSVXMAPS オブジェクトを再アセンブルします。
- 以下の場合、SYSLIB 連結に SYS1.SMPMTS データセットを含めます。
 - ACCEPT されないシステムにメンテナンスを APPLY した場合。
 - 現在のシステムが保守で実行中である。

JES 構成名テーブルの更新

JES parmlib メンバは、JES サブシステム、および CA SYSVIEW が使用する関連する JES 設定モジュールおよびマップ モジュール名を指定するために使用されます。

CA SYSVIEW が使用される各システムの JES 設定モジュールを作成します。

JES 構成名テーブルの更新方法

1. sysview.CNM4BPRM データ セット内の JES parmlib メンバにアクセスします。

JES parmlib メンバには JES 構成名テーブルが含まれます。

2. 提供されたテーブルに適切な情報を入力して JES parmlib メンバ内の JES 構成名テーブルを変更します。

テーブルエントリは、以下のテーブルのカラムにコード化されます。

キーワード	カラム	説明
SysName	01-08	z/OS システム名を定義します。任意のシステム名と一致するようにするには、キーワード「ANY」を指定します。
JES	10-17	JES サブシステム ID を定義します。
Module	19-26	サブシステム用の JES 構成モジュール名を定義します。
Maps	28-35	JES 制御ブロック マップ メンバを定義します。

JES 構成名テーブルの仕組み

CA SYSVIEW はセッションの初期化時に、JES parmlib メンバを検索し、**SysName** カラムに一致する OS システム名を検出します。JES サブシステムへの一致を検出することで、JES 関連のコマンドへのアクセスが可能になります。

マッチングは以下のように行われます。

- GEN モジュールで指定された JESNAME パラメータの値が、JES カラムで指定された JES サブシステム ID と比較されます。
 - それが一致する場合、以下のアクションが発生します。
 1. JES 設定モジュールがロードされます。モジュールは、[Module] 列で指定されます。
 2. JES 製品レベルおよびサービス レベルは、JES サブシステムの製品およびサービス レベルと比較されます。
 - 一致する場合、検索が完了します。
 - 一致しない場合、**SysName** カラムの別の一致するシステム名を探して検索が続行されます。
- 注: 製品およびサービス レベルは、JES 設定モジュールへアセンブルされます。
- JES parmlib メンバ全体を検索して、JES 製品レベルは一致するが、サービス レベルが一致しない場合。
 - 一致する JES 構成モジュールが使用され、サービス レベルが一致しないという警告メッセージが表示されます。
 - 保守が適用されています。
 - JES 構成モジュールを再アセンブルする必要があります。
- 一致する JES 構成モジュールが見つからない場合。
 - JES サービスの初期化が終了します。
 - JES 関連コマンドは使用できません。
- ANY システム名を使用すると、いかなるシステム名にも一致します。ただし、JES 設定モジュール製品およびサービス レベルは、実行中の JES サブシステムと一致する必要があります。
- JES parmlib メンバのいずれのカラムでも、一般的なワイルドカードによるマッチングは実行されません。

JES 構成モジュールの命名規則

以下の推奨される命名規則は、JES バージョンまたは z/OS SMF ID に基づいたものです。

- モジュールおよびマップの名前は、**JES** バージョンを基にします

モジュール名 : **JESnvrrq**

マップ : **MAPnvrrq**

n

JES システムを指定します。 設定可能な値 :

- JES2 の場合 2
- JES3 の場合 3

v

JES バージョンを指定します。

rr

JES リリースを指定します。

q

修飾子を指定します。 つまり、修飾子が必要な場合です。

- モジュールおよびマップの名前は、**z/OS SMF ID** を基にします

モジュール : **JESnsmf**

マップ : **MAPnsmf**

n

JES システムを指定します。 設定可能な値 :

- JES2 の場合 2
- JES3 の場合 3

smf

z/OS の SMF ID (最大 4 文字) を指定します。

例: JES 構成名テーブルへのエントリの追加。

次の例では JES バージョンでの命名規則を使用しています。

```
*....+....1....+....2....+....3....+....4....+....5....+....6....+....7
*=====
*   System name SY01 is running JES2.                               *
*   The associated JES Configuration module is JES2111.             *
*   The DSECT maps for JES2 have been assembled into member MAP2111.  *
*=====
*SysName JES      Module    Maps
*----- -----
SY01     JES2      JES2111  MAP2111

*=====
*   System name SY02 is running JES3.                               *
*   The associated JES Configuration module is JES3111.             *
*   The DSECT maps for JES3 have been assembled into member MAP3111.  *
*=====
*SysName JES      Module    Maps
*----- -----
SY02     JES3      JES3111  MAP3111

*=====
*   This is a "Catch-All" entry that will match all system names    *
*   running JES2.                                                 *
*   The associated JES Configuration module is JES2109.            *
*   The DSECT maps for JES2 have been assembled into member MAP2109.  *
*=====
*SysName JES      Module    Maps
*----- -----
ANY      JES2      JES2109  MAP2109

*=====
*   This is a "Catch-All" entry that will match all system names    *
*   running JES3.                                                 *
*   The associated JES Configuration module is JES3110.            *
*   The DSECT maps for JES3 have been assembled into member MAP3110.  *
*=====
*SysName JES      Module    Maps
*----- -----
ANY      JES3      JES3110  MAP3110
```

JES 構成モジュールのアセンブルおよびリンク(INST0020)

JES 構成モジュールには、JES2 および JES3 の両方に関するリリース固有の情報が含まれます。この情報は JES データの取得に使用されます。

CA SYSVIEW を使用している各システム用の JES 構成モジュールをアセンブルおよびリンクします。

システムの組み合わせ、および JES2 と JES3 のバージョンによっては、このジョブを複数回実行する必要があります。メンテナンスのレベルが異なるシステムは、一意のまたは異なるバージョンと見なされます。

次の手順に従ってください:

1. sysview.SAMPJCL データ セット内の INST0020 メンバを調べ、ジョブが参照するファイルがすべて正しいことを確認します。
2. SET ステートメントを変更して、JES2 および JES3 の構成モジュールを作成します。
 - JES2 構成モジュールを作成するには、以下の SET ステートメントを変更します。

```
SET JES=JES2
SET MODULE=JES2vrrq
```

- JES3 構成モジュールを作成するには、以下の SET ステートメントを変更します。

```
SET JES=JES3
SET MODULE=JES3vrrq
```

SET MODULE= ステートメントで指定された名前は、PARMLIB メンバ JES (JES 構成名テーブル) の名前と一致する必要があります。

3. INST0020 ジョブをサブミットします。

INST0020 ジョブのすべての手順が条件コード 0 で終了した場合は、システムによって JES 構成モジュールが正常にアセンブルおよびリンクされています。

注: 何らかのアセンブリ エラーが発生した場合は、<http://ca.com/support> で、テクニカルサポートにお問い合わせください。エラーのある行を表示するには、ソースメンバの JOFFT マクロで LIST=YES を指定してください。

重要: ターゲット システムと異なるオペレーティング システム レベルでこのジョブを実行している場合は、SYSLIB 連結を変更してターゲット SYSRES にボリューム リファレンスを追加します。

JES 構成モジュールをアセンブルおよびリンクする際の保守に関する考慮事項

システム または CA SYSVIEW 製品にメンテナンスを APPLY する場合、以下を考慮してください。

- JES (JES2 または JES3) にメンテナンスを APPLY した後、および CA SYSVIEW の新リリースがある場合は、JES 構成モジュールを再アセンブルします。
- 以下の条件が当てはまる場合は、SYSLIB 連結に SYS1.SMPMTS データセットを含めます。
 - ACCEPT されないシステムにメンテナンスが APPLY されます。
 - 現在のシステムが保守で実行中である。

JES 制御ブロック マップのアセンブル(INST0021)

CA SYSVIEW の MAP コマンドを使用すると、仮想ストレージ内のあらゆるシステムまたはユーザ定義の制御ブロックを表示することができます。DSECT または制御ブロック構造が、使用しているソフトウェアリリースのもので作成されるように、制御ブロック マップをアセンブルしてください。

次の手順に従ってください:

1. `sysview.SAMPJCL` データ セット内の INST0021 メンバを調べ、ジョブが参照するファイルがすべて正しいことを確認します。
2. MAPIN および MAPOUT の値を設定します。
 - JES2 マップ モジュールを作成するには、以下の SET ステートメントを変更します。


```
SET MAPIN=JES2MAPS
SET MAPOUT=MAP2vrreq
```
 - JES3 マップ モジュールを作成するには、以下の SET ステートメントを変更します。


```
SET MAPIN=JES3MAPS
SET MAPOUT=MAP3vrreq
```

SET MAPOUT= ステートメントで指定された名前は、PARMLIB メンバ JES (JES 構成名テーブル) の名前と一致する必要があります。
3. INST0021 メンバをサブミットします。
ジョブが条件コード 0 で終了した場合は、制御ブロック マップは正常にアセンブルされています。

制御ブロック マップをアセンブルする際の保守に関する考慮事項

システムにメンテナンスを APPLY する場合、以下の手順を考慮してください。

- JES (JES2 または JES3) に保守を適用した後には、JES マップ オブジェクトを再アセンブルします。
- 以下の条件が当てはまる場合は、SYSLIB 連結に SYS1.SMPMTS データ セットを含めます。
 - ACCEPT されないシステムにメンテナンスが APPLY されます。
 - 現在のシステムが保守で実行中である。

Event Capture インデックス データ セットの初期化(INST0030)

Event Capture インデックスデータセットを初期化して、キャプチャしたイベントリストのカタログを作成します。Event Capture オプションが利用可能ではない場合でも、Event Capture インデックスが使用されます。診断用にイベントキャプチャを取って CA に送信できます。

注: 前リリースのインデックスデータをアップグレードおよび再利用する場合は、この手順を省略して構いません。

共有 DASD 上でデータセットが割り当てられている場合は、共通または共有のインデックスデータセットをすべてのシステムで使用することができます。また、各システムで個別のインデックスデータセットを使用することもできます。このインデックスファイルは VSAM KSDS (キー順次データセット) として定義されます。個別のインデックスデータセットを使用する場合、インデックスデータセットに指定した高レベル修飾子にシステム名が含まれている必要があります。&SYSNAME シンボリックパラメータを使用して、システム名を指定します。

次の手順に従ってください:

1. `sysview.SAMPJCL` データセット内の `INST0030` メンバを調べ、ジョブが参照するファイルがすべて正しいことを確認します。
2. `INST0030` メンバをサブミットします。

ジョブが条件コード 0 で終了した場合は、Event Capture インデックスデータセットは正常に初期化されています。

IMOD データ セットの定義およびロード(INST0031 - INST00321)

情報モジュール (IMOD) に使用されるソース メンバは、PDS データ セット `sysview.CNM4BISR` で配布されます。IMOD ソース メンバは CA GSS IMODLIB VSAM データ セットにロードされ、コンパイルされます。

以下の手順に従います。

1. `sysview.SAMPJCL` データ セットの `INST0031` および `INST0032` メンバで、
JCL を変更します。
2. `INST0031` ジョブをサブミットします。
このジョブは IMOD VSAM データ セットを定義します。
3. `INST0032` ジョブをサブミットします。
このジョブは以下機能を実行します。
 - a. ソース IMOD REXX EXEC をソース IMOD PDS から VSAM IMOD データ セットにロードします。
 - b. IMOD を VSAM データ セットにコンパイルします。

ログ ストリームの定義(INST0040 - INST0046)

注: アップグレードでの使用で、すでにログ ストリームが定義済みである場合は、それらのログ ストリームを再利用できます。

注: ログ ストリーム サイズに関する情報については、「Administration Guide」を参照してください。

以下のタイプの収集データをオンラインで表示できるようにするには、まずログ ストリームを定義する必要があります。

- 履歴オーディットイベントデータ レコード
- 履歴プロットデータ レコード
- 監視対象データ レコード
- 例外レコード

注: `INST0040` から `INST0046` までを実行する前に、z/OS システム ロガー サービスをアクティブにし、システム上の `LOGR` ポリシーを定義します。

次の手順に従ってください:

1. *sysview.SAMPJCL* データ セット内の **INST0040** から **INST0046** までのメンバを調べ、ジョブで参照されているファイルがすべて正しいことを確認します。
2. 以下のサンプル定義で表示されるようなログストリームを定義します。 JCL は **DASD** のみのログストリームを定義し、ログストリームの特性をリスト表示します。

```
//INST004* JOB (09900000), 'PROGRAMMER NAME',
  REGION=0M,
  MSGCLASS=A,
  CLASS=A,
  MSGLEVEL=(1,1)

//DEFINE EXEC PGM=IXCMIAPIU,REGION=0M
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN    DD *

DATA TYPE(LOGR) REPORT(N0)

DEFINE LOGSTREAM
  NAME(ssidrrm.taskname.type.smfi)
  AUTODELETE(YES)
  DASDONLY(YES)
  DESCRIPTION(....16chars.....)
  DIAG(NO)
  EHLQ(LOGGER)
  HIGHOFFLOAD(70)
  LOWOFFLOAD(0)
  LS_SIZE(1000)
  MAXBUFSIZE(32767)
  MODEL(NO)
  OFFLOADRECALL(YES)
  RETPD(7)
  STG_SIZE(750)

LIST LOGSTREAM
  NAME(ssidrrm.taskname.type.smfi)
  DETAIL(YES)
```

3. 各システム上で必要な z/OS ログストリームを定義する適切なジョブをサブミットします。

ジョブが条件コード 0 で終了した後、ログストリームをオンラインで表示できます。これらのログストリームに書き込まれている・コードは SMF 形式です。

ログストリームのガイドライン

ログストリームの定義では、以下のガイドラインに従ってください。

- SMS がユーザのログストリームデータセットを管理している。
- SMS データクラスがデータ圧縮をサポートしている。
- ログストリームの命名規則を遵守します。

注: アップグレードでの使用で、すでにログストリームが定義済みである場合は、それらのログストリームを再利用できます。

- 利用可能なログデータタイプを使用している。

利用可能なログデータタイプは、以下のとおりです。

ADTT

オーディットイベントレコードを示します。

IMRS

IMS 領域サマリレコードを示します。

IMTR

IMS トランザクションレコードを示します。

MQHR

MQ の履歴リクエストを示します。

PLOT

履歴プロットレコードを示します。

SMFD

SMF データレコードを示します。

TRAN

CICS の詳細トランザクションレコードを示します。

TSUM

CICS トランザクションサマリレコードを示します。

SYSD

CICS システム間隔データレコードを示します。

XLOG

すべてのコンポーネントの例外レコードを示します。

注: 複数のログデータタイプがログストリームを共有できますが、**SMFD** と **TRAN** のデータタイプを含むログストリームを共有することをお勧めしません。これらのログに書き込まれるデータレコードのサイズは、他のタイプのログに書き込まれるものよりも遙かに大きくなります。

- **LOGSTREAM** の説明の規則に従っている。

LOGSTREAM の説明は 16 文字で、空白を含めることはできません。

ログストリーム命名規則

ログストリームの命名規則に従って、オンライン表示のためのログストリームを定義します。

注: ログストリーム名を指定するための **parmlib** メンバは **sysview.CNM4BPRM** データセットにあります。

以下の命名規則をお勧めします。この規則は 26 文字の制限に準じています。

ssidrrm.taskname.type.smfi

ssid

SYSVIEW サブシステム ID を指定します

rrm.

リリース番号および区切り記号文字を指定します

taskname.

所有する SYSVIEW タスクおよび区切り記号文字を指定します

type.

ログデータタイプ修飾子および区切り記号文字を指定します

smfi

SMF ID を指定します

制限: 26 文字のログストリーム名。名前は **SYSPLEX** 全体で一意である必要があります (**SYSPLEX** 全体で一意であるログストリーム名を提供するものであれば、どのような命名規則も容認されます)。

例: ログストリーム命名規則

ログストリーム名として推奨する命名規則の例を以下の表に示します。

Taskname.Type	ログストリーム名
AUDIT.ADTT	GSVX130.AUDIT.ADTT.smfid
IMSLOGR.IMRS	GSVX130.IMSLOGR.IMRS.smfid
IMSLOGR.IMTR	GSVX130.IMSLOGR.IMTR.smfid
MQSDATA.MQHR	GSVX130.MQSDATA.MQHR.smfid
SMFDATA.PLOT	GSVX130.SYSDATA.PLOT.smfid
SYSDATA.SMFD	GSVX130.SMFDATA.SMFD.smfid
SYSDATA.XLOG	GSVX130.SMFDATA.XLOG.smfid
CICSLOGR.TRAN	GSVX130.CICSLOGR.TRAN.smfid
CICSLOGR.TSUM	GSVX130.CICSLOGR.TSUM.smfid
CICSLOGR.SYSD	GSVX130.CICSLOGR.SYSD.smfid
CICSLOGR.XLOG	GSVX130.CICSLOGR.XLOG.smfid

手順 1: オーディット イベント用のログ ストリームの定義(INST0040)

この手順では、履歴オーディットイベントデータ レコードを含めるログ ストリームのセットを定義します。

各システムで定義されているオーディットイベントデータ レコードそれぞれに対して、固有のログ ストリームを作成する必要があります。

注: ログ ストリーム名を指定するための **parmlib** メンバは **sysview.CNM4BPRM** データ セットにあります。

次の手順に従ってください:

1. この手順の後に示される例に従って、ログ ストリームを指定します。
2. 定義されたログ ストリームの名前を以下の **parmlib** メンバ内で指定します。

AUDIT

```
LOGSTREAM-AUDIT-NAME    logstream.name
```

オーディット ログ機能を使用しないか、またはログ ストリームが定義されていない場合は、以下のオプションを設定します。

```
LOGSTREAM-AUDIT-NAME    NONE
```

LGLOOKUP

```
Sysname  Logname.....LogStream-Name  
sysname  AUDIT        logstream.name
```

3. INST0040 ジョブをサブミットします。

履歴オーディットイベントデータ レコード用のログ ストリームが定義され、ログ ストリームの内容がオンラインで表示できます。

例: DASD のみのオーディット ログ ストリームを定義する。

この例では、履歴オーディットイベントデータレコードを収集するための、DASD のみのオーディット ログ ストリームを定義しています。

```
DATA TYPE(LOGR) REPORT(NO)
DEFINE LOGSTREAM
    NAME(GSVX130.AUDIT.ADTT.smfi)
    AUTODELETE(YES)
    DASDONLY(YES)
    DESCRIPTION(AUDIT_LOG)
    DIAG(NO)
    EHLQ(LOGGER)
    HIGHOFFLOAD(70)
    LOWOFFLOAD(0)
    LS_SIZE(5000)
    MAXBUFSIZE(32767)
    MODEL(NO)
    OFFLOADRECALL(YES)
    RETPD(7)
    STG_SIZE(3500)
```

オーディット イベントのログ ストリームのオンライン表示

オーディット イベント データ ロガーによって作成されたレコードを含むログ ストリームを定義した後は、ログ ストリームをオンラインで表示することができます。

ログ ストリームを表示するために以下のコマンドを使用します。

AUDITLOG

オーディット イベント データ 収集 ログ を表示します。

ログ ストリーム が 表示 され ます。

手順 2: 履歴プロット データレコード用のログ ストリームの定義(INST0041)

データコレクタによって作成されたオンライン履歴プロットデータレコードを表示するには、それらのレコードが含まれるログストリームを定義します。

各システムで固有のログストリームを作成します。

注: ログストリーム名を指定するための **parmlib** メンバは **sysview.CNM4BPRM** データセットにあります。

次の手順に従ってください:

1. この手順の後に示される例に従って、ログストリームを指定します。
2. 定義されたログストリームの名前を以下の **parmlib** メンバ内で指定します。

SYSDATA

LOGSTREAM-PLOTLOG-NAME *logstream.name*

プロットログ機能を使用しないか、またはログストリームが定義されていない場合は、以下のオプションを設定します。

LOG-PLOT-RECORDS NO

LOGSTREAM-PLOTLOG-NAME NONE

LGLOOKUP

Sysname Logname.....LogStream-Name
sysname PLOTLOG logstream.name

3. INST0041 ジョブをサブミットします。

履歴プロットデータレコード用のログストリームが定義され、ログストリームの内容がオンラインで表示できます。

例: DASD-Only ログ ストリームの定義

この例では、履歴プロットイベントデータ レコードを収集するための、DASD のみのログ ストリームを定義しています。

```
DATA TYPE(LOGR) REPORT(NO)
DEFINE LOGSTREAM
    NAME(GSVX130.SYSDATA.PLOT.smfi)
    AUTODELETE(YES)
    DASDONLY(YES)
    DESCRIPTION(PLOT_LOG)
    DIAG(NO)
    EHLQ(LOGGER)
    HIGHOFFLOAD(70)
    LOWOFFLOAD(0)
    LS_SIZE(1000)
    MAXBUFSIZE(32767)
    MODEL(NO)
    OFFLOADRECALL(YES)
    RETPD(30)
    STG_SIZE(750)
```

履歴プロット データ レコードのオンライン表示

データ コレクタによって作成された履歴プロット データ レコードを含むログ ストリームを定義した後は、ログ ストリームをオンラインで表示することができます。

ログ ストリームを表示するために以下のコマンドを使用します。

LGLOGS

データ収集ログを表示します。

PLOTLOG

履歴プロット ログを表示します。

ログ ストリームが表示されます。

手順 3: XLOG ログ ストリーム用のログ ストリームの定義(INST0042)

この手順では、以下のデータ コレクタによって作成される例外レコードを含むログ ストリームを定義します。

- IMS
- MVS
- TCP/IP
- WebSphere MQ

各システムで固有のログストリームを作成する必要があります。

注: ログストリーム名を指定するための **parmlib** メンバは **sysview.CNM4BPRM** データセットにあります。

次の手順に従ってください:

1. この手順の後に示される例に従って、ログストリームを指定します。
2. この手順で定義するログストリームの名前を以下の **parmlib** メンバ内で指定します。

SYSDATA:

```
LOGSTREAM-XLOG-NAME      logstream.name
```

例外レコードを使用しないか、またはログストリームが定義されていない場合は、以下のオプションを設定します。

```
LOG-XLOG-RECORDS        NO
LOGSTREAM-XLOG-NAME     NONE
```

LGLOOKUP:

```
Sysname  Logname.....LogStream-Name..
sysname  XLOG          logstream.name
```

3. INST0042 ジョブをサブミットします。

XLOG 状態例外レコード用のログストリームが定義されます。

例: XLOG ログストリームの定義

この例では、例外レコードを収集するための XLOG ログストリームを定義しています。

```
DATA TYPE(LOGR) REPORT(NO)
DEFINE LOGSTREAM
    NAME(GSVX130.SYSDATA.XLOG.smfi)
    AUTODELETE(YES)
    DASDONLY(YES)
    DESCRIPTION(XLOG_LOG)
    DIAG(NO)
    EHLQ(LOGGER)
    HIGHOFFLOAD(70)
    LOWOFFLOAD(0)
    LS_SIZE(1500)
    MAXBUFSIZE(32767)
    MODEL(NO)
    OFFLOADRECALL(YES)
    RETPD(14)
    STG_SIZE(1000)
```

XLOG 状態例外データレコードのオンライン表示

XLOG 状態例外レコードを含むログストリームを定義した後は、収集したデータをオンラインで表示することができます。

ログストリームを表示するために以下のコマンドを使用します。

LGLOGS

parmlib の LGLOOKUP メンバで指定されたデータ収集ログを表示します。

XLOG

すべての CA SYSVIEW コンポーネントについて、しきい値と状態例外レコードを表示します。

手順 4: (オプション) Event Capture Option でのログストリームの定義 (INST0043)

この手順が必要になるのは、CA SYSVIEW Event Capture Option を実行している場合のみです。

SMFDATA タスクで収集された SMF レコードが含まれるログストリームを定義します。SMF データコレクションは CA SYSVIEW Event Capture Option のコンポーネントです。

注: SMF Event Capture のセットアップの詳細については、「Administration Guide」の「Starting the Subtasks」の章を参照してください。

各システムで固有のログストリームを作成する必要があります。

注: ログストリーム名を指定するための parmlib メンバは sysview.CNM4BPRM データセットにあります。

次の手順に従ってください:

1. -この手順の後に示される、「例: DASD のみのログストリームの定義」に従って、ログストリームを指定します。
2. 定義されたログストリームの名前を以下の **parmlib** メンバ内で指定します。

SMFDATA

```
LOGSTREAM-SMFDATA-NAME      logstream.name
```

SMF ログ機能を使用しないか、またはログストリームが定義されていない場合は、以下のオプションを設定します。

```
LOGSTREAM-SMFDATA-NAME      NONE
```

また、SYSVIEW parmlib メンバで SMFDATA タスクを開始しないでください。

LGLOOKUP

```
Sysname  Logname..... LogStream-Name
sysname  SMFDATA       logstream.name
```

3. INST0043 ジョブをサブミットします。

Event Capture Option 用のログストリームが定義され、収集されたデータがオンラインで表示できます。

例: DASD-Only ログストリームの定義

DASD のみのログストリームの例を示します。

```
DATA TYPE(LOGR) REPORT(NO)

DEFINE LOGSTREAM
  NAME(GSVX130.SMFDATA.SMFD.smfi)
  AUTODELETE(YES)
  DASDONLY(YES)
  DESCRIPTION(SMF_LOG)
  DIAG(NO)
  EHLQ(LOGGER)
  HIGHOFFLOAD(70)
  LOWOFFLOAD(0)
  LS_SIZE(15000)
  MAXBUFSIZE(32767)
  MODEL(NO)
  OFFLOADRECALL(YES)
  RETPD(5)
  STG_SIZE(10000)
```

Event Capture Option ログ ストリームのオンライン表示

SMFDATA タスクによって収集された SMF レコードを含むログ ストリームを定義した後は、ログ ストリームをオンラインで表示することができます。

ログ ストリームを表示するために以下のコマンドを使用します。

LGLOGS

データ収集ログを表示します

SMFLOG

SMF ログを表示します

ログ ストリームが表示されます。

手順 5: (オプション)CICS オプション用のログ ストリーム セットの定義 (INST0044)

この手順が必要となるのは、CA SYSVIEW Option for CICS を実行している場合のみです。

この手順では、CICS データ コレクタによって作成されるレコードを含めるためのログ ストリームのセットを定義します。

CICS データコレクタは、CA SYSVIEW のメインアドレス空間で実行されている指定 CICS ロガーを使用してレコードをルーティングします。複数の CICS ロガーを定義できます。

各システムで定義されている CICS ロガーそれぞれに対して、固有のログ ストリームを作成する必要があります。

注: ログ ストリーム名を指定するための **parmlib** メンバは **sysview.CNM4BPRM** データ セットにあります。

次の手順に従ってください:

1. この手順の後に示される例に従って、ログストリームを指定します。
1～4個のログストリームを定義できます。

ログストリームには以下の命名規則をお勧めします。

ssidrrm.cicslogr.TRAN.smfi
ssidrrm.cicslogr.TSUM.smfi
ssidrrm.cicslogr.SYSD.smfi
ssidrrm.cicslogr.XLOG.smfi

ssid

CA SYSVIEW のサブシステム ID を指定します。

rrm

リリース番号を指定します

cicslogr

CICS ロガーを指定します。

smfi

SMF ID を指定します

ログデータのタイプは以下通りです。

TRAN

CICS トランザクションログを指定します。

TSUM

CICS トランザクションサマリを指定します。

SYSD

CICS システムデータを指定します。

XLOG

CICS 例外ログを指定します。

重要: 複数のログデータタイプでログストリームを共有できます。
CICS トランザクションログレコードを含めるように定義されたログストリームの共有はお勧めしません。このログのデータボリュームは、他のログタイプよりずっと大きくなります。

2. この手順で定義されたログストリームの名前を以下の **parmlib** メンバで指定します。

CICSLOGR

CICS データ ロガー機能のデフォルト構成オプションを提供します。

ログストリームを使用する予定がないか、まだ定義されていない場合は、オプションの値を「NONE」に適宜設定してください。

```
LOGSTREAM-CICSTRAN-NAME      NONE  
LOGSTREAM-CICSTSUM-NAME      NONE  
LOGSTREAM-CICSSYSD-NAME      NONE  
LOGSTREAM-CICSXLOG-NAME      NONE
```

LGLOOKUP

このメンバ内で定義されているログ名をログストリーム名と関連付けます。

```
Sysname Logname..... LogStream-Name  
Sysname CICSLOGR.TRAN... logstream.name  
Sysname CICSLOGR.TSUM... logstream.name  
Sysname CICSLOGR.SYSD... logstream.name  
Sysname CICSLOGR.XLOG... logstream.name
```

3. INST0044 ジョブをサブミットします。

CICS オプションのログストリームが定義され、CA SYSVIEW が保守しているログストリームの内容をオンラインで表示できます。

例: TRAN ログストリームの定義

CICS トランザクションログストリームの例を示します。

```
DATA TYPE(LOGR) REPORT(NO)  
  
DEFINE LOGSTREAM  
      NAME(GSVX130.CICSLOGR.TRAN.smfi)  
      AUTODELETE(YES)  
      DASDONLY(YES)  
      DESCRIPTION(CICS_TRANLOG)  
      DIAG(NO)  
      EHLQ(LOGGER)  
      HIGHOFFLOAD(70)  
      LOWOFFLOAD(0)  
      LS_SIZE(20000)  
      MAXBUFSIZE(32767)  
      MODEL(NO)  
      OFFLOADRECALL(YES)  
      RETPD(5)  
      STG_SIZE(15000)
```

例: TRANSUMM ログ ストリームの定義

CICS トランザクション サマリ ログ ストリームの例を示します。

```
DEFINE LOGSTREAM
    NAME(GSVX130.CICSLGR.TSUM.smfi)
    AUTODELETE(YES)
    DASDONLY(YES)
    DESCRIPTION(CICS_TRANSUMM)
    DIAG(NO)
    EHLQ(LOGGER)
    HIGHOFFLOAD(70)
    LOWOFFLOAD(0)
    LS_SIZE(1000)
    MAXBUFSIZE(32767)
    MODEL(NO)
    OFFLOADRECALL(YES)
    RETPD(30)
    STG_SIZE(750)
```

例: SYSD ログ ストリームの定義

CICS データ ログ ストリームの例を示します。

```
DEFINE LOGSTREAM
    NAME(GSVX130.CICSLGR.SYSD.smfi)
    AUTODELETE(YES)
    DASDONLY(YES)
    DESCRIPTION(CICS_SYSDATA)
    DIAG(NO)
    EHLQ(LOGGER)
    HIGHOFFLOAD(70)
    LOWOFFLOAD(0)
    LS_SIZE(1000)
    MAXBUFSIZE(32767)
    MODEL(NO)
    OFFLOADRECALL(YES)
    RETPD(90)
    STG_SIZE(750)
```

例: XLOG ログ ストリームの定義

CICS 例外ログ ストリームの例を示します。

```
DEFINE LOGSTREAM
  NAME(GSVX130.CICSLGR.XLOG.smfi)
  AUTODELETE(YES)
  DASDONLY(YES)
  DESCRIPTION(CICS_XLOG)
  DIAG(NO)
  EHLQ(LOGGER)
  HIGHOFFLOAD(70)
  LOWOFFLOAD(0)
  LS_SIZE(1000)
  MAXBUFSIZE(32767)
  MODEL(NO)
  OFFLOADRECALL(YES)
  RETPD(30)
  STG_SIZE(750)
```

CICS オプション用ログ ストリームのオンライン表示

CICS データ コレクタによって作成されたレコードを含むログ ストリームを定義した後は、ログ ストリームをオンライン表示することができます。

ログ ストリームを表示するために以下のコマンドを使用します。

CSYSDATA

CICS システム間隔分析を表示します

CTRANLOG

CICS トランザクション ログ サマリを表示します

CTRANSUM

CICS トランザクション間隔を表示します

LGLOGS

データ収集ログを表示します

XLOG

CICS 例外ログを表示します

ログ ストリームが表示されます。

手順 6: (オプション) IMS オプション用のログ ストリームの定義(INST0045)

この手順が必要となるのは、CA SYSVIEW Option for IMS を実行している場合のみです。

この手順では、IMS トランザクションデータ ロガーによって作成されるレコードを含めるためのログ ストリームのセットを定義します。

IMS トランザクションデータ ロガーは、CA SYSVIEW のメインアドレス空間で実行されているタスクによってログ記録されるレコードを作成します。複数の IMS ロガーが実行されている場合、各ロガーは特定のログを共有したり、特定のログ ストリームを専用に定義することができます。

注: 複数のロガーおよびタイプでログ ストリームを共有できます。ただし、IMS トランザクション ログ レコードが含まれるログ ストリームの共有はお勧めしません。このログのデータ ボリュームは、他のログ タイプより大きくなります。

注: ログ ストリーム名を指定するための **parmlib** メンバは **sysview.CNM4BPRM** データ セットにあります。

次の手順に従ってください:

1. この手順の後に示される例に従って、ログ ストリームを指定します。

ログ ストリームには以下の命名規則をお勧めします。

ssidrrm.IMSLOGR.IMRS.smfi

ssidrrm.IMSLOGR.IMPTR.smfi

または

ssidrrm.IMSssid.IMRS.smfi

ssidrrm.IMSssid.IMPTR.smfi

ssid

SYSVIEW サブシステム ID を指定します

rrm

リリース番号を指定します

IMS

IMS ロガー名を指定します

ssid

IMS サブシステムを指定します

IMRS

IMS 領域サマリ レコードのログデータ タイプを指定します

IMTR

IMS トランザクションのログデータ タイプを指定します

smfi

SMF ID を指定します

- 定義されたログストリームの名前を以下の **parmlib** メンバ内で指定します。

IMSLOGR

IMS データ ロガー機能のデフォルト構成オプションを提供します。

LOGSTREAM-IMSREGN-NAME *logstream.name*

LOGSTREAM-IMSTRAN-NAME *logstream.name*

ログストリームを使用する予定がないか、まだ定義されていない場合は、オプションの値を「NONE」に適宜設定してください。

LOGSTREAM-IMSREGN-NAME NONE

LOGSTREAM-IMSTRAN-NAME NONE

LGLOOKUP

このメンバ内で定義されているログ名をログストリーム名と関連付けます。

Sysname Logname..... LogStream-Name

Sysname IMSLOGR.IMRS logstream.name

Sysname IMSLOGR.IMTR logstream.name

または

Sysname IMSssid.IMRS logstream.name

Sysname IMSssid.IMTR logstream.name

- INST0045 ジョブをサブミットします。

IMS オプション用のログストリームが定義され、収集されたデータがオンラインで表示できます。

例: IMRS ログ ストリームの定義

IMS 領域サマリ データ ストリーム ログの例を示します。

```
DATA TYPE(LOGR) REPORT(NO)
```

```
DEFINE LOGSTREAM
  NAME(GSVX130.IMSLOGR.IMRS.smfi)
  AUTODELETE(YES)
  DASDONLY(YES)
  DESCRIPTION(IMS_RSUMLOG)
  DIAG(NO)
  EHLQ(LOGGER)
  HIGHOFFLOAD(70)
  LOWOFFLOAD(0)
  LS_SIZE(1000)
  MAXBUFSIZE(32767)
  MODEL(NO)
  OFFLOADRECALL(YES)
  RETPD(14)
  STG_SIZE(750)
```

例: IMTR ログ ストリームの定義

IMS トランザクションデータ ログ ストリームの例を示します。

```
DATA TYPE(LOGR) REPORT(NO)
```

```
DEFINE LOGSTREAM
  NAME(GSVX130.IMSLOGR.IMTR.smfi)
  AUTODELETE(YES)
  DASDONLY(YES)
  DESCRIPTION(IMS_TRANLOG)
  DIAG(NO)
  EHLQ(LOGGER)
  HIGHOFFLOAD(70)
  LOWOFFLOAD(0)
  LS_SIZE(5000)
  MAXBUFSIZE(32767)
  MODEL(NO)
  OFFLOADRECALL(YES)
  RETPD(5)
  STG_SIZE(4000)
```

IMS オプション用ログ ストリームのオンライン表示

IMS データ ロガーによって作成されたレコードを含むログ ストリームを定義した後は、ログ ストリームをオンラインで表示することができます。

ログ ストリームを表示するために以下のコマンドを使用します。

LGLOGS

データ収集ログを表示します

IMSRSLG

収集データをオンラインで表示します。

IMSTLOG

IMST ログを表示します。

ログ ストリームが表示されます。

手順 7: (オプション)WebSphere MQ オプション用のログストリームの定義(INST0046)

この手順が必要となるのは、CA SYSVIEW Option for WebSphere MQ を実行している場合のみです。

この手順では、WebSphere MQ データコレクタによって作成されるレコードを含めるためのログストリームを定義します。各システムで固有のログストリームを作成する必要があります。

注: ログストリーム名を指定するための **parmlib** メンバは **sysview.CNM4BPRM** データセットにあります。

次の手順に従ってください:

1. この手順の後に示される例に従って、ログストリームを指定します。
2. この手順で定義されたログストリームの名前を以下の **parmlib** メンバで指定します。

MQSDATA

WebSphere MQ データコレクタ機能のデフォルト構成オプションを提供します。

LOGSTREAM-MQSDATA-NAME *logstream.name*

ログ機能を使用しないか、またはログストリームが定義されていない場合は、以下のオプションを設定します。

LOGSTREAM-MQSDATA-NAME *NONE*

LGLOOKUP

このメンバ内で定義されているログ名をログストリーム名と関連付けます。

Sysname Logname.....LogStream-Name
Sysname MQSDATA.MQHR logstream.name

3. INST0046 ジョブをサブミットします。

WebSphere MQ オプション用のログストリームが定義され、収集されたデータがオンラインで表示できます。

例: MQHR ログ ストリームの定義

MQ ログ ストリームの例を示します。

```
//MQS      EXEC PGM=IXCMIAPU,REGION=0M
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN    DD *
      DATA TYPE(LOGR) REPORT(NO)

      DEFINE LOGSTREAM
          NAME(GSVX130.MQSDATA.MQHR.smfi)
          AUTODELETE(YES)
          DASDONLY(YES)
          DESCRIPTION(MQS_MQHR)
          DIAG(NO)
          EHLQ(LOGGER)
          HIGHOFFLOAD(70)
          LOWOFFLOAD(0)
          LS_SIZE(1000)
          MAXBUFSIZE(32767)
          MODEL(NO)
          OFFLOADRECALL(YES)
          RETPD(5)
          STG_SIZE(750)
```

CA SYSVIEW Option for WebSphere MQ のログ ストリームのオンライン表示

CA SYSVIEW Option for WebSphere MQ データコレクタ によって作成されたレコードを含むログ ストリームを定義した後は、ログ ストリームをオンラインで表示することができます。

ログ ストリームを表示するために以下のコマンドを使用します。

LGLOGS

データ収集ログを表示します。

MQRLOG

MQR ログを表示します。

ログ ストリームが表示されます。

セキュリティデータセットの変換(INST0050)

CA SYSVIEW の初回インストール時は、この手順を省略してください。CA SYSVIEW がすでにインストールされている場合は、このインストール手順を実行して既存のセキュリティデータセットをこのリリースの新しい形式に変換してください。

次の手順に従ってください:

1. INST0050 メンバ内の JCL を変更します。このメンバは *sysview.SAMPJCL* データセット内にあります。
2. SYSUT1 DD ステートメントを編集して既存のセキュリティデータセットを指定します。
3. INST0050 ジョブをサブミットします。
4. CA SYSVIEW 製品を初期化した後、新しいコマンドおよびディスプレイのフィールドすべてのセキュリティ許可を更新します。

注: 詳細については、「*Security Guide*」を参照してください。

ジョブが条件コード 0 で終了した場合は、セキュリティデータセットは、新しい形式に正常に変換されています。

重要: このジョブを実行して既存のセキュリティファイルを変換すると、このリリースで導入されたすべての新しいコマンドのセキュリティ認可が FAILED と表示されます。

JCL ステートメント(INST0050)

以下は、GSVXCNVS プログラム用の JCL 内の DD 名およびその説明です。

STEPLIB

新しい CA SYSVIEW ロードライブラリを示します。

SYSPRINT

変換処理によって作成されたメッセージを表示します。

SYSUT1

前リリースの CA SYSVIEW で使用されていたセキュリティデータセットを示します。このデータセットは変換処理への入力用であり、変更はされません。

SYSUT2

新しいリリースの CA SYSVIEW で使用されるセキュリティデータセットを示します。このデータセットは変換処理の出力結果であり、変更の対象になります。このデータセット名は、GEN モジュールの SECDSN パラメータで指定されたデータセット名と一致する必要があります。このパラメータは、GEN モジュールのアセンブルおよびリンク時に指定されています。

条件コード

INST0050 および INST0051 は既存のデータセットを新しい形式に変換します。ジョブ INST0050 はセキュリティデータセットを変換し、ジョブ INST0051 はプロファイルデータセットを変換します。以下はいずれかのジョブが返す条件コードです。

0

変換処理が正常に完了しました。

4

初期作業領域用の GETMAIN が失敗しました。ジョブの領域サイズを増やしてください。

8

GSVXCOMM モジュールをロードできませんでした。ジョブのログを参照し、ロードが失敗した理由を確認してください。

12

GSVXNUC モジュールをロードできませんでした。ジョブのログを参照し、ロードが失敗した理由を確認してください。

16

初期化処理中にエラーが発生しました。SYSPRINT DD ステートメントの出力結果を参照し、初期化が失敗した理由を確認してください。

20

SYSUT1 DD ステートメントの Open が失敗しました。SYSUT1 DD ステートメントが JCL 内で指定されていることを確認してください。

24

SYSPRINT DD ステートメントへの Write が失敗しました。 SYSPRINT DD ステートメントが JCL 内で指定されていることを確認してください。

28

プロファイルデータセットのリリースがサポートされていません。
SYSUT1 DD ステートメントで指定されたデータセットは、サポートされなくなったリリース用のものです。 テクニカルサポート (<http://www.ca.com/jp/support/>) にお問い合わせください。

プロファイル データ セットの変換(INST0051)

CA SYSVIEW がすでにインストールされている場合は、この手順を実行して既存のプロファイルデータ セットを新しい形式に変換します。

CA SYSVIEW の初回インストール時は、この手順を省略してください。

注: いずれかのユーザが CA SYSVIEW の新しいリリースを使用しているときにプロファイル変換を処理すると、そのユーザのプロファイルは変換されません。

次の手順に従ってください:

1. INST0051 メンバ内の JCL を変更します。このメンバは *sysview.SAMPJCL* データ セット内にあります。
2. 前のリリースの SET OLD= パラメータで使用された既存のプロファイルデータ セットを提供して、SYSUT1 DD ステートメントを編集します。
SET NEW= パラメータには、この新規リリースで使用される新しいプロファイルデータ セットが入力されます。この値は変更できます。

例: データ セット変数名

```
SET OLD='old.profile.dataset'  
SET NEW='new.profile.dataset'
```

OLD

変換する既存のプロファイルのデータ セット名を指定します。

NEW

新規リリースで配布された新しいプロファイルデータ セットのデータ セット名を指定します。

3. INST0051 メンバをサブミットします。

このジョブでは、以下の 2 つの手順で、既存のプロファイルデータ セットを現在のリリースに変換します。

- a. 新規または出力プロファイルデータ セットを配布プロファイルのメンバで初期化します。
- b. 前のリリースのプロファイルデータ セットを新規プロファイルデータ セットに変換します。

プロファイルデータ セットが変換されます。

詳細情報

[JCL ステートメント \(INST0051\) \(P. 169\)](#)

JCL ステートメント(INST0051)

以下は、GSVXPROC プログラム用の JCL 内の DD 名およびその説明です。

STEPLIB

新しい CA SYSVIEW ロードライブラリを示します。

SYSPRINT

変換処理によって作成されたメッセージを表示します。

SYSUT1

前リリースの CA SYSVIEW で使用されていたプロファイルデータセットを示します。このデータセットは変換処理への入力用であり、変更はされません。

SYSUT2

新しいリリースの CA SYSVIEW で使用されるプロファイルデータセットを示します。このデータセットは変換処理の出力結果であり、変更の対象になります。GEN モジュールの PROFDSN パラメータ上で指定されたデータセット名と一致する必要があります。このパラメータは、GEN モジュールのアセンブルおよびリンクの実行時に指定されています。

条件コード

INST0050 および INST0051 は既存のデータセットを新しい形式に変換します。ジョブ INST0050 はセキュリティデータセットを変換し、ジョブ INST0051 はプロファイルデータセットを変換します。以下はいずれかのジョブが返す条件コードです。

0

変換処理が正常に完了しました。

4

初期作業領域用の GETMAIN が失敗しました。ジョブの領域サイズを増やしてください。

8

GSVXCOMM モジュールをロードできませんでした。ジョブのログを参照し、ロードが失敗した理由を確認してください。

12

GSVXNUC モジュールをロードできませんでした。ジョブのログを参照し、ロードが失敗した理由を確認してください。

16

初期化処理中にエラーが発生しました。SYSPRINT DD ステートメントの出力結果を参照し、初期化が失敗した理由を確認してください。

20

SYSUT1 DD ステートメントの Open が失敗しました。SYSUT1 DD ステートメントが JCL 内で指定されていることを確認してください。

24

SYSPRINT DD ステートメントへの Write が失敗しました。SYSPRINT DD ステートメントが JCL 内で指定されていることを確認してください。

28

プロファイルデータセットのリリースがサポートされていません。SYSUT1 DD ステートメントで指定されたデータセットは、サポートされなくなったリリース用のものです。技術サポート (<http://www.ca.com/jp/support/>) にお問い合わせください。

CICS テーブルの更新(INST0060)

以下の手順を完了させて、CICS テーブルを更新します。

- 手順 1：プログラムおよびトランザクションエントリの定義
- 手順 2：PLTPI へのエントリの追加
- 手順 3：(オプション) PLTSD へのエントリの追加
- 手順 4：CICS データコレクタの自動開始

手順 1: プログラム、トランザクション、およびライブラリ エントリの定義

CICS テーブルを更新することにより、プログラムおよびトランザクションのエントリを定義します。

プログラムおよびトランザクション エントリの定義を開始する前に、以下で割り当てられている値が実際のサイトの要件を満たしていることを確認してください。

- CICS システム定義ファイルユーティリティプログラム DFHCSDUP への入力ステートメント :

`sysview.CNM4BSAM (CICSCSD)`
- SAMPLIB の CSDUTIL メンバに含まれるシステム定義ファイルユーティリティプログラムのサンプル JCL (INST0110 ジョブによるサンプルライブラリへのインストール メンバのコピーの実行後)。

次の手順に従ってください:

1. `sysview.SAMPJCL` データ セット内の INST0060 メンバをユーザのサイトの基準に合わせて変更します。
2. INST0060 メンバをサブミットします。

ジョブが条件コード 0 で終了した場合は、以下の CICS トランザクションの定義が完了しています。

トランザクション	用途
GSVS	CICS データ コレクタを手動で開始します。 このトランザクションには、CA SYSVIEW Option for CICS が必要です。
GSVT	CICS データ コレクタを手動で終了します。 このトランザクションには、CA SYSVIEW Option for CICS が必要です。
GSVI	機能リクエストへの内部トランザクションとしてこのトランザクションを使用する CICS データ コレクタを特定します。このトランザクションを直接実行することはできません。 GSVS トランザクションによって内部的に開始されます。 このトランザクションには、CA SYSVIEW Option for CICS が必要です。
SYSV	CA SYSVIEW オンラインインターフェースを特定します。 このトランザクションには、CA SYSVIEW Option for CICS は不要です。

注: CICS システム定義ファイルユーティリティプログラムの詳細については、IBM の「*CICS Resource Definition Guide*」、または IBM の「*CICS Operations and Utilities Guide*」を参照してください。

CICS ダイナミックライブラリ定義

CICS TS 3.2 以降、CICS ではダイナミックライブラリ定義が使用できます。ダイナミックライブラリ定義では、DD 名 DFHRPLへのロードライブラリデータセットの動的な割り当ておよび連結が行われます。

ユーザは CICS DFHCSDUP ユーティリティを使用して、CICS CSD ファイルへ定義を動的に追加することができます。

サンプルライブラリ (CNM4BSAM) データセットの CICSCSD メンバにある以下のサンプル定義は、CA SYSVIEW loadlib データセットを定義します。

```
DEFINE LIBRARY(SYSVIEW)
  RANKING(50)
  CRITICAL(NO)
  STATUS(ENABLED)
  DSNAME01(sysview.CNM4BLOD)
  GROUP(SYSVIEW)
```

CA SYSVIEW では、CICS ジョブストリームへの JCL 更新は必要なくなりました。アクティブな CICS 領域に対してインストールおよび保守を実行できます。

データセット割り当てはすべて動的に実行されます。CA SYSVIEW loadlib (sysview.CNM4BLOD) は、STEPLIB またはリンクリストからアクセス可能である必要があります。loadlib がリンクリストにある場合は、JCL の変更は必要ありません。

手順 2: PLTPIへのエントリの追加

エントリを PLTPI に追加することにより CICS テーブルを更新します。

次の手順に従ってください:

注: PLTPI テーブルを使用しない場合は、この手順は省略してください。

1. 監視対象の各 CICS システムの PLTPI を変更します。
2. PLTPI テーブルを使用している場合は、以下のエントリをテーブルに追加します。

DFHPLT TYPE=ENTRY,PROGRAM=GSVCGSVS

エントリが PLTPI に追加されます。

例: PLTPI (初期化) モジュール

```
DFHPLT TYPE=INITIAL,SUFFIX=PI  
DFHPLT TYPE=ENTRY,PROGRAM=DFHDELIM  
DFHPLT TYPE=ENTRY,PROGRAM=GSVCGSVS  
DFHPLT TYPE=FINAL  
END DFHPLTBA
```

手順 3: (オプション) PLTSD へのエントリの追加

終了の制御は、CA SYSVIEW for CICS の終了プログラム GSVCGSVT を CICS PLTSD シャットダウン モジュール内に配置することによって行います。

PLTSD への GSVCGSVT エントリの追加はオプションです。デフォルトでは、CA SYSVIEW for CICS のデータ コレクタは、通常の CICS シャットダウンのステージ 2 部分で終了します。

次の手順に従ってください:

PLTSD に追加するエントリのオプションを以下のサンプルに示します。

- ステージ 1 シャットダウンのリクエストの場合
DFHDELIM エントリの前に GSVCGSVT を追加します。
- ステージ 2 シャットダウンのリクエストの場合
DFHDELIM エントリの後に GSVCGSVT を追加します。
選択されたエントリが、PLTSD に追加されます。

例: PLT - ステージ 2 シャットダウン

```
PRINT GEN
DFHPLT TYPE=INITIAL,SUFFIX=SD
DFHPLT TYPE=ENTRY,PROGRAM=DFHDELIM
DFHPLT TYPE=ENTRY,PROGRAM=GSVCGSVT
DFHPLT TYPE=FINAL
END DFHPLTBA
```

手順 4: CICS データコレクタの自動開始

CICS の初期化中に CICS データコレクタを自動開始するには、デフォルトのシステム初期化テーブル (SIT) をオーバーライドするポスト初期化テーブルが必要です。ポスト初期化テーブル名は DFHPLTxx です。xx は SIT の PLTPI パラメータで指定されたサフィックスです。

ポスト初期化の処理中に、CICS が DFHPLTPI テーブルを使用するようにするには、SIT で PLTPI=PI を指定します。DFHPLTPI 用のコードは、SAMPLIB の CICSPLT メンバで提供されています。

注: 現在 PLTPI テーブルを使用していない場合でも、SIT のオーバーライドで PLTPI=PI を指定することで PLTPI テーブルを取得することができます。

CICS データ収集開始モード

CA SYSVIEW for CICS データ コレクタは初期化中に構成情報を必要とします。オリジナルまたは初期の構成定義は、さまざまな PARMLIB メンバに格納されています。

CICS データ コレクタの終了時に構成情報が保存されます。構成情報は持続的に維持されます。

初期またはスタートアップ時の構成は、常に PARMLIB メンバ CICSOPTS から取得されます。

以下の開始モードを指定することができます。

COLD

PARMLIB のメンバから構成情報を取得します。前のセッションからの構成データはリストアされません。

WARM

永続データストアから構成情報を取得します。前のセッションからの構成データがリストアされます。

オブジェクトが存在しない場合、データは関連する PARMLIB のメンバから取得されます。

開始モードの指定方法

2通りの方式を使用して、開始モードを指定できます。以下のマトリクスを使用すると、複数のメソッドを同時に使用した場合の最終的なモードについて理解できます。

- 以下の SIT パラメータを追加して、GSVCGSVS プログラム用の CICS System Initialization Table (SIT) の INITPARM を定義します。

```
INITPARM=(GSVCGSVS='GSVI=tran,USERID=userid,START=start,SSID=ssid')
```

tran

初期プログラム GSVCGSVI で定義されたトランザクションを指定します。デフォルトでは、トランザクション ID は GSVI です。アスタリスク (*) を指定すると、トランザクション ID GSVI が使用されます。

userid

GSVI トランザクションに関連付けるユーザ ID を指定します。アスタリスク (*) を指定すると、トランザクション ID GSVI は特定のユーザ ID なしで開始されます。

start

CICS データコレクタの開始タイプを指定します。

有効な値は以下の通りです。

- アスタリスク (*) - WARM 開始モードを示します。
- WARM - WARM 開始モードを示します。
- COLD - COLD 開始モードを示します。

ssid

初期プログラム GSVCGSVI が接続するサブシステム ID を指定します。アスタリスク (*) を指定すると、モジュール GSVBSSID で定義されているデフォルトのサブシステム ID が使用されます。

- 開始トランザクション GSVS へのパラメータとして、以下のように手動で開始モードを入力します。

構文：

GSVS <START=*mode*>

モード

* | WARM | COLD

開始モード マトリクス テーブル

以下のテーブルでは、CICS SIT INITPARM および GSVS START= を使用して開始モードを指定した場合、結果的にどの開始モードになるかを示します。

CICS SIT INITPARM	GSVS START=	開始モード
none	none	WARM
none	*	WARM
none	COLD	COLD
none	WARM	WARM
*	none	WARM
*	*	WARM
*	COLD	COLD
**	WARM	WARM
COLD	none	COLD
COLD	*	WARM
COLD	COLD	COLD
COLD	WARM	WARM
WARM	none	WARM
WARM	*	WARM
WARM	COLD	COLD
WARM	WARM	WARM

CICS オブジェクトメンバのリンクエディット(INST0061)

この手順リンクでは、CICS オブジェクトメンバを編集します。このリンクエディットにより、CTRACE コマンドの発行時に表示される CICS 内部トレーステーブルエントリをフォーマットするためのロードモジュールが作成されます。

注: CICS の複数リリースを使用している場合は、その中で最新の CICS リリースを使用しているライブラリを指定してください。

次の手順に従ってください:

1. `sysview.SAMPJCL` データセットの `INST0061` メンバ内の `SYSLIB DD` ステートメントを変更して、正しい CICS ライブラリを使用するようにします。

サンプルの `SYSLIB DD` ステートメントは以下の通りです。

```
//SYSLIB DD DSN=cics.ADFHMOD
```

2. `INST0061` メンバをサブミットします。

ジョブが条件コード 0 で終了した場合は、CICS オブジェクトメンバのリンクエディットが終了しています。

CICS JCL の更新

CICS JCL を更新することによって、CICS データ コレクタおよびオンラインインターフェースを有効にします。サンプル JCL は *sysview.SAMPJCL* (*CIC SJCL*) にあります。監視対象の各 CICS システムについてこの手順を実行します。

次の手順に従ってください:

1. CICS ジョブストリーム DFHRPL および STEPLIB DD ステートメントに、以下のようなロードライブラリ用の DD ステートメントを追加します。

```
//STEPLIB DD DSN=...
//          DD DSN=sysview.CNM4BLOD
//DFHRPL  DD DSN=...
//          DD DSN=sysview.CNM4BLOD
```

注: 高レベル修飾子を CA SYSVIEW ロードライブラリに割り当てた高レベル修飾子に置き換えてください。

2. STEPLIB DDname、LPA、リンクリストから CNM4BLOD データセットにアクセスできるようにします。

CICS TS 3.2 以降、CICS では動的プログラムライブラリ管理が提供されます。CNM4BLOD データセットを CICS に動的に追加し、LIBRARY リソース定義を使用してアクセス可能にすることができます。この手順は、データセット DFHRPL ddname を追加する代わりに実行できます。

これで監視対象の各 CICS システムについて、CICS JCL が更新されます。

動的なインストール ユーティリティを実行します(INST0100)

動的インストールユーティリティは、システムに一時的に CA SYSVIEW をインストールします。

次の手順に従ってください:

1. *sysview.SAMPJCL* データ セット内の INST0100 メンバを確認します。
2. INST0100 メンバをサブミットします。

動的なインストールプログラムは、以下の条件コードを返します。

0

すべての機能が正常に実行されたことを示します。

4

事前に完了済みの機能があったため、機能がすべて実行されてはないという事を示します。メッセージがないかどうかジョブログを確認します。

8

エラーが発生したことを示します。メッセージがないかどうかジョブログを確認します。さらにサポート情報が必要な場合は、テクニカルサポート (<http://www.ca.com/jp/support/>) にお問い合わせください。

3. ジョブが条件コード 0 または 4 で終了していることを確認します。

CA SYSVIEW がシステムに一時的にインストールされます。

動的インストール ユーティリティの仕組み

動的インストール ユーティリティは、システムに一時的に CA SYSVIEW をインストールします。このユーティリティは以下のタスクを実行します。

- SYSLIB DD ステートメントに割り当てられたデータ セットを APF 許可します。スターティッドプロシージャ SYSVIEW で DD 名 STEPLIB に連結されたすべてのデータ セットが APF 許可されていることを確認します。
- サブシステム名を追加します。インストールの GSVIINST マクロの SUBSYS パラメータはサブシステム名を指定します。SUBSYS パラメータのデフォルト値は GSVX です。
- インストールの GSVIINST マクロの SVC パラメータに指定された数値を使用して、CA SYSVIEW SVC を追加します。
- 必要な LPA モジュールをロードします。

サンプルライブラリへのインストール メンバのコピー(INST0110)

インストール中に作成および使用されるジョブは、*sysview.CNM4BSAM* データ セットにコピーされます。これらのジョブのうちのいずれかを今後実行する予定がある場合は、SAMPLIB データ セットにあるコピーを使用し、オリジナルのインストール ジョブは変更しないでください。

次の手順に従ってください:

1. *sysview.CNM4BSAM* データ セットの INST0110 メンバを調べ、ジョブで参照されているファイルがすべて正しいことを確認します。
2. INST0110 メンバをサブミットします。

ジョブが条件コード 0 で終了した場合は、メンバはサンプルライブラリに配置されています。

デフォルト SSID のアセンブルおよびリンク(USRM0001)

システム PARMLIB のどのシステム環境設定オプション メンバを使用するか決定するには、CA SYSVIEW にサブシステム識別子（SSID）が必要です。ユーザが GSVX のデフォルト SSID を使用している場合、USERMOD は必要ありません。

GSVX のデフォルト SSID を使用していない場合は、これらの手順を確認します。

次の手順に従ってください:

1. USRM0001 内のサンプル JCL を確認します。
2. メンバ USRM0001 をサブミットします。
 - a. このサンプル JCL によって、SMP/E USERMOD を作成します。
 - b. SMP/E USERMOD はデフォルトの SSID をアセンブルおよびリンクして、ロード モジュール GSVBSSID へ格納します。

製品の開始準備

以下の手順が完了すると、SVC、サブシステム、および APF ロード ライブ ラリがインストールされます。IPL の完了後に、CA SYSVIEW がユーザのシステムにインストールされます。

ASID の増加(オプション)

CA SYSVIEW のメインアドレス空間が複数回停止し、ASID 再利用を使用していない場合

- アドレス空間識別子 (ASID) を使い果たす場合があります。
- 追加の ASID を取得するために、システムに対して IPL の実行が必要な場合があります。

システムの IPL を実行しなくてもいいようにするには、以下の手順を行って ASID の数を増加させます。

次の手順に従ってください:

1. SYS1.PARMLIB のメンバ IEASYSxx 内の RSVNONR にアクセスします。
2. RSVNONR のサイズを大きくして、IPL の実行中にシステム リンケージ インデックス (システム LX) を定義するアドレス空間の開始と停止の回数が収まるようにします。

注: ASID を使い果たすと、アドレス空間作成の失敗を警告し、追加の ASID の取得を促すメッセージが表示されます。

システム リンケージ インデックスおよび ASID 再利用

システム リンケージ インデックス

ASN および LX の再利用機能がインストールされている場合、リンクエージ インデックスは再利用可能な System LX として予約されます。

ASN および LX の再利用機能がインストールされている場合、再利用可能な System LX を予約できます。SYSVIEW メインアドレス空間が停止されると、システムで System LX を再利用できます。

ASN および LX の再利用機能がインストールされていない場合、SYSVIEW メインアドレス空間が停止すると、System LX が休止状態になります。SYSVIEW メインアドレス空間が再起動されると、CA SYSVIEW は以前使用されていた System LX を再利用します。

注: パラメータ NSYSLX は、予約するリンクエージ インデックス (LX) の数を指定します。ただし、製品はシステム LX を再利用するので、この数を増加させる必要はありません。

再利用可能な ASID

SYSVIEW メインアドレス空間が終了されると、System LX が予約されるため、ASID が利用不能になる可能性があります。以下の条件をすべて満たす場合に ASID の再利用が可能です。

1. ASN および LX の再利用機能がインストールされている。
2. SYS1.PARMLIB の DIAGxx メンバで REUSASID(YES) が指定されている。
3. SYSVIEW メインアドレス空間スター ティッド タスクが、以下のように REUSASID=YES パラメータを指定して開始されている。
`S SYSVIEW,REUSASID=YES`
4. WebSphere MQ データ コレクション タスクである MQSDATA は、WebSphere MQ MQI を使用して MQ パフォーマンス データを収集します。

WebSphere MQ は、REUSASID=YES を指定して SYSVIEW メインアドレス空間で開始されるアドレス空間をサポートしません。このメソッドを使用すると、異常終了が発生し、ABEND コード S0D3 が出力されます。

5. IMS Common Queue Server タスクである IMSCQS は、IMS Common Queue Server API を使用して、IMS Shared Message Queue パフォーマンス データを収集します。

IMS CQS アドレス空間 API は、REUSASID=YES を指定して SYSVIEW メイン アドレス空間で開始されるクライアントをサポートしません。このメソッドを使用すると、異常終了が発生し、ABEND コード S0D3 が出力されます。

SVC および LPA モジュールのシステムへの追加(オプション)

スーパーバイザーコール (SVC) およびリンクパックエリア (LPA) モジュールをシステムに追加できます。

注: CA SYSVIEW の起動中に、動的インストールによって SVC モジュールおよび LPA モジュールが追加されるため、この手順は省略可能です。

次の手順に従ってください:

1. SYS1.PARMLIB の IEASVCnn メンバで CA SYSVIEW SVC を定義します。このエントリでは、「[INSTALL ジョブの変更および実行 \(P. 63\)](#)」の手順で SVC パラメータに指定した値と同じ値を SVCPARM キーワードの後に指定します。

例: IEASVCnn エントリの定義

```
SVCPARM 238,REPLACE,TYPE(3),APP(NO),EPNAME(GSVXSVC)
```

注: IEALPAnn で新しいエントリを作成する代わりに、GSVXSVC モジュールを任意の既存の LPA ライブラリにコピーすることができます。

2. SVC の場所を定義し、SYS1.PARMLIB の IEALPAnn メンバを更新することで LPA モジュールを定義します。

注: CNM4BLPA ライブラリがマスター カタログにあることが必要です。

- 以下のサンプル IEALPAnn エントリは、SVC の場所を定義します。

```
INCLUDE LIBRARY(sysview.CNM4BLPA)
MODULES(GSVXSVC)
```

- 以下のサンプル IEALPAnn エントリは LPA モジュールを定義します。

```
INCLUDE LIBRARY(sysview.CNM4BLPA)
MODULES(GSVXAAT,CAIXNM4$)
```

注: SVC モジュール GSVXSVC は、CA SYSVIEW の複数のリリースをサポート可能です。SVC モジュールは利用可能な最新のリリースである必要があります。

SVC と LPA のモジュールがシステムに追加されます。

ロードライブラリに対する APF 許可

ロードライブラリを許可して、利用可能にします。

次の手順に従ってください:

SYS1.PARMLIB の PROGxx メンバに以下のコマンドを追加します。

```
APF ADD DSNAME(sysview.CNM4BLOD) VOLUME(volume)
```

PROGxx メンバへの DSNAME および VOLUME の追加後、ロードライブラリが APF 認可されます。ランタイムロードライブラリが SMS によって管理されている場合は、ボリュームに 'xxxxxx' を使用します。

LOGR EXIT および Linklist のセットアップ

提供された LOGR サブシステム EXIT は、任意の z/OS ログストリームを バッチプログラムへの入力ファイルとして使用可能にします。LOGR サブシステム EXIT は linklist データセットに存在している必要があります。

次の手順に従ってください:

- データセット *sysview.CNM4BLOD* を linklist に定義している場合は、他の手順は必要ありません。
- データセット *sysview.CNM4BLOD* を linklist に定義していない場合は、以下のモジュールを既存の linklist データセットにコピーします。
 - GSVXLGEX
 - GSVXLGXG (GSVXLGEX の別名)

モジュールのコピー後、LOGR サブシステム EXIT が linklist データセット内に置かれます。

システム プロシージャ ライブラリへのスタートアップ手順の追加

注: MSM を使用して CA SYSVIEW を設定した場合、すでにシステム プロシージャは設定中に指定されたライブラリにコピーされています。

スタートアップ プロシージャを更新し、システム プロシージャ ライブラリのうちの 1 つへ追加します。CA SYSVIEW メインアドレス空間により、z/OS、JES2、CICS、IMS、WebSphere MQ および TCP/IP のデータ コレクションが実行されます。

CICS と VTAM のインターフェースは、以下から開始できます。

- CA SYSVIEW のユーザ インターフェース アドレス空間。
- デフォルトのスタートアップ オプションが含まれる SYSVUSER パラメータ ライブラリ メンバ。

この手順に従って、スタートアップ プロシージャをシステム プロシージャ ライブラリへ追加します。

次の手順に従ってください:

1. PROC をデータ セット *sysview.SAMPJCL* からユーザのシステム プロシージャ ライブラリのいずれかにコピーします。

SYSVIEW PROC メンバ

CA SYSVIEW メイン サービス アドレス空間を開始するために使用される JCL が含まれています。

MEM キーワードのデフォルト : SYSVIEW

COMMNDxx Member Entry: COM='S SYSVIEW,REUSASID=YES'

SYSVUSER PROC メンバ

初期化中に開始されるデフォルトの CA SYSVIEW 機能およびタスクのリストを提供します。

MEM キーワードのデフォルト : SYSVUSER

COMMNDxx メンバ エントリ : COM='S SYSVUSER'

2. PROC ステートメントの MEM キーワードが、アドレス空間の初期化パラメータを含む *sysview.CNM4BPRM* データ セット内のメンバを参照するようにします。

注: CA SYSVIEW アドレス空間の詳細については、「Administration Guide」を参照してください。

3. アドレス空間を開始する前に、初期化パラメータを確認します。
4. IPL 実行時にアドレス空間を自動的に開始する場合は、SYS1.PARMLIB 内の COMMNDxx メンバに START コマンドを追加します。
注: SYS1.PARMLIB 内の COMMNDxx メンバの詳細については、適切な IBM ガイドを参照してください。

初期化（スタートアップ）プロシージャがシステムプロシージャ ライブ ラリに追加されます。

製品の開始

CA SYSVIEW を使用するには、メインアドレス空間を開始します。

次の手順に従ってください:

1. CA LMP のコードが仕様に従って定義されていることを確認します。
2. SYSVIEW を開始し、メインサービスアドレス空間を初期化します。
SYSVUSER を開始し、ユーザアドレス空間を開始します。

LMP コードが正しく定義され、これらのプロシージャが実行された後、メインアドレス空間が開始されます。

インストール後の考慮事項

インストールが終了し、CA SYSVIEW が開始したら、インストール検証プログラム (IVP) を実行できます。IVP を任意のタイミングで実行して、インストールの検証を行うことも可能です。

IVP では、以下のプログラムが提供されます。

- GSVCUTIL
インストールパラメータの設定を確認する機能を提供します。
- GSVXBAT
任意の有効な CA SYSVIEW コマンドをバッチで実行し、CA SYSVIEW のコンポーネントを実行できるようにします。

プログラム GSVCUTIL を使用したインストールの検証方法

1. メンバ IVP00001 をサブミットします。

出力される IVP レポートには、以下の機能に関するインストール設定が含まれます。

- z/OS システム
- サブシステム
- スーパーバイザ コール (SVC) テーブル
- APF (許可プログラム機能) リスト
- SYSVIEW LMP キー

2. レポートを確認し、設定を検証します。

プログラム GSVXBAT を使用したインストールの検証方法

1. メンバ IVP00002 をサブミットします。

CA SYSVIEW コマンドの出力は SYSPRINT DD 名に返され、そこで設定を検証できます。

2. SYSPRINT 出力でメッセージを確認します。

コマンドがデータを返すかどうかは、インストール済みのコンポーネントまたはアクティブなコンポーネントによって決まります。

たとえば、IMS が非アクティブである場合、IMSLIST コマンド表示は空です。

注: サンプルジョブについては、SAMPLIB の EXECBAT メンバを参照してください。 GSVXBAT プログラムの詳細については、「*Administration Guide*」を参照してください。

第 6 章: データ移行の情報

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

- [製品システム設定オプション \(P. 191\)](#)
- [製品サブシステム \(P. 192\)](#)
- [ライブラリ連結 \(P. 193\)](#)
- [INSTALL ジョブの更新 \(P. 196\)](#)
- [JES 定義 \(P. 196\)](#)
- [テンプレートデータセット \(P. 197\)](#)
- [ユーザ異常終了および理由コード \(P. 197\)](#)
- [プロファイル変換 \(P. 198\)](#)
- [セキュリティデータセットの変換 \(P. 199\)](#)

製品システム設定オプション

GEN モジュールは、リリース 13.5 より前の CA SYSVIEW のリリースで行われていたシステム環境設定オプションの指定には使用されなくなりました。

システム環境設定オプションメンバにより、CA SYSVIEW の初期化中に環境設定オプションが設定されます。

以下のガイドラインを使用します。

- システム環境設定オプションメンバをシステム **parmlib** データセットの連結に入れます。
SYS1.PARMLIB
- サブシステム ID を、z/OS システムまたは LPAR 内の CA SYSVIEW の各インスタンスまたはインストールへ割り当てます。
- 4 文字の CA SYSVIEW サブシステム ID (SSID) を使用して、システム **parmlib** のシステム環境設定オプションメンバに名前を割り当てます。

Member name = GSVXssid

注: メンバ名の最初の 4 文字は、常に GSVX です。

製品サブシステム

CA SYSVIEW では、リリース 13.5 より前の CA SYSVIEW のリリースで要求されていた MVS サブシステム エントリの定義が不要になりました。また、MVS サブシステム エントリは使用されず、動的に作成されることもありません。

SYSVIEW サブシステム ID は、CA SYSVIEW の各インスタンスまたはインストールと関連付けられるようになりました。このサブシステム ID は、システム環境設定パラメータの定義や決定に使用されます。

以下のガイドラインを使用します。

- 4 文字の SYSVIEW サブシステム ID を使用して、CA SYSVIEW の各インスタンスまたはインストールに関連付けます。このサブシステム ID によって、システム環境設定パラメータを定義または決定します。

SYSVIEW サブシステム ID のデフォルト : GSVX

注: 同じシステム上で CA SYSVIEW の複数のインスタンスを使用しなければ、GSVX のデフォルトを使用することをお勧めします。

- CA SYSVIEW の各呼び出し上で、パラメータとして SYSVIEW サブシステム ID を指定します。呼び出しのタイプに応じて、パラメータの指定を変更することができます。
- ユーザ代替可能モジュール GSVBSSID を使用するのは、SYSVIEW の呼び出し上でサブシステム ID がパラメータとして提供されない場合のみです。GSVBSSID にはデフォルトの SYSVIEW サブシステム名が含まれています。

ライブラリ連結

CA SYSVIEW のインストールは、いくつかのタイプのライブラリまたは特定のタイプのデータが含まれるように設定されたデータ セットで構成されます。このライブラリは、ライブラリ タイプ (libtype) として参照されます。

ライブラリ タイプは、複数のデータ セットで構成されることがあります。これらのデータ セットは、指定されたライブラリ タイプに対して読み込み要求が作成される際に動的に連結します。

1 つのデータ セット タイプに対して 1 つのデータ セットのみを定義できます。したがって、最大の 3 つのデータ セットを連結できます。

定義されているデータ セットは、以下の順に連結されます。

```
libtype DD DISP=SHR,DSN=user.data.set  
          DD DISP=SHR,DSN=site.data.set  
          DD DISP=SHR,DSN=system.data.set
```

指定可能なデータ セット タイプは次のとおりです。

USER (オプション)

オプションのユーザ定義データ セットには、定義またはサイト定義またはシステム定義のオーバーライドが含まれます。

ユーザは、CA SYSVIEW プロファイル内のユーザデータ セット名の定義および保守を行います。

SITE (オプション)

オプションのサイト定義データ セットには、定義またはシステム定義のオーバーライドが含まれます。

サイトデータ セット名は、CA SYSVIEW のシステム環境設定オプションメンバ (GSVXSYSV) で定義されています。

システム環境設定オプションメンバは、z/OS システム parmlib データ セットの連結内にあることが必要です。

例： SYS1.PARMLIB

SYSTEM

必須のシステム定義データセットには、定義または設定オプションが含まれます。システムデータセットの集合には、製品インストールで提供された元のメンバが含まれます。システムデータセット名は、CA SYSVIEW システム環境設定オプションメンバ (GSVXSYSV) で定義されています。

システム環境設定オプションメンバは、z/OS システム parmlib データセットの連結内にあることが必要です。

例：SYS1.PARMLIB

詳細については、ヘルプトピック 「Library concatenation - USER, SITE, and SYSTEM」 を参照してください。

ライブラリ連結におけるデータセットの適合性

SYSTEM データセットは、すべてのライブラリタイプに必須です。USER データセットおよび SITE データセットは、必須ではありません。USER データセットおよび SITE データセットの定義は常にオプションです。

USER データセットおよび SITE データセットがすべてのライブラリタイプに適合するとは限りません。

以下のテーブルに、ライブラリタイプ別のデータセットの適合性を示します。

ライブラリ種別	DSN サフィックス	USER データセット	SITE データセット	SYSTEM データセット
CAPLIB	CNM4BCAP	N/A	サイト	システム
CLISTLIB	CNM4BCLS	ユーザ	サイト	システム
DATALIB	CNM4BDAT	N/A	N/A	システム
HELPLIB	CNM4BHLP	ユーザ	サイト	システム
MAPLIB	CNM4MAP	ユーザ	サイト	システム
MIBLIB	CNM4MIB	ユーザ	サイト	システム
PANELLIB	CNM4BPNL	ユーザ	サイト	システム
PARMLIB	CNM4BPRM	ユーザ	サイト	システム
PLOTLIB	CNM4BPLT	ユーザ	サイト	システム

PROFILE	CNM4BPRF	N/A	N/A	システム
REXXLIB	CNM4BREX	N/A	サイト	システム
SAMPLIB	CNM4BSAM	N/A	N/A	システム
SECURITY	CNM4BSEC	N/A	N/A	システム
TEMPLATE	CNM4BTMP	ユーザ	サイト	システム

以下のテーブルには、リリース 13.9 より前のライブラリ タイプ別のデータ セットの適合性を示します。

注: SITE データ セットは存在しておらず、USER データ セットは限られた数のライブラリ タイプに使用可能でした。限られた数の parmlib メンバのみが、USER ライブラリに適合しました。

ライブラリ種別	DSN サフィックス	USER データ セット	SITE データ セット	SYSTEM データ セット
CAPLIB	CNM4BCAP	N/A	N/A	システム
CLISTLIB	CNM4BCLS	ユーザ	N/A	システム
DATALIB	CNM4BDAT	N/A	N/A	システム
HELPLIB	CNM4BHELP	N/A	N/A	システム
MAPLIB	CNM4MAP	ユーザ	N/A	システム
MIBLIB	CNM4MIB	ユーザ	N/A	システム
PANELLIB	CNM4BPNL	N/A	N/A	システム
PARMLIB	CNM4BPRM	ユーザ	N/A	システム
PLOTLIB	CNM4BPLT	ユーザ	N/A	システム
PROFILE	CNM4BPRF	N/A	N/A	システム
REXXLIB	CNM4BREX	N/A	N/A	システム
SAMPLIB	CNM4BSAM	N/A	N/A	システム
SECURITY	CNM4BSEC	N/A	N/A	システム
TEMPLATE	CNM4BTMP	N/A	N/A	システム

詳細については、ヘルプ トピック 「Library concatenation - USER, SITE, and SYSTEM」 を参照してください。

INSTALL ジョブの更新

インストールデータセット *sysview.SAMPJCL* に含まれるメンバ **INSTALL** は、他のインストール メンバのすべてを動的に作成するために使用されます。

以下のエントリにより、一連の SITE ライブラリを割り当てるためのセットが生成されます。

SITEDSN=YES

生成された **GSVXgsvx** システム環境設定オプション メンバには、サイトライブラリの定義が含まれます。

JES 定義

<productgname> リリース 13.9 より前のリリースでは、**JES parmlib** メンバに入力されたデータステートメントは列依存または固有でした。

データは列固有でなくなりました。データは前後関係に依存し、データが 1 ~ 72 列に含まれている限り、任意の列に入力できます。

テンプレートデータセット

リリース 13.5 で CA SYSVIEW 環境設定に新しいテンプレートデータセットが追加されました。テンプレートメンバには、CA SYSVIEW が使用するテンプレートやスケルトン情報が含まれます。

リリース 13.5 より前のリリースの CA SYSVIEW では、以下のメンバは parmlib データセットのメンバでした。メンバはテンプレートデータセットに移動されました。

メンバ MAILFOOT は名前が変更され、以下の 2 つのメンバに分割されました。

- FOOTHTML - HTML 形式メッセージのメールフッタ。
- FOOTTEXT - テキストメッセージのメールフッタ。

コマンド FTPCA に関するメンバはテンプレートデータセットに移動されました。

- FTPCAPOS
- FTPCAPRE
- FTPCASTD
- FTPCATRS
- FTPCAVAR
- FTPCAXMI

ユーザ異常終了および理由コード

リリース 13.5 より前の CA SYSVIEW では、さまざまなユーザ ABEND コードおよび理由コードを使用して、ユーザに異常条件を通知していました。

CA SYSVIEW では、共通のユーザ ABEND コード番号を使用するようになりました。理由コードには異常終了の理由が含まれます。

System Configuration Options メンバ GSVXGSVX で以下のオプションを使用して、ユーザ ABEND コード番号を指定します。

オプション	値
<hr/>	
ユーザ ABEND コード	2999

プロファイル変換

インストール中に変換ユーティリティ GSVXPROC を使用して、プロファイルデータ セットが以前の CA SYSVIEW のリリースから現在の リリース 13.9 に変換されます。

CA SYSVIEW の以下のリリースを変換できます。

- リリース 13.7 (2012 年 12 月より一般提供開始)
- リリース 13.5 (2012 年 5 月より一般提供開始)
- リリース 13.0 (2011 年 4 月より一般提供開始)
- リリース 12.7 (2010 年 4 月より一般提供開始)
- リリース 12.5 (2009 年 9 月より一般提供開始)
- リリース 12.0 (2008 年 9 月より一般提供開始)
- リリース 11.6 (2007 年 6 月より一般提供開始)

セキュリティデータセットの変換

インストール中に変換ユーティリティ GSVXCNVS が実行され、セキュリティデータセットが以前の CA SYSVIEW のリリースから現在のリリース 13.9 に変換されます。

セキュリティファイルが変換されると、リリース 13.9 の新規コマンドのコマンド許可がデフォルトで ALLOWED と表示されます。以前のリリースでは、新しいコマンドはデフォルトで失敗とされていました。

新しいコマンドに対するデフォルト動作を変更するには、GSVXCNVS ユーティリティの SYSIN データをコーディングしてください。

例: SYSIN コード

この例では、ADMIN 以外のすべてのグループ用の新しいコマンドが失敗します。

```
//SYSIN DD *
  FAILNEWCMDS=YES,GROUP=*ALL*
  FAILNEWCMDS=NO,GROUP=ADMIN
/*
```

入力は、読み取られた順番に処理されます。ユーザ グループに適用される最後の設定が使用されます。

付録 A: CCS for z/OS コンポーネントの要件

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[FMID \(P. 201\)](#)

FMID

このセクションでは、CA Common Services for z/OS コンポーネントおよびそれに対応する FMID について説明します。これらは、CA SYSVIEW を使用して、さまざまな機能を実行するために必要になります。すべての情報または最新の情報については、「*CA Common Services for z/OS 導入ガイド*」の「システム要件」の章のインストールの依存関係を参照してください。

以下の 2 つの FMID セットが提供されます。

- FMID の最初のセットは、CCS for z/OS r11 Service Pack 8 をベースにしています。
- 2 番目のセットは CCS for z/OS r12 をベースにしています。

CA LMP(ライセンス管理プログラム)

CA SYSVIEW のベース製品ライセンスを検証するには、以下の CCS for z/OS コンポーネントが必要です。

- CCS for z/OS r11 SP8 をベースとする FMID

FMID	コンポーネント
CS91000	CAIRIM
■ CCS for z/OS r12 をベースとする FMIDs	

FMID	コンポーネント
CAS9C00	CAIRIM
CBYS280	CA GSS
CAW4C00	CAICCI (SSL を使用)

- CCS for z/OS r14 をベースとする FMID

FMID	コンポーネント
CAS9E00	CAIRIM

IBM Health Checkerへのインターフェース

IBM Health Checkerに対する CA SYSVIEW のインターフェースでは、以下の CCS for z/OS コンポーネントが必要です。

CCS for z/OS r11 SP8 および r12 をベースにした FMID :

FMID	コンポーネント
CEF5C00	CA Health Checker Common Service

注: 完了しておかなければならないその他のセットアップおよび設定の手順の詳細については、「*CCS for z/OS 管理ガイド*」を参照してください。

CA zIIP 有効化サービス

CA zIIP 有効化サービスに対する CA SYSVIEW インターフェースでは、以下の CCS for z/OS コンポーネントが必要です。

- CCS for z/OS r11 SP8 をベースとする FMID

FMID	コンポーネント
CS91000	CAIRIM

注: CCS for z/OS r11 には、PTF RO27636 が必要です。

- CCS for z/OS r12 をベースとする FMID

FMID	コンポーネント
CAS9C00	CAIRIM

注: CCS for z/OS r12 には、PTF RO27110 が必要です。

- CCS for z/OS r14 をベースとする FMID

FMID	コンポーネント
CAS9E00	CAIRIM

付録 B: インターフェース オプション

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

- [TSO および CA Roscoe/ETSO インターフェースのサポート \(P. 205\)](#)
- [ISPF インターフェースのサポート \(P. 206\)](#)
- [VTAM インターフェースのサポート \(P. 208\)](#)
- [CICS インターフェースのサポート \(P. 210\)](#)
- [コンソール インターフェースのサポート \(P. 212\)](#)
- [ローカル 3270 デバイスインターフェースのサポート \(P. 214\)](#)
- [バッチインターフェースのサポート \(P. 214\)](#)

TSO および CA Roscoe/ETSO インターフェースのサポート

TSO (タイムシェアリング オプション) および (CA Roscoe/ETSO (CA Roscoe/拡張タイムシェアリング オプション) インターフェースによって、TSO または CA Roscoe/ETSO 経由で CA SYSVIEW にアクセスできます。

CA SYSVIEW TSO インターフェースまたは CA Roscoe/ETSO インターフェースを使用でき、追加のインストール手順を実行する必要はありません。

注: *sysview.CNM4BLOD* データ セットが linklist でない場合に、STEPLIB または JOBLIB の DD ステートメントを追加します。これを追加することで、CA SYSVIEW へのアクセスに TSO インターフェースを使用できるようになります。

CA SYSVIEW 用の TSO コマンド モジュールは **SYSV** という名前です。

CA Roscoe/ETSO からの CA SYSVIEW へのアクセス

CA Roscoe/ETSO インターフェースのインストール後は、CA Roscoe/ETSO から CA SYSVIEW にアクセスできます。

次の手順に従ってください:

1. SYSV プログラム名のエントリを EPL (Eligible Program List) に追加します。

MODESET 許可フラグ

フラグを Y (yes) に設定すると、MODESET 許可フラグが設定されます。

コマンド プロセッサ フラグ

フラグを CP (command processor) に設定すると、コマンド プロセッサ フラグが設定されます。

2. ROSCOE JCL 内の ETSOLIB DD ステートメントに、*sysview.CNM4BLOD* データ セットを追加します。

3. CA Roscoe/ETSO コマンド ラインで以下を入力します。

CALL SYSV

CA SYSVIEW が CA Roscoe/ETSO 環境で開始されます。

注: CA Roscoe/ETSO へのアプリケーション定義の詳細については、CA Roscoe のマニュアルを参照してください。

ISPF インターフェースのサポート

ISPF インターフェースを使用すると、ISPF 環境で CA SYSVIEW を実行して、ISPF の画面分割機能を利用することができます。

ISPF サポートのインストールは、データ セット *sysview.CNM4BISP* から TSO ログオン PROC の適切な ISPF DD ステートメントへメンバをコピーすることで行います。

注: ISPF インターフェース サポートを再インストールする場合は、新規 ISPF パネルおよび GSVXCMDS メンバもインストールします。

ISPF サポートの永続的なインストール

ISPF サポートを永続的にインストールして、ISPF の画面分割機能を使用することができます。

次の手順に従ってください:

1. データセット *sysview.CNM4BISP* 内のメンバを、TSO ログオン PROC 内の ISPTLIB DD ステートメントで指定されているデータセットにコピーします。

注: 可能な限り、ユーザ定義のデータセットを指定してください。
2. データセット *sysview.CNM4BISP* から TSO ログオン PROCO 内の ISPPLIB DD ステートメントで指定されているデータセットへ、以下のメンバをコピーします。
 - GSVX000M
 - GSVX000J
 - GSVX000D
 - GSVX00KM
 - GSVX000P
 - GSVX00KP

注: 可能な限り、ユーザ定義のデータセットを指定してください。
3. *sysview.CNM4BISP* (SAM@PRIM) メンバの SYSV または GSVX を含むステートメントを使用して、ISPF Primary Option Menu メンバ ISR@PRIM を更新します。ISR@PRIM メンバは、TSO ログオン PROC 内の ISPPLIB DD ステートメントで指定されているデータセット内にあります。

CA SYSVIEW が ISPF のメインメニューで選択オプションとして表示されます。

注: *sysview.CNM4BLOD* データセットが linklist でない場合に、STEPLIB または JOBLIB の DD ステートメントを追加します。これを追加することで、CA SYSVIEW へのアクセスに ISPF インターフェースを使用できるようになります。

ISPF サポートの動的なインストール

ISPF サポートを動的にインストールして、ISPF 画面分割機能を使用することができます。

次の手順に従ってください:

1. データセット *sysview.CNM4BSAM* の SYSVCLST メンバまたは SYSVREXX メンバを使用して、ISPF LIBDEF 機能へアクセスします。
これらのメンバは ISPF LIBDEF 機能を使用します。
2. CA SYSVIEW を呼び出すのに必要なパネル、テーブルおよびモジュールを一時的に割り当てます。

ISPF サポートの動的なインストールは完了しています。

VTAM インターフェースのサポート

VTAM インターフェースを使用して、CA SYSVIEW を VTAM 環境で実行できます。IBM ACF/VTAM Programmed Operator Interface を使用することにより、VTAM コマンドを入力し、CA SYSVIEW 内で結果を見ることができます。

VTAM サポートのインストール

VTAM インターフェース サポートのインストール後、VTAM から CA SYSVIEW を使用できます。

次の手順に従ってください:

1. データセット *sysview.CNM4BSAM* から SYS1.VTAMLST データセットへ、SYSVAPPL メンバをコピーします。
以下のサポートがデータセット SYS1.VTAMLST から利用可能になりました。
 - VTAM で CA SYSVIEW を使用する際に使用される APPLID。
 - CA SYSVIEW VTAM コマンドが使用する APPL ステートメント。

2. SYSVAPPL メンバの最初の APPL ステートメントで、ACBNAME パラメータを設定します。 VTAM インターフェースをから CA SYSVIEW にログインする際に使用する名前を選択します。 VTAM インターフェースを開始する際に、その名前を使用します。

CA SYSVIEW VTAM コマンドは残りの APPL ステートメント (SYSVPO03 から SYSVPO00 という名前の) を使用して、ACF/VTAM へコマンドをサブミットします。 ユーザがコマンドを同時に使用できるように、4つの APPL ステートメントが提供されています。 この数を増やすには、追加した各 APPL について、SYSVPO n APPL 名の末尾の数値を 1 づつ増分して、APPL ステートメントを追加します。

3. SYS1.VTAMLST データ セット内の ATCCON メンバに SYSVAPPL 名を追加します。

VTAM が開始すると、SYSVAPPL メンバがアクティブになります。

4. データ セット *sysview.CNM4BSAM* 内の USSTAB メンバにある CA SYSVIEW USSTAB エントリを、インストール USSTAB メンバへ追加します。

このエントリによって、CA SYSVIEW のログオン手順が簡略化されます。

USSTAB エントリを使用しない場合は、完全 LOGON コマンドを使用して、VTAM から CA SYSVIEW へログインします。

5. USSTAB メンバ内の CMD と DEFAULT のパラメータを、この手順の 2 番目で ACBNAME パラメータに使用した値に設定します。

6. USSTAB テーブルをアセンブルし、VTAMLIB 連結内の適切なデータ セットにそれを配置します。

注: ユーザのサイトで適切な USSTAB がすでに利用可能である場合は、この手順をスキップします。

7. MODIFY TABLE コマンドを使用して、VTAM に USSTAB を再ロードします。

CA SYSVIEW の変更がシステムに組み込まれます。 VTAM インターフェース サポートのインストールが完了しました。

注: VTAM インターフェースの開始方法については、「Administration Guide」を参照してください。

CICS インターフェースのサポート

CICS インターフェース サポートによって、CICS セッションから CA SYSVIEW にログオンし、インターフェースをモニタおよびカスタマイズできます。

CICS インターフェースでは、CICS データ収集オプションがアクティブである必要はありません。

注: CICS インターフェース サポートのインストール後、およびログオン前に、CA SYSVIEW ユーザアドレス空間で CICS インターフェースを開始します。 CICS インターフェースの開始方法および使用方法については、「*Administration Guide*」を参照してください。

CICS ユーザ ID EXIT ルーチン

以下で CICS ユーザ ID EXIT ルーチンについて説明します。

- ユーザ ID EXIT ルーチンは、CICS ユーザのユーザ ID を取得します。このルーチンは、オンラインインターフェースに適切な CA SYSVIEW プロファイルデータセットメンバーを提供します。このユーザ ID は CA SYSVIEW セキュリティでも使用されます。
- CA SYSVIEW ロードライブラリで配布されているデフォルト ユーザ ID EXIT は、CA SYSVIEW にユーザ ID を渡しません。そのため、CA SYSVIEW は、ユーザ ID の入力を促すメッセージをユーザに対して表示します。
- デフォルトの EXIT のソースは `sysview.CNM4BSAM` データ セットの `GSVXCXT1` メンバに存在します。ユーザがアセンブルを行う必要はありません。

セキュリティシステムを使用するための EXIT の変更

一部の CICS システムには独自の EXIT セキュリティ システムがあります。 EXIT を変更して、セキュリティ システムの制御ブロックからユーザ ID を取得できます。

次の手順に従ってください：

1. *sysview.CNM4BSAM* データ セットから **GSVXCXT1** メンバを取得します。
2. セキュリティ要件を満たすように **GSVXCXT1** メンバを変更します。
3. **GSVXCXT1** メンバをアセンブルし、それを **GSVXCXT1** という名前でデータ セット *sysview.CNM4BLOD* にリンクします。

ユーザのセキュリティ システムが **CA SYSVIEW** に定義されます。

CICS トランザクション終了 EXIT ルーチン

以下で CICS トランザクション終了 EXIT ルーチンについて説明します。

- このルーチンは、**CA SYSVIEW** オンラインインターフェース トランザクションの終了時に、別のトランザクションにコントロールを渡すことができます。
- デフォルトの EXIT のソースは、*sysview.CNM4BSAM* データ セット内の **GSVXCXT2** メンバに存在します。ユーザがアセンブルを行う必要はありません。

トランザクション終了 EXIT の変更

トランザクション終了 EXIT を変更して、コントロールを渡すトランザクションを指定することができます。

次の手順に従ってください：

1. データ セット *sysview.CNM4BSAM* から **GSVXCXT2** メンバを取得します。
2. 必要に応じて **GSVXCXT2** メンバを変更します。
3. **GSVXCXT2** メンバをアセンブルし、それを **GSVXCXT2** という名前でデータ セット *sysview.CNM4BLOD* にリンクします。

コントロールが、指定したトランザクションに渡されます。

コンソール インターフェースのサポート

CA SYSVIEW コンソールインターフェースによって、CA SYSVIEW コマンドとの通信、コマンドの実行をコンソールから行うことができます。インターフェースは CA GSS 製品を使用して実装されます。CA GSS は CA Common Services for z/OS と共にインストールされる製品で、CA SYSVIEW のライセンシングに必要です。

CA GSS が CA SYSVIEW と通信を行う仕組み

CA GSS は提供されたアプリケーションプログラム インターフェイス GSVXAPIE を使用して CA SYSVIEW と通信します。

初期化処理中、CA GSS は以下のように通信を行います。

- CA SYSVIEW の長期実行セッションを開始するサーバを開始します。デフォルトのサーバ名は SYSVCONS です。CA SYSVIEW に向けたコンソールコマンドはすべてこのサーバ経由でルーティングされます。
- IMOD\$SYSVIEWE_INIT を実行します。この IMOD は CA SYSVIEW サービスを開始します。

終了処理中、CA GSS は IMOD\$SYSVIEWE_TERM を実行します。この IMOD は CA SYSVIEW サービスを終了します。

コンソール インターフェースの有効化

コンソール インターフェースを有効にするには、以下の条件を満たす必要があります。

- CA SYSVIEW がインストールされている必要があります。
- CA GSS がインストールされアクティブである必要があります。
- CA GSS ランタイム パラメータ メンバ RUNPARM に、以下のステートメントが存在している必要があります。

```
COMMAND VERB SYSV IMOD SYSVIEW_CONSOLE
PRODUCT SYSVIEWE
ADDRESS SYSVIEWE GSvxAPIE 15 DETACH TYPE 0
ISET     SYSVIEWE DSN sysview.CNM4BIMD SSID ISRV LOAD
```

注: RUNPARM メンバは、上述のステートメントの一部またはすべてをすでに含んでいる場合があります。 SAMPLIB メンバ GSS はこれらのステートメントを含んでいます。

コンソール インターフェースのカスタマイズ

ユーザ サイトの要件を満たすように、コンソール インターフェースをカスタマイズできます。

次の手順に従ってください:

1. IMOD SYSVIEW_CONSOLE 内の以下のオプションのいずれかまたはすべてを選択します。
 - すべての出力メッセージにプレフィックスを添付します。
 - WTO ルート コードを指定します。
 - WTO 記述子コードを指定します。
 - メッセージの最大長を指定します。
 - データ行の末尾を表示します。
 - データ行の最大数を指定します。
2. 各オプションをカスタマイズし保存します。

これらの操作を完了すると、ユーザのコンソール インターフェースがカスタマイズされます。

ローカル 3270 デバイス インターフェースのサポート

CA SYSVIEW ローカル 3270 デバイス インターフェースを使用すると、ローカルで接続された任意の 3270 デバイスから専用モードで製品を実行できます。sysview.SAMPJCL データ セットの SYSVLCL PROC をシステム プロシージャ ライブラリのいずれかにコピーして、インターフェースをインストールします。

このインターフェースは以下の場合に使用します。

- TSO と VTAM がアクティブでない場合でも、CA SYSVIEW でセッションを開始する場合。
- JES がアクティブでない場合。
- SYSVLCL PROC が SYS1.PROCLIB に配置され、プロシージャの開始時に SUB=MSTR を指定する場合。

注: SYSVLCL ローカル 3270 デバイス インターフェース プロシージャの開始方法については、「*Administration Guide*」を参照します。

バッチ インターフェースのサポート

バッチインターフェースを使用すると、CA SYSVIEW でバッチ処理を実行することができます。バッチインターフェースを使用するためのインストール プロシージャは必要ありません。

注: 詳細については、「*Administration Guide*」を参照してください。